

# 自己点検・評価報告書

(平成29年度分)



# 目 次

## 序 章

学長あいさつ	1
長野県看護大学の概要	2

## 第1章 学事と組織

第1節 教育理念・教育目標	4
第2節 大学組織	8
第3節 学生の状況	16

## 第2章 年間の活動状況

第1節 学部・研究科の行事及び教授会活動	20
第2節 学部の教育活動	24
第3節 研究科の教育活動	27
第4節 看護実践国際研究センターの活動	29

## 第3章 教員の研修・研究、社会活動

第1節 研修	31
第2節 研究活動	33
第3節 社会・地域貢献活動	45

## 第4章 社会貢献

第1節 公開講座	50
第2節 分野の活動	50

## 第5章 学内委員会等の活動

第1節 運営委員会	52
第2節 広報・交流委員会	52
第3節 教務委員会	54
第4節 実習委員会	56
第5節 入試検討委員会	59
第6節 図書委員会	62
第7節 紀要委員会	64
第8節 学生委員会	65
第9節 ネットワーク推進委員会	68
第10節 FD・SD委員会	70
第11節 評価委員会	72
第12節 倫理委員会	73
第13節 ハラスメント防止委員会	75
第14節 動物実験委員会	77
第15節 感染症対策委員会	78
第16節 コンソーシアム信州運営委員会	79
第17節 防災委員会	80

第 18 節	安全衛生委員会	84
第 19 節	研究科委員会教務部会	84
第 20 節	研究科委員会入試部会	86
<b>第 6 章 学生生活及び学生への支援</b>		
第 1 節	学生支援活動	90
第 2 節	キャリア形成支援	93
第 3 節	保健厚生	97
第 4 節	修学資金等	98
第 5 節	サークル活動及び大学祭	100
第 6 節	関係団体の活動	101
<b>第 7 章 施設の管理運営</b>		
第 1 節	施設の状況	107
第 2 節	財政の状況	113
<b>第 8 章 点検・評価総括</b>		
		115

## 自己点検・評価報告書（平成 29 年度）の刊行にあたって

平成 23 年度に、自己点検・評価報告書（報告書）が刊行されて以来、今回で 7 刊目の発刊にあたります。大学の年間活動の概況をまとめることは、大変な作業ではありますが 1 年間の取り組みを整理し、次年度への課題を認識することにつながります。つまりは、報告書の刊行は、大学の「自律」と「自治」の取り組みの証と考えます。

私たちは入学から卒業までの、大学教育を充実させるために教育評価を行ない、教育や大学運営の PDCA サイクルを回し、その積み重ねが確かな歩みとなるよう努力しなければなりません。看護系大学の増加に伴って看護教育の質保証が大きな課題となっており、平成 32 年には、分野別評価がスタートする予定と聞いています。本学においても、教育科目の適切性並びに教育目的・目標に対する学生自身の達成評価を可能とする仕組みの構築と学習成果の可視化に向けた検討を進めていく課題があります。

本学は開学以来、学校教育法第 109 条の認証評価機関である大学基準協会の 2 回目の審査を平成 23 年に終え、平成 30 年の 3 回目の受審に向け準備を進めています。平成 27 年 7 月末には、努力課題に対する報告を行い、基準協会から再度報告を求める事項はありませんでした。

平成 29 年度は、中期構想 4 年目の年にあたり、学長退任に伴う総括をする年となりました。教員の業績評価や業務評価を導入し、看護実践国際研究センターの新構想に基づいた活動がスタートして 2 年目を迎えました。また、新たな取り組みとして出前講座や教員が互いの授業を参観する FD 活動が後期から始まりました。

現在、文部科学省は高大接続システム改革を推進しており、大学入学者選抜改革と大学教育改革が進められています。大学運営にとって少子化という厳しい時代に向かっていますが、県立の大学としての使命を果たすためにさまざまな課題に取り組みながらも、教員と事務局が協働しながら社会から期待される人材育成に邁進しなければなりません。そして、教員一人一人が着実に研究や社会・地域貢献活動を推進し、地域の公立の大学としての使命を果たしたいと思います。

平成 30 年 3 月 20 日

長野県看護大学長 清水嘉子

## 長野県看護大学の概要

### 1 設置の趣旨・目的

人口の少子高齢化等の社会環境の変化、医療の専門化・多様化・高度化等の対応に指導的役割を果たし得る資質の高い人材を育成するとともに、看護学の発展に寄与し、看護学の研究・研修の拠点となることを目的とする。

### 2 学部・学科の構成、入学定員等

構 成	修業年限	定 員	総定員	卒業（修了）時取得可能資格
看護学部看護学科	4年	入学定員 80名 編入学定員 (3年次)10名 (H28から募集停止)	340名	学士（看護学） 看護師国家試験受験資格 保健師国家試験受験資格 助産師国家試験受験資格（選択） 養護教諭二種（保健師免許取得後）
大学院看護学研究科 看護学専攻 博士前期課程	2年	16名	32名	修士（看護学）
大学院看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程	3年	4名	12名	博士（看護学）

### 3 施 設

- (1) 所在地 長野県駒ヶ根市赤穂1694番地  
 (2) 敷地面積 75,733.00㎡  
 (3) 建物延床面積 19,144.54㎡

[建物等の面積及び主な施設・設備]

区 分	面 積 (㎡)	主 な 施 設 ・ 設 備
管 理 棟	2,242.13	学長室 事務室 保健室 会議室 食堂 売店
教育研究棟	9,079.39	講義室 演習室 実習室 実験室 情報処理教室 研究室
図 書 館	1,200.62	閲覧室68席 キャレル12席 グループ学習室 AVルーム
体 育 館	893.68	バスケットボール1面 バレーボール2面
屋内プール棟	1,131.64	25m6コース（内スロープコース1）健康増進研究室
講 堂	962.43	511席 AV設備 ピアノ
学 生 棟	802.21	学生ホール 自治会室 クラブ室
非常勤講師宿舎	328.00	1棟8室
学生寄宿舎	2,504.44	2棟80室
グラウンド	15,948.00	250mトラック テニスコート4面
有酸素運動研究コース	12,505.00	コース延長600m
語らいの並木		90m×2

### 4 沿 革

- 昭和60(1985)年 5月 ・県行政審議会答申  
 「看護婦養成体制の質的強化を図るため、看護専門学校は、将来一校体制(看護  
 平成2(1990)年 10月 ・県看護婦等養成確保対策研究会報告  
 「高度な看護教育を行なうため4年制大学を設置する必要がある。」

平成 3(1991) 年	6 月	・看護大学設置決定
	8 月	・県立看護大学設置準備委員会の設置
平成 5(1993)年	4 月	・看護大学設立準備室の設置
平成 6(1994) 年	12 月	・看護学部看護学科設置認可
*****		
平成 7(1995)年	4 月	・長野県看護大学開学(看護学部看護学科定員 80 名)
		・第1回入学式
	6 月	・開学式
平成 9(1997)年	4 月	・3年次編入制度(定員 10 名)開始
平成 10(1998)年	4 月	・科目等履修生制度開始
	12 月	・長野県看護大学大学院看護学専攻博士前期課程設置認可
平成 11(1999)年	3 月	・第 1 回卒業式
	4 月	・大学院博士前期課程(定員 16 名)開設
	11 月	・屋内プール棟完成
平成 12(2000)年	12 月	・長野県看護大学大学院看護学専攻博士後期課程設置認可
平成 13(2001)年	3 月	・第 1 回大学院修了式
	4 月	・大学院博士後期課程(定員 4 名)開設
	7 月	・長野県看護大学とサモア国立大学との相互協力に関する協定の締結
平成 15(2003)年	2 月	・大学院小児看護分野 CNS コース認定申請承認
	4 月	・社会人特別選抜制度開始
	7 月	・長野県看護大学と放送大学との間における単位互換に関する協定の締結
	12 月	・大学院老年看護分野 CNS コースの認定申請承認
平成 16(2004)年	7 月	・長野県看護大学とカリフォルニア大学サンフランシスコ校との相互協力に関する協定の締結
	11 月	・創立 10 周年記念式典
平成 17(2005)年	1 月	・長野県内 7 大学単位互換に関する協定締結
平成 18(2006)年	4 月	・大学院に里山・遠隔看護学分野を開設
平成 19(2007)年	4 月	・大学基準協会の大学基準に適合していると認定(平成19年4月1日～平成24年3月31日)
平成 20(2008)年	4 月	・長野県組織規則に看護実践国際研究センターを位置付け
平成 22(2010)年	3 月	・駒ヶ根市と災害時における協力体制に関する協定を締結
	11 月	・健康センター開設
平成 23(2011)年	2 月	・大学院小児看護分野の CNS コースの更新申請承認
	4 月	・講座の再編
	6 月	・認定看護師教育課程開講(皮膚・排泄ケア分野、感染管理分野)
平成 24(2012)年	3 月	・大学院老年看護分野の CNS コースの更新申請承認
		・大学基準協会の大学基準に適合していると認定(平成24年4月1日～平成31年3月31日)
	4 月	・大学院長期履修制度開始
平成 25(2013)年	6 月	・認定看護師教育課程認知症看護分野開講、皮膚・排泄ケア分野休講
平成 26(2014)年	2 月	・駒ヶ根市と長野県看護大学との包括的連携に関する協定締結
	3 月	・大学院精神看護分野 CNS コース(38 単位)の認定申請承認
	11 月	・創立 20 周年記念式典
	12 月	・長野県立こころの医療センター駒ヶ根、伊那中央病院、昭和伊南総合病院、飯田市立病院と看護連携型ユニフィケーション事業基本協定締結
平成 28(2016)年	4 月	・3年次編入生募集停止
平成 29(2017)年	4 月	・認定看護師教育課程感染管理分野休講
		・伊那神経科病院と看護連携型ユニフィケーション事業基本協定締結
平成 30(2018)年	3 月	・大学院小児看護分野の CNS コース(38 単位)の認定申請承認
		・大学院老年看護分野の CNS コース(38 単位)の認定申請承認

## 第1章 学事と組織

### 第1節 教育理念・教育目標

#### (1) 教育理念

本学は、1995年に長野県立では初めて設立された4年制の看護の単科大学であり、学年進行に沿って、大学院博士前期課程、博士後期課程を開設してきた。それらの時期、および2006年の学部新カリキュラム導入時には、教育理念および教育目標の見直しを行った。教育理念の見直しは、これまでの学生個々人の資質を向上させることに加えて、看護職者としての基本である人間理解、特に人間の生のありようを理解すること（「さまざまな生を営む人間を深く理解し」）を盛り込んでおり、その教育理念は学部・研究科とも共通である。

#### ○本学の教育理念

学生個々人のもつ可能性が最大限に開花することを目指し、自立性、主体性を育むとともに、さまざまな生を営む人間を深く理解し、人々への配慮が自然にできる豊かな人間性と幅広い視野を養う。

これらを基盤として、看護実践に関する総合的な能力を養成し、看護の社会的機能を担い人々の健康福祉の向上に貢献する人材を育成する。さらに、看護の発展に寄与する実践者、教育者及び研究者を育成する。

#### (2) 学部の教育目標

1. 豊かな人間性と幅広い視野を養う。
  - (1) 学びの体験を通して命の尊さに触れ、人間の理解を深める。
  - (2) 豊かな感受性を養い、想像力と洞察力を身につける。
  - (3) さまざまな文化や社会の中で生活する人々を理解し、多様な価値を尊重できる。
2. 看護専門職者として社会に貢献できる能力を養う。
  - (1) 生命の尊厳を理解し、人間としての権利を尊重して主体的に行動できる。
  - (2) 看護の対象となる人を身体的、精神的、社会文化的側面から全人的に理解できる。
  - (3) 対象となる人の主体性を尊重し、協力して援助関係を築くことができる。
  - (4) あらゆる健康段階にある人々に対して、よりよい社会生活を支援する看護実践を展開できる。
  - (5) 科学的な根拠に基づいて適切な判断を下し、問題を解決することができる。
  - (6) 自らの看護実践をふりかえり、新たな課題に取り組むことができる。
  - (7) 専門職としての責任を自覚して行動し、リーダーシップを発揮できる。
  - (8) 保健・医療・福祉等に携わる人々と協働し、看護をより有効に機能させることができる。
3. 看護実践における課題の究明に取り組む能力を養う。
  - (1) 看護実践における課題を見出すことができる多角的な視点を身につける。
  - (2) 課題解決にむけた創造的で論理的な思考能力を身につける。

### (3) 学部のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

卒業までに所定の単位を修得し、看護の基盤となる豊かな人間性と幅広い視野を備え、深い人間理解にもとづいた看護を創造的に実践する能力を有すると認められる者に、学士（看護学）の学位を授与します。

- 看護の対象となる人と援助関係を築くことができる
- 科学的なアセスメントに基づいて看護を実践することができる
- ケアに関わる人々と協働することができる
- 看護職者としての専門性を生涯にわたって高めていくことができる

### (4) 学部のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

学生個々の可能性を最大限開花させるという教育理念のもと、深く人間を理解し豊かな人間性を持った看護専門職の育成のために、4年間のカリキュラムを以下のように構成しています。

#### 【 人間理解の基礎科目 】

看護を学ぶ上で必要不可欠である、人を深く知るための能力、幅広い視野と創造性を養うことを目的としています。

生物学的な存在としての「ヒト」のみならず、自然・文化・社会の中でさまざまな環境と深く関わりながら生活を営む「人」を総体として理解する能力を育むために、以下の2つの科目群で構成されます。

1. 生命を維持する仕組みと機能
2. 人と人を取り巻く環境

#### 【 看護専門科目 】

看護専門職者としての基盤となる力を育み、看護に関わる諸問題をとらえて論理的に説明し、問題解決に向けた実践・研究能力を養うことを目的としています。以下の4つの科目群で構成されます。

1. 人と健康
2. 看護の基本
3. 看護の実践
4. 看護の実践と統合

このようなカリキュラムをとおして、看護職者としての基礎的な能力を養うとともに、主体性と自律性をもった専門職として生涯にわたり学び続ける力を育みます。

また、長野県民の健康長寿を支える県内の豊かな健康資源について学生が理解し、多様な場で様々な健康レベルに合わせた看護実践能力を身に付けることができるよう、地域交流を積極的に取り入れています。

さらに、国際的な視野を持って地域社会に貢献できる看護実践者の育成を目指し、海外の大学との教育協定等により国際的に看護を学ぶ場を提供しています。

分類	科目群	1 学 年		2 学 年		3 学 年		4 学 年	
		前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期
人間理解の基礎科目	生命を維持する仕組みと機能	生物学 化学 運動実技・理論Ⅰ 人体の構造と機能Ⅰ 人体の構造と機能Ⅱ 情報処理科学	生化学 薬理学  人体の構造と機能演習  <i>生命科学演習</i>		運動実技・理論Ⅱ	運動理論			
	人と人を取り巻く環境	統計学 英文読解の基礎 英会話の基礎 教育学 社会学 信州学 教の語と教養数学 英語 コミュニケーション論 心理学	倫理学 医療英文読解演習Ⅰ 医療英会話の基礎Ⅰ	医療英文読解演習Ⅱ 医療英会話の基礎Ⅱ 哲学 文化人類学 経済学 人間工学	法学 生命倫理	保健統計学 英会話演習 英語文化研究 論理学	芸術と人間		仏語
看護専門科目	人と健康	保健・医療・福祉システム看護論Ⅰ	病理学 病理学演習 保健・医療・福祉システム看護論Ⅱ 公衆衛生学	疾病学Ⅰ 疾病学Ⅱ 感染学 疫学	感染学演習	看護栄養学	遺伝と人間		
	看護の基本	看護学概論 基礎看護方法Ⅰ 基礎看護実習Ⅰ	フィジカルアセスメント 基礎看護方法Ⅱ	看護過程の理論と展開	基礎看護実習Ⅱ	症状マネジメント論	看護倫理		
	看護の実践		慢性期看護概論 老年看護概論 精神看護概論Ⅰ 母性看護概論 小児看護概論Ⅰ  地域看護概論 在宅ケア論	慢性期看護方法 急性期看護概論 老年看護方法Ⅰ 精神看護概論Ⅱ 母性看護方法Ⅰ 小児看護概論Ⅱ 小児看護方法Ⅰ 地域看護方法Ⅰ 在宅ケア方法Ⅰ 家族援助論 多文化共生看護学	急性期看護方法 老年看護方法Ⅱ 精神看護方法 母性看護方法Ⅱ 小児看護方法Ⅱ	成人看護実習 老年看護実習 精神看護実習 母性看護実習 小児看護実習 地域看護実習 在宅看護実習	地域母子保健 助産方法Ⅰ 助産方法Ⅲ	助産方法Ⅱ	助産実習
	看護の実践と統合					保健・医療・福祉システム看護論Ⅱ 国際看護学Ⅰ 国際看護学Ⅱ 国際看護実習	看護研究方法 医事法学	看護管理論 看護統合実習 助産業務管理	看護論 看護教育論 卒業研究

### (5) 学部のアドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

#### 【求める学生像】

本学は、看護師、保健師、助産師として長野県をはじめ日本各地の医療・保健機関や自治体において、多様な文化を理解し地域社会の人々の健康と幸せを守ることに貢献できる看護実践者の育成を目指しています。

このような看護実践者の育成を目指す本学では、以下のような人を求めています。

- ①自然や人間の様々な現象に興味を持ち、積極的に学ぼうとする人
- ②相手の話に耳をよく傾け、自分の考えを適切に表現しようとする人
- ③人間の尊厳を重んじ、相手の個性を尊重して協調しようとする人
- ④問題に自ら進んで向き合い、柔軟な考え方で解決しようとする人
- ⑤看護専門職として社会に貢献しようとする人

#### 【選抜方法】

本学の教育理念、求める学生像に見合った人を選抜するため、一般選抜入試(前期日程、後期日程)と特別選抜入試(推薦、社会人)を実施しています。

一般選抜入試では、入学者の選抜は、看護学を学ぶ上で必要な基礎学力を有する人を求めるため大学入試センター試験を課し、本学が実施する小論文及び面接並びに調査書の審査の結果を総合して行います。特別選抜入試(推薦)では、本学が実施する小論文(英語の課題文の読解を含む。)及び面接並びに調査書等の審査の結果を総合して行います。

## (6) 研究科の教育目標

### 1. 博士前期課程

- (1) 専門分野に関連する理論と技術を学び、質の高い看護実践能力を養う。
- (2) 研究のプロセスを修得し、研究に必要な基礎的能力を養う。
- (3) 国内外の学術的な場において研究成果を公表する能力を養う。
- (4) 専門性を基盤にして他職種と協働し、調整する能力を養う。

### 2. 博士後期課程

- (1) 看護学の発展に寄与する研究を独立して行う能力を養う。
- (2) 国内外で学術的な交流をする能力を養う。
- (3) 学際的な視野に立ち、研究活動および保健医療福祉活動に貢献する能力を養う。
- (4) 専門性を基盤に、優れた人材を育成する教育能力を養う。

## (7) 研究科のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

### 1. 博士前期課程

課程修了の要件を満たし、次に該当する者に修士（看護学）の学位を授与する。

広い視野を持ち看護学に関する専門分野の学識を深め、科学的な思考力を身に付け、保健医療福祉の現場において、研究成果を活用できる高度な専門知識と実践能力を有する者。

修士論文コースにおいては、看護の質向上に貢献できる研究能力を備えた者。

専門看護師コースにおいては、高度な専門知識と実践能力に基づき、多様な健康課題を解決でき、看護の質向上に貢献できる者。

### 2. 博士後期課程

学際的な視野を持ち、看護学の発展に寄与する研究を独立して行う能力ならびに優れた人材を育成する教育能力を有し、課程修了の要件を満たした者に博士（看護学）の学位を授与する。

## (8) 研究科のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

### 1. 博士前期課程

博士前期課程では、看護学に関する理論と実践を専門的かつ学際的に探求することを目指し、修士論文コースと専門看護師コースを設け、以下のようにカリキュラムを編成している。

- (1) 広い視野と創造性を養うための科目から編成される「共通選択科目」（8 単位）、修士論文コース・専門看護師コースどちらのコースにおいても看護学の基礎的能力と倫理観を養うための「必修科目」（修士論文コース 12 単位、専門看護師コース 8 単位）を置いている。
- (2) 専門性を深め研究遂行能力を養う、または専門職の実践力を育てるための 4 領域 11 分野において、特論（4 単位以上）、演習（6 単位）を置いている。
- (3) 修士論文の作成にあたっては「修士論文の指導・審査の流れ」に基づき、倫理委員会の承認を得た後、論文作成に着手する手続きを課している。
- (4) 修士論文コースにおいては、学際的な視野から教育を行うために主指導教員に加え副指導教員を配置し、「看護学課題研究」（6 単位）を課している。
- (5) 専門看護師コースにおいては、卓越した専門的能力を育成し、保健医療福祉分野でのケアと倫理的課題について調整する能力を養うため、「専門科目」の特論、演習、実習を置いている。これに加え、実践者としての分析・考察力を養うため「看護実践課題研究」（2 単位）を課している。

(6) 修士論文審査の透明性と客観性を確保するため「学位規程に関する内規」を設け、これに基づいた指導と審査を行うことで論文の質保証に努めている。

## 2. 博士後期課程

博士後期課程では、看護学の発展に貢献する教育者・研究者を養成するために、以下のようにカリキュラムを編成している。

- (1) 学際的視野を広げるため、「共通選択科目」（4単位以上）を置いている。
- (2) 領域別専門科目9分野において、専門的な研究能力と倫理観を養うため、特論（2単位）、演習（4単位）を置いている。
- (3) 博士論文の作成にあたっては、「博士論文の指導・審査の流れ」に基づき、倫理委員会の承認を得た後、博士論文作成に着手する手続きを課している。
- (4) 博士論文審査の透明性と客観性を確保するために「学位規程に関する内規」を設け、これに基づいた指導と審査を行うことで論文の質保証に努めている。

## (9) 研究科のアドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

### 【修士課程】

1. 臨床現場の課題を探求し、専門的で質の高い看護実践者となることを目指す人
2. 基礎的研究能力を培い、看護学の探求を目指す人
3. 看護の専門性を基に他職種と協働し、地域の人々の健康への貢献を目指す人

### 【博士課程】

1. 基礎的な研究能力を有し、人々の健康の保持・増進および生活の質の向上に関連した研究に自立して取り組む人
2. 専門分野で修得した高度な看護実践能力を国際的・学際的な視点から養い、理論的・実践的に発展させる人
3. 高度な研究能力や看護実践能力を看護実践の質の向上や人材の育成に役立てられる人

## 第2節 大学組織

### (1) 組織

#### 1) 組織図

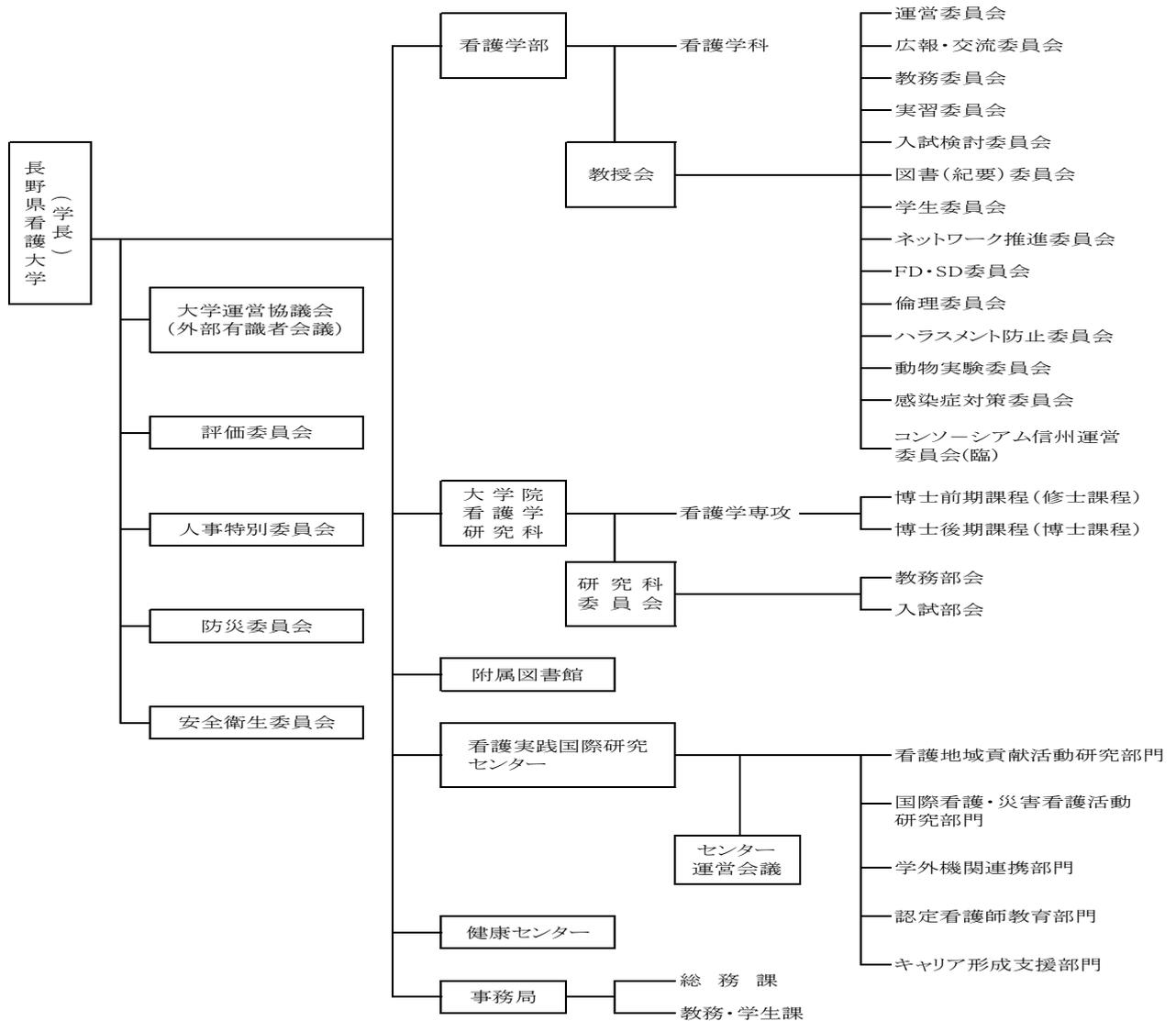
本学の管理運営体制については、設置主体が県であり、知事の指揮監督の下に置かれ、予算については毎年県議会の承認を得るとともに、執行状況について監査委員の監査を受けている。

こうした体系の中で、学内体制は表2-1のとおりとなっており、大学全体の管理運営責任を負う学長の下、大学運営に関する重要事項を審議する機関として教授会及び研究科委員会がある。

また、本学では、教員、大学院生等が専門領域・講座を超えて研究プロジェクトに参画、地域貢献を行う看護実践国際研究センターを設置しており、看護地域貢献研究部門他4つの部門が置かれ、各々活動を行っている。

事務局の体制は、大学運営全般を行う総務課と学生支援及び教務全般を業務とする教務・学生課との2つの課で成り立っている。

(表2-1)  
(平成29年4月1日現在)



2) 組織構成

①学部は、平成22年度に看護学体系における各専門分野間の連携を深めるため、学部講座制の見直しを行い、平成23年度から新たに4つの大講座に再編を行ったものである。組織構成は、表2-2のとおりである。

②研究科は、基本的には学部の教育研究組織の上のせる形で組織されているが、学部の講座を超えた5つで構成している。(表2-3) そのうち、広域看護学領域の里山・遠隔看護学分野は、本学が立地する長野県の地域特性に配慮した地域貢献の視点からの看護研究の領域・分野として平成18年度から開設している。

表2-2 学部の組織構成

人間基礎科学講座	哲学・倫理学
	心理学
	社会・経済学
	健康・保健学
	生物・化学
	英語・英米文化学
	基礎医学・疾病学
病態・治療学	
基礎看護学講座	基礎看護学
発達看護学講座	母性・助産看護学 小児看護学 成人看護学
広域看護学講座	老年看護学 精神看護学 地域・在宅看護学

表2-3 研究科の組織構成

看護基礎科学領域	病態機能学分野
	病態治療学分野
基礎看護学領域	基礎看護学分野
	看護管理学分野
発達看護学領域	母性・助産看護学分野
	小児看護学分野
	成人看護学分野
	老年看護学分野
広域看護学領域	精神看護学分野
	地域・在宅看護学分野
	里山・遠隔看護学分野
専門関連領域	哲学・倫理学
	心理学
	社会・経済学
	健康・保健学
	生物・化学
	英語・英米文化学

また、研究科には、質の高い看護実践能力を養うという本学研究科博士前期課程の教育目標に基づいて、平成 13 年度に小児看護学分野・老年看護学分野、平成 24 年度に精神看護学分野の専門看護師（以後「CNS」と省略する。）コースを開設している。

### 3) 大学運営協議会

#### ① 概要

県立大学としてその運営に広く県民の意見を反映させるため、運営協議会を設置している。本協議会は、下表のとおり学外の委員で構成されている。学内規程として「長野県看護大学運営協議会規程」を設けて、協議会の審議結果等を大学運営に反映させるよう定めている。

運営協議会委員名簿（任期：平成 29 年 4 月～平成 31 年 3 月）

区分	職	氏名	所 属
地方公共団体	駒ヶ根市長	杉本 幸治	市長会
看護現場	副院長 看護部長	菅沼 ふじ子	飯田市立病院
〃	副院長 看護部長	斎藤 依子	長野県立こども病院
〃	協議会長	川口 寿賀糸	長野県訪問看護ステーション連絡協議会
保健現場	課長	中村 杏子	飯島町健康福祉課
教育研究機関	学部長	坂江 千寿子	佐久大学
〃	特任教授	笠原 悦男	松本歯科大学
〃	学部長	川島 良雄	長野大学社会福祉学部
学識経験者	小児科部長	藪原 明彦	伊那中央病院
卒業生	看護師長	久保 貴三子	諏訪中央病院

（平成 29 年 11 月 1 日現在、敬称略）

#### ② 平成 29 年度の開催概要

開催日	開催場所	協議事項等
平成 29 年 11 月 1 日	看護大学 大会議室	(1)看護大学の概要について ・大学の概要 ・入学者・卒業生の状況 (2)看護大学中期構想の進捗状況について (3)高大接続改革について (4)平成 29 年度 新規事業について ア ESCO事業 イ 出前講座 ウ 卒業生相談窓口の設置

## (2) 教職員

### 1) 教職員名簿

#### ① 学部専任教員

(平成29年5月1日現在)

講座	分野	職位	氏名
		学長	清水嘉子
		学部長	安田貴恵子
人間基礎科学	哲学・倫理学	准教授	屋良朝彦
	心理学	准教授	松本淳子
	社会・経済学	准教授	座馬耕一郎
	健康・保健学	教授	北山秋雄
		講師	秋山 剛
	生物・化学	教授	太田克矢
	英語・英米文化学	教授	西垣内磨留美
		准教授	井村俊義
	基礎医学・疾病学	教授	喬 炎
		助教	三浦大志
助教		島袋 梢	
病態・治療学	教授	坂田憲昭	
	助教	中畑千夏子	
基礎看護学	基礎看護学	教授	伊藤祐紀子
		教授	金子さゆり
		准教授	宮越幸代
		助教	近藤恵子
		助教	那須淳子
		助教	上條こずえ
		助教	田中真木
		助教	小林由美子
		助手	田村かおり
発達看護学	母性・助産看護学	准教授	阿部正子
		准教授	藤原聡子
		講師	西村理恵
		助教	塩澤綾乃
		助教	佐々木美果
		助教	廣瀬紀子
		助手	井出彩織

※育休（2名）を除く

講座	分野	職位	氏名
発達看護学	小児看護学	教授	内田雅代
		准教授	竹内幸江
		助教	白井 史
		助教	高橋百合子
	成人看護学	助教	足立美紀
		教授	安東由佳子
		講師	浦野理香
		助教	熊谷理恵
		助手	牛山陽介
		助手	伊藤祐季
広域看護学	老年看護学	教授	渡辺みどり
		准教授	千葉真弓
		助教	細田江美
		助教	曾根千賀子
		助教	有賀智也
		助手	久保知奈津
		助手	白川あゆみ
	精神看護学	教授	岡田 実
		講師	東 修
		講師	有賀美恵子
		助教	長南幸恵
		助教	森野貴輝
		助教	安田貴恵子
	地域・在宅看護学	講師	御子柴裕子
		講師	柄澤邦江
		講師	小野塚元子
		助教	酒井久美子
助教		村井ふみ	
助手		中林明子	
助手		下村聡子	
認定看護師教育課程		主任教員	細田江美
		専任教員	高山陽子

#### ② 大学院の領域別科目担当専任教員

(平成29年5月1日現在)

領域	分野	氏名等	
	研究科長	渡辺 みどり	
看護基礎科学	病態機能学	教授 喬 炎※ 教授 太田 克矢※	
	病態治療学	教授 坂田 憲昭※	
基礎看護学	基礎看護学	教授 伊藤 祐紀子※ 准教授 宮越 幸代※	
	看護管理学	教授 金子さゆり※	
発達看護学	母性・助産看護学	教授 清水 嘉子※ 准教授 阿部 正子 准教授 藤原 聡子 講師 西村 理恵	
		小児看護学	教授 内田 雅代※ 准教授 竹内 幸江
			成人看護学

育休（1名）を除く

領域	分野	氏名等		
広域看護学	老年看護学	教授 渡辺 みどり※ 准教授 千葉 真弓		
		精神看護学	教授 岡田 実※ 講師 東 修 講師 有賀 美恵子	
	地域・在宅看護学		教授 安田 貴恵子※ 講師 柄澤 邦江 講師 小野塚元子	
			里山・遠隔看護学	教授 北山 秋雄※ 准教授 座馬耕一郎※ 講師 秋山 剛※
	専門関連	倫理学・哲学		准教授 屋良 朝彦※
		心理学		准教授 松本 淳子※
		英語・英米文化学	教授 西垣内 磨留美※ 准教授 井村 俊義※	

※博士後期課程の科目担当専任教員

### ③非常勤講師

#### 看護学部非常勤講師

(平成29年5月1日現在)

担当科目	氏名	現職
統計学	中村 寛志	信州大学名誉教授
保健・医療・福祉システム看護論II	山本 京子	長野大学社会福祉学部客員教授
教育学	加藤 和之	下條村児童館館長
独語	浜 泰子	信大高等教育システムセンター非常勤講師
数学	二宮 晏	放送大学長野学習センター所長
感染学演習	碓井 之雄	東京医療保健大学医療保健学部教授
人間工学	加藤 麻樹	早稲田大学人間科学部准教授
経済学	樋口 均	信州大学名誉教授
法学	成澤 孝人	信州大学経済学部教授
看護栄養学	志塚ふじ子	長野県短期大学教授
医療経済学	今野 宏紀	日本大学スポーツ科学部准教授
英会話演習	北原アトリエ	信州大学非常勤講師
医事法学	浅村 英樹	信州大学医学部教授
芸術と人間	鷺沢寿美子	ピアノ教室「花の会」主宰
	長江 朱夏	音楽療法士
人間関係論	原田 慶子	東京純心大学看護学部准教授
運動実践・理論ⅠⅡ、 運動理論、運動理論Ⅱ	杉本 光公	信州大学学術研究院教授

#### 大学院非常勤講師

(平成29年5月1日現在)

担当科目	氏名	現職
看護倫理	小西恵美子	長野県看護大学名誉教授
精神看護学特論	樋掛 忠彦	長野県立こころの医療センター院長
フィジカルアセスメント	山内 豊明	名古屋大学大学院教授
量的研究方法論	萩原 素之	信州大学農学部教授
コミュニティ・デベロップメント論特講	色平 哲郎	佐久総合病院地域医療部地域ケア科医長
	長 純一	石巻市立病院内科部長
語法特殊講義	滝沢 秀男	高崎経済大学非常勤講師
家族看護論	柳原 清子	金沢大学医薬保健学域保健学類准教授
看護理論	阿保 順子	長野県看護大学名誉教授
コンサルテーション論	大石ふみ子	聖例クリスチャー大学看護学部教授

### ④事務局

本学の事務組織は、事務局及び附属図書館で構成されている。事務局は、総務課、教務・学生課の2課体制で、事務局長以下職員9名及び嘱託職員3名が配置されている。平成22年までは事務局外に学生支援として学生部があり、学生支援課と就職支援課の2課体制であったが、組織の見直しを行い、事務局内の教務・学生課として総合的な支援を行っている。

附属図書館には、図書委員会委員長の教員が兼務する図書館長と、司書2名（1名嘱託職員）が配置されている。

#### 2) 教員の募集・採用状況

教員の募集・採用は、欠員が生じた場合や新たに採用の必要が生じた場合に「長野県看護大学教員選考基準に関する規程」（以下「規程」という。）及び「長野県看護大学教員選考基準細則」（以下「細則」という。）等に基づいて、適時実施している。

原則として公募により募集し、教員選考委員会（選考委員は委員会立ち上げの都度学長が指名）による選考審査を経て、教授会に諮り、採否を決定している。

平成29年度教職員採用状況

(人)

教授	准教授	講師	助教	助手	認定看護師 教育部門	計	学内昇任
—	1	1	1	(1) 1	—	(1) 4	1

(注) 上段の ( ) は任期付職員で外書数である（臨任、育休任期付を除く）

#### 事務局職員

(平成29年5月1日現在)

	事務局長	小口由美
総務課	次長	刈間俊也
	専門幹兼課長補佐	竹澤隆幸
	主幹	小笠原千寿子
	主査	小出誠治
教務・学生課	課長	大日方隆
	課長補佐	佐々木剛
	主事	栗岡真理子
	担当係長保健師	熊谷晶子
図書館	主査学校司書	原 猛
	学校司書	堀内みちよ
行政嘱託員	学生支援員	篠原睦美
	学生支援員	荒巻詩織
	就職支援員	米窪伸一郎

### (3) 全学委員会

#### 1) 委員会の構成

教授会の下部組織として、委員会組織（常設の委員会 14、臨時の委員会 1）を設置しており、大学運営上の様々な課題については、委員会で検討のうえ、教授会に諮ることとしている。委員会組織は、助教・助手を含む全教員で構成している。

また、研究科委員会においても、下部組織として教務部会と入試部会の二つの部会組織を設けている。両部会は、講師以上の職位にあるものによって構成している。

委員会及び部会等の構成員は、次表のとおりである。

1 教授会委員会等		(H29. 5. 1 現在)						
委員会等	委員長等	委員等				事務局		
教授会	運営委員会	清水学長	安田学部長 坂田教授	渡辺研究科長 内田教授	北山教授 太田教授	西垣内教授 岡田教授	小口事務局長	刈間次長 大日方教学課長
	広報・交流委員会	太田教授	○松本准教授 那須助教	西村講師 塩澤(綾)助教	有賀講師 白井助教	小野塚講師 熊谷助教	下村助手	佐々木課長補佐
	教務委員会	安田学部長	○伊藤教授 西村講師	安東教授 柄澤講師	屋良准教授 高橋助教	千葉准教授 浦野講師		栗岡主事
	実習委員会	内田教授	伊藤教授 東講師 足立助教	○安東教授 御子柴講師 伊藤助手	阿部准教授 上條助教 久保助手	千葉准教授 廣瀬助教 中林助手		栗岡主事
	入試検討委員会	坂田教授	○北山教授 座馬准教授	伊藤教授 有賀講師	井村准教授	竹内准教授		佐々木課長補佐
	図書委員会 紀要委員会	西垣内教授	○宮越准教授 浦野講師	藤原准教授 小林助教	東講師 佐々木助教	柄澤講師 村井助教	白川助手	原主査司書
	学生委員会	岡田教授	金子教授 御子柴講師 田村助手	松本准教授 長南助教	井村准教授 酒井助教 (就職支援員、学生支援員出席)	○藤原准教授 井出助手		栗岡主事 熊谷保健師
	ネットワーク推進委員会	秋山教授	座馬准教授	○東講師	三浦助教	有賀助教	牛山助手	竹澤専門幹
	FD・SD委員会	安東教授	○西垣内教授 島袋助教	宮越准教授 曾根助教	西村講師	小野塚講師		佐々木課長補佐
	倫理委員会	金子教授	太田教授 ○竹内准教授	金子教授 秋山講師	屋良准教授 (外部委員)	藤原准教授		小笠原主幹
	ハラスメント防止委員会	喬教授	○内田教授 森野助教	西村講師 刈間次長	御子柴講師 大日方教学課長	田中助教		
	動物実験委員会	井村准教授	喬教授	○秋山講師	金子教授	阿部准教授		小笠原主幹
	感染症対策委員会	坂田教授	○安田学部長 小口事務局長	内田教授 大日方教学課長	岡田教授 熊谷保健師	中畑助教		
	コンソーシアム信州運営委員会	喬教授	宮越准教授	○松本准教授				大日方教学課長
評価委員会	清水学長	○安田学部長 西垣内教授 安東教授 秋山講師	○渡辺研究科長 喬教授 内田教授 井村准教授	北山教授 坂田教授 岡田教授	太田教授 金子教授 小口事務局長		大日方教学課長	
人事特別委員会	清水学長	安田学部長	渡辺研究科長	岡田教授	小口事務局長			
防災委員会	宮越准教授	安田学部長 近藤助教	岡田教授 廣瀬助教	○屋良准教授 小口局長	浦野講師 小出主任	柄澤講師 竹澤専門幹		
安全衛生委員会	清水学長	東講師 刈間次長	有賀助教 竹澤専門幹	小口事務局長	熊谷保健師			
図書館長	西垣内教授							
学年顧問	1 学年	座馬准教授	御子柴講師	2 学年	藤原准教授	小野塚講師		
	3 学年	有賀講師	島袋助教	4 学年	千葉准教授	秋山講師		

「委員等」欄の氏名に○印がある委員が副委員長

#### 2 研究科委員会

部会	部会長	部会員				事務局
教務部会	渡辺研究科長	北山教授 金子教授	○西垣内教授	坂田教授	岡田教授	大日方教学課長
入試部会	北山教授	喬教授	内田教授	岡田教授	○阿部准教授	佐々木課長補佐

#### (4) 人事特別委員会

長野県看護大学人事特別委員会設置要綱に基づき、委員会では、教員の処分に関し必要な事項や、教員の職務遂行に関する事項を審査する。

委員会の構成員は、要綱の規定により学長（委員長）、学部長、研究科長、教務委員長、学生委員長、事務局長の6名であり、該当案件が生じた場合に活動を行う。

平成29年度は開催していない。

#### (5) 教員業績評価

##### 1) 概要

平成23年度（対象：22年度）からスタートした教員の業績評価は、長野県看護大学教員として自らの仕事を点検し、よりよい仕事を実践していくために行い、その結果を翌年度の研究費に反映している。

評価は、「教育活動」、「研究活動」、「社会・地域貢献活動」、「大学運営」の4領域について行い、教員が活動実績を自己申告し点数化している。また、評価の最後の部分に記述式の自己評価欄を設け、自己評価の妥当性を高めるため、分野責任者、講座主任による他者評価を行っている。さらに平成24年度からは、分野や講座を横断する形で大学全体の仕事内容を評価するという観点から、学長による加点を行う仕組みを導入した。

29年度の業績評価（対象：28年度）は、看護実践国際研究センターの体制整備などの状況の変化や、教員からの意見・要望を踏まえ、4領域のウエイトの変更、評価項目の追加、評価段階の細分化など、内容の大幅な見直しを行った上で実施した。

##### <集計結果の概要（対象：28年度）>

区分	評価領域・職位別平均					学長 加点後 平均 (A)	最高値 (B)	指数 (B)/(A)	授業時間	
	教育	研究	地域	運営	小計				平均	最高
教授(10名)	49.6	44.6	10.5	31.3	136.0	149.5	215.8	144	362.8	620
准教授(8名)	34.4	33.2	8.8	23.3	99.8	109.8	171.1	156	223.1	408
講師(6名)	35.1	25.7	4.9	18.6	84.3	95.1	125.5	132	347.5	709
助教(21名)	36.6	27.2	3.5	14.2	81.4	92.4	135.4	147	756.1	1,164
助手(6名)	35.6	9.1	1.8	12.0	58.4	70.9	92.0	130	852.3	1,156

##### 2) 平成30年度研究費への反映

各職位で、平均100に対する指数値が110以上となった者を研究費の増額対象とした。

(51名中12名が対象：23.5%)

教授：2名、准教授：2名、講師：1名、助教：5名、助手：2名

#### (6) 教員人事評価

##### 1) 概要

県が実施している人事評価制度について、地方公務員法等の一部改正に伴い大学教員も対象とすることになったため、平成28年度から教員人事評価を実施している。この評価は、教員が教育・研究活動等を遂行するに当たり発揮した能力及び挙げた実績を把握

し、主体的な業務の遂行及び人材の育成を行うとともに、能力・実績に基づく人事管理を行うことにより、教育研究等の向上につなげることを目的とする。

<制度の概要>

区 分	人事評価	
	職務遂行力評価	業務評価
概 要	教員に求められる能力や仕事に対する意欲や姿勢を、日常の行動に照らして評価	期首に自らが業務目標を設定し、中間及び期末にその目標の達成度により評価
評価方法	職務遂行力評価表により、次のとおり評価を行う 1 自己評価 2 一次評価 3 二次評価	業務評価シート(目標設定・中間評価・年間評価)により、次のとおり評価を行う 1 自己評価 2 一次評価(評価面談を実施) 3 二次評価

2) 評価結果の活用

評価結果は、査定昇給の際に重要な判断材料として活用した。また、業務評価の結果は勤勉手当に反映した。

(7) 健康センター

1) 概 要

精神的な問題や不調を抱える人々は増加し、職場におけるメンタルヘルスの維持・増進は喫緊の課題となっていたため、比較的早期の段階から専門的に関与していく機関として、2010年11月に学長直属の機関として「健康センター」を設置し、精神分野の専門看護師を1人配置して、学生や教職員に対する心の健康相談を実施してきた。その後、職場におけるメンタルヘルスが改善されたため、2015年7月から、相談員は常勤保健師と非常勤の臨床心理士が担当することとした。

健康センターでは、精神的な問題や不調を抱えている人に対して、治療の必要性の有無を判断し医療につなげること、また現在、治療を受けている学生や教員の場合は、症状の重症化、長期化を防ぎ、早期回復に向けた支援を行うことを目的に、次に掲げる業務を実施している。

- ① 学生・教職員からの相談・指導
- ② 学年顧問など他の相談窓口からの相談への対応
- ③ 休学・休職中の人への復学・復職に向けた支援
- ④ 学内外における心の健康づくりに関すること

2) 実 績

<教員及び学生に対する心の健康相談実績(延べ件数)>

年 度	学 生	教 員	合 計
2 5	8 8	6 0	1 4 8
2 6	7 9	1 6	9 5
2 7	5 2	0	5 2
2 8	4 0	0	4 0
2 9	8 4	6	9 0

① 学生の相談状況

- ・29年度の件数は大幅に増加した。年間を通して継続的に関わる学生が増えた。
- ・前年度中に、特に友人関係で何らかの問題があった学生が、それを抱えたまま新学期に突入したと思われるケースが数件見受けられた。
- ・単科大学であるが故の人間関係の狭さに起因するものもあると感じられた。自分の悩みを表出できず、ストレスをためている例があった。
- ・こんなはずではなかった、やめたくなってきた、看護職としての自信の喪失などからくる「大学をやめたい気持ち」など、理想と現実のギャップなどがストレスになっている学生が見受けられた。
- ・一般的に発病が多いと思われる思春期世代であるが、家庭や家族関係の問題が、精神面の不安定さなどに影響を及ぼしていると思われる学生も見受けられる。
- ・1年生では、大学入学、初めての一人暮らしなどの新しい環境への不安を感じている学生が多いが、1ヶ月もすれば落ち着いてきて気持ちの切り替えもできる。しかし、中には学業や生活面に影響が出てしまった学生もいた。
- ・年度始めに学生が提出する「健康質問票」のメンタル系の項目にチェックが入っている学生については、個別面接を実施した。

② 教職員の相談状況

- ・センター開設以来、11人の教員の精神疾患に対応してきたが、現在、対応が必要な教員はほとんどおらず、29年度中の相談も数人のみであり、状況の確認や、傾聴する程度ですんでいる。

3) 課題及び今後の展開

健康センターは、本学関係者の精神疾患の改善に大きな成果をあげてきた。今後も引き続き、学生や教職員に対する相談機能を堅持する必要がある。

しかし、相談者が減少したため、常勤の相談員の配置を終了し、外部機関から相談員（臨床心理士）を非常勤で雇うことで、必要に応じて心の健康相談が実施可能となるような新たな体制を整備して、状況を伺っているところである。

### 第3節 学生の状況

#### (1) 学部

##### 1) 入学試験の状況

##### 1. 状況

1995年の開学以来、学部入学定員は80名で、3年次に10名の編入生を受け入れていたが、2016年度入学から募集を停止している。選抜試験では、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に基づく小論文や面接を課して、一般選抜試験、特別選抜試験を行っている。

入学試験の過去5年間の状況は、以下のとおりである。

項目／入試実施年度		H25 (26年度入学)	H26 (27年度入学)	H27 (28年度入学)	H28 (29年度入学)	H29 (30年度入学)
一般入試	志願者	261	161	263	213	172
	合格者	56	53	56	56	59
	入学者(A)	53	50	53	54	55
	入学定員(B)	50	50	50	50	50
	A/B	1.06	1.00	1.06	1.08	1.10
推薦入試	志願者	55	55	61	59	58
	合格者	29	28	29	31	30
	入学者(A)	29	28	29	31	30
	入学定員(B)	30	30	30	30	30
	A/B	0.97	0.93	0.97	1.03	1.00

項目／入試実施年度		H25 (26年度入学)	H26 (27年度入学)	H27 (28年度入学)	H28 (29年度入学)	H29 (30年度入学)
社会人入試	志願者	8	7	8	3	2
	合格者	2	3	3	0	0
	入学者(A)	1	3	3	0	0
	入学定員(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名
	A/B	—	—	—	—	—
編入学試験	志願者	17	17	—	—	—
	合格者	4	5	—	—	—
	入学者(A)	2	4	—	—	—
	入学定員(B)	10	10	募集停止	募集停止	募集停止
	A/B	0.20	0.40	—	—	—
合計	志願者	341	240	332	275	232
	合格者	91	89	88	87	89
	入学者(A)	85	85	85	85	85
	入学定員(B)	90	90	90	90	90
	A/B	0.94	0.94	0.94	0.94	0.94

(1) 特別選抜試験

県内の高等学校からの推薦を受けた者及び一定の社会人経験を有する者を対象とする選抜である。定員はあわせて30名で、同一の小論文試験と面接を課し、結果を総合的に評価して選抜を行っている。

- ① 推薦：県内の高等学校の卒業予定者で「全体の評定平均値」が4.0以上。推薦枠は各校2名（分校は1名）以内。
- ② 社会人（平成15年度から受け入れ）：大学入学資格と一定の基準による社会人としての経験を3年以上有する者。

(2) 一般選抜試験

分離分割方式で前期と後期に分けて実施し、定員は前期日程42名、後期日程8名である。大学入試センター試験と小論文試験及び個別面接を課し、結果を総合的に評価して選抜を行っている。

(3) 編入学試験

専門科目（基礎看護学、在宅看護論、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学）と英語の筆記試験、個別面接を行い、結果を総合的に評価して選抜を行っていたが、編入生の定員割れが続いたこと等から、平成27年度試験（平成28年度入学）から募集を停止した。

2. 課題及び方策

編入学試験制度の廃止と、それに代わる入学者選抜（募集定員の配分等含む。）について、入試検討委員会等で検討していく。

2) 学年別学生数

1. 状況

在校生数は、定数の340名に対し同数となっているが、近年の傾向として卒業延期生が増加している。

また、近年男子学生が各学年10%程度であったが、平成29年度は2人であった。

県内出身者は全体の66.8%で、年により増減しているが、従前に比べその率は、高まってきている。

平成29年5月1日 現在 (単位：人)

学 部	総 数		県内 出身者	県外 出身者	
	男	女			
1年生	85	2	83	52	33
2年生	85	7	78	57	28
3年生	79	9	71	58	21
4年生	82	7	75	54	28
編入1年生	0	0	0	0	0
編入2年生	0	0	0	0	0
卒業延期生	9	0	9	6	3
計	340	25	316	227	113

## (2) 研究科

### 1) 入学試験の状況

項目／入試実施年度		H25 (26年度入学)	H26 (27年度入学)	H27 (28年度入学)	H28 (29年度入学)	H29 (30年度入学)
(博士前期)	看護学専攻					
	志願者	4	5	9	9	7
	合格者	4	2	6	8	6
	入学者(A)	4	2	6	8	6
	入学定員(B)	16	16	16	16	16
	充足率(A/B)	25%	13%	38%	50%	38%
(博士後期)	看護学専攻					
	志願者	3	2	3	4	1
	合格者	2	2	1	3	1
	入学者(A)	2	2	1	3	1
	入学定員(B)	4	4	4	4	4
	充足率(A/B)	50%	50%	25%	75%	25%
合計	志願者	7	7	12	13	8
	合格者	6	4	7	11	7
	入学者(A)	6	4	7	11	7
	入学定員(B)	20	20	20	20	20
	充足率(A/B)	30%	20%	35%	55%	35%

### 2) 学年別院生数

在学生数は、博士前期課程が定数の32名に対し、定員割れが続いている。近年の傾向として、入学者が少なく、休学等による卒業延期生が増加している。

また、博士後期課程は、定数12名に対し定員を上回っているが、休学等により標準修業年限を超える学生が多い傾向となっている。

平成29年5月1日 現在 (単位: 人)

大学院	総数		県内 出身者	県外 出身者	
	男	女			
修士課程	16	2	14	15	1
博士課程	13	1	12	4	9
計	29	3	26	19	10

## (3) 学部及び研究科の休学、退学の状況

学部、研究科とも、最終学年での休学が多く、そのうちの一部が退学へとつながっている事例がある。

また、修士課程では、体調不良によるほか、仕事の都合による休学が見られる

### 1 学部・研究科の退学者数

	平成27年度					平成28年度					平成29年度				
	1年	2年	3年	4年	合計	1年	2年	3年	4年	合計	1年	2年	3年	4年	合計
学部	1	0	1	1	3	0	1	1	0	2	0	0	0	3	3
研究科	修士課程	0	1		1	0	1			1	0	0			0
	博士課程	0	0	1	1	0	0	1	1	1	0	0	0	1	0
	小計	0	1	1	1	2	0	1	1	1	2	0	0	0	0
合計	1	1	2	1	5	0	2	2	0	4	0	0	0	3	3

※ 研究科のうち博士後期課程における単位取得退学者は、退学者数に計上していない。

## 2 学部・研究科の休学者数

	平成27年度					平成28年度					平成29年度				
	1年	2年	3年	4年	合計	1年	2年	3年	4年	合計	1年	2年	3年	4年	合計
学部	2	2	3	3	10	0	1	2	2	5	0	1	0	3	4
研究科	修士課程	0	3		3	0	2			2	0	2			2
	博士課程	0	0	6	6	0	0	5		5	0	1	7		8
	小計	0	3	6	9	0	2	5		7	0	3	7		10
合計	2	5	9	3	19	0	3	7	2	12	0	4	7	3	14

※ 休学者数のうち、年度を越える休学は各年度毎に計上しているが、年度内の同一人物による複数の休学は実人数で計上している。

## 第2章 年間の活動状況

### 第1節 学部及び研究科の行事及び教授会活動

#### (1) 1年間の行事

月 日	内 容	月 日	内 容
4月5日 (水)	入学式	11月1日 (水)	大学運営協議会
4月6日 (木)	教務ガイダンス	11月18日 (土)	特別選抜入学試験
7日 (金)	健康診断	12月7日 (木)	※認定看護師教育課程選抜試験
4月10日 (月)	新入生オリエンテーション	12月26日 (火)	冬季休業
11日 (火)		～1月8日 (月)	
4月6日 (木)	履修登録期間	1月9日 (火)	後期授業再開
～13日 (木)		1月13日 (土)	大学入試センター試験
4月10日 (月)	前期授業開始	14日 (日)	
5月1日 (月)	創立記念日	1月21日 (土)	博士前期・後期課程二次募集入学試験
6月1日 (水)	※認定看護師教育課程開講式	1月29日 (月)	※認定看護師教育課程修了式
7月29日 (土)	オープンキャンパス	2月10日 (土)	春季休業
8月12日 (土)	夏季休業	～3月31日 (土)	
～10月1日 (日)		2月25日 (日)	一般選抜入学試験 (前期)
9月9日 (土)	鈴風祭	3月10日 (土)	卒業式・修了式
10日 (日)		3月14日 (水)	一般選抜入学試験 (後期)
10月2日 (月)	後期授業開始		
10月21日 (土)	博士後期課程入学試験 博士前期課程入学試験		

※は看護実践国際研究センター認定看護師教育部門の行事

#### (2) 教授会の活動

回	開催月日	協 議 事 項
1	4月4日	1 基礎看護学の臨時的任用教員 (欠員補充) の採用について
2	4月18日	1 平成29年度予算状況について 2 長野県看護大学における競争的資金に係る間接経費の取扱要領について 3 精神看護学の教員 (助教又は助手) の採用について
3	5月16日	1 退学願について 2 入学前の既修得単位の認定について 3 平成30年度入学者選抜に関する要項 (案) について 4 教員の平成28年度の業績評価について 5 教員の平成29年度の人事評価について 6 平成29年度長野県看護大学臨床教授 (案) について 7 精神看護学の教員 (助教) の採用について (投票)
4	6月6日	1 基礎看護学の臨時的任用教員 (助手) の採用について (審査結果報告) 2 成人看護学の育休代替任期付き教員 (助教又は助手) の採用について 3 教員の職位昇任申請について 4 教員の職位昇任について (学長提案)
5	7月4日	1 平成30年度学生募集要項《一般選抜入学試験》について 2 平成30年度学生募集要項《推薦入学試験》について 3 平成30年度学生募集要項《社会人特別選抜試験》について 4 成人看護学の育休代替任期付き教員 (助教) の採用について (審査結果報告)
6	7月18日	1 職位の昇任申請について (審査結果報告) 2 学長選考・選挙管理委員会の設置について
7	8月1日	1 休学願について 2 臨地実習時に発生した事故への対応について 3 研究倫理審査申請書の修正について 4 教員の職位の昇任について (投票)

		<ul style="list-style-type: none"> <li>5 成人看護学の臨時的任用教員（欠員補充）の採用について</li> <li>6 教員の退職について</li> <li>7 成人看護学の教員（助教又は助手）の公募について</li> <li>8 長野県看護大学学長選考規程の一部改正について</li> </ul>
8	9月19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 退学願について</li> <li>2 年度途中で卒業する学生の卒業認定について</li> <li>3 平成29年度科目等履修生の選考について</li> <li>4 長野県看護大学学部長選考規程の一部改正について</li> <li>5 長野県看護教員選考基準細則の一部改正について</li> <li>6 学部長・研究科長選考の日程等について</li> <li>7 教員の退職について</li> <li>8 母性・助産看護学教員の公募について</li> <li>9 教員職位昇任について (教授のみ) 学長の業績評価について</li> </ul>
9	10月3日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 教員の昇任に関する日程について</li> </ul>
10	10月17日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 学長候補者の信任投票結果について</li> <li>2 平成30年度学年暦（案）について</li> <li>3 小児看護学の教員（准教授又は講師）の公募について</li> <li>4 成人看護学の教員（教授、准教授又は講師）の公募について</li> <li>5 精神看護学の任期付教員について</li> <li>6 認定看護師教育課程の任期付教員（主任教員、専任教員）の公募について</li> <li>7 客員研究員の承認について</li> <li>8 学部長候補者選挙管理委員の選挙について</li> </ul>
11	11月7日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 県内看護職者との共同研究実施要項改正について</li> <li>2 教員の休職（期間延長）について</li> <li>3 教員の退職について</li> <li>4 地域・在宅看護学の教員（助教又は助手）の公募について</li> </ul>
12	11月21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 平成30年度推薦・社会人入学試験結果について</li> <li>2 成人看護学の教員（助教又は助手）の採用について（投票） (教授のみ) 学長の職務遂行力評価について</li> </ul>
13	12月5日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 学部長候補者選挙の結果について</li> <li>2 母性・助産看護学の教員（助教又は助手）の採用について（投票）</li> <li>3 教員の退職について</li> <li>4 母性・助産看護学の教員（助教又は助手）の公募について</li> <li>5 小児看護学の教員（准教授又は講師）の応募状況及び臨時的任用教員（欠員補充）の採用について</li> <li>6 教員の職位昇任申請について</li> <li>7 選択科目の開講時期の変更について (教授のみ) 母性・助産看護学の教員（教授）の採用について（審査結果報告）</li> </ul>
14	12月19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 履修規程の改正について</li> <li>2 教員の退職について (教授のみ) 母性・助産看護学の教員（教授）の採用について（投票）</li> </ul>
15	1月9日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 地域・在宅看護学の教員（助教又は助手）の採用について（審査結果報告）</li> <li>2 認定看護師教育課程の任期付教員（主任教員、専任教員）の採用について（審査結果報告）</li> <li>3 母性・助産看護学の臨時的任用教員（欠員補充）の採用について</li> </ul>
16	1月16日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 平成30年度科目等履修生募集要項について</li> <li>2 平成30年度県内大学単位互換履修生募集要項について</li> <li>3 地域・在宅看護学の教員（助教又は助手）の採用について（投票）</li> <li>4 認定看護師教育課程の任期付教員（主任教員、専任教員）の採用について（投票）</li> <li>5 職位の昇任申請について（審査結果報告）</li> <li>6 成人看護学の臨時的任用教員（欠員補充）の採用について</li> </ul>
17	2月6日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 職位の承認申請について（投票）</li> <li>2 基礎看護学の臨時的任用教員（欠員補充）の採用について</li> <li>3 小児看護学の臨時的任用教員（欠員補充）の採用について（審査結果報告）</li> <li>4 平成30年度卒業研究の学生配置について</li> <li>5 学生の旧姓使用の取扱要領（案）について</li> <li>6 平成30年度教授会等の日程について</li> </ul>

18	2月20日	1 母性・助産看護学の臨時的任用教員の採用について（審査結果報告） 2 平成30年度非常勤講師について 3 平成29年度卒業認定について 4 休学願について 5 平成31年度学部入学試験関係日程について (教授のみ) 精神看護学の任期付教員（教授）の採用について（審査結果報告）
臨時	2月27日	1 平成30年度一般選抜入学試験（前期日程）の試験結果について 2 母性・助産看護学の教員（助教又は助手）の採用について（審査結果報告） 3 基礎看護学の臨時的任用教員（欠員補充）の採用について（審査結果報告）
19	3月6日	1 卒業予定者の単位認定について 2 母性・助産看護学の教員の採用について（投票） 3 平成30年度教授会等の日程（案）について 4 平成30年度教授会委員会等の委員選任等について
20	3月20日	1 退学願について 2 休学願について 3 平成29年度単位認定について 4 看護実践国際研究センター組織・各部門等構成員について (教授のみ) 特別な配慮を必要とする教員について 学長の業務評価について

### (3) 研究科委員会の活動

回	開催月日	協議事項
1	4月18日	1 休学願について
2	5月16日	1 平成30年度大学院博士前期（修士）課程学生募集要項（案）について 2 平成30年度大学院博士後期（博士）課程学生募集要項（案）について 3 平成29年度修士論文研究テーマ・論文指導及び審査委員（案）について
3	7月4日	1 休学願について 2 平成29年度前期博士論文審査体制について
4	7月18日	1 平成29年度前期博士論文審査に係る外部審査委員について 2 高度実践看護師教育課程（CNS）「小児看護専攻教育課程」「老年看護専攻教育課程」の科目と担当教員について
5	9月19日	1 長野県看護大学大学院研究科長選考規程の一部改正について (教授のみ) 1 平成29年度前期博士論文の審査結果報告及び最終試験結果報告について 2 平成29年度博士後期課程の学位授与について（投票）
6	10月3日	1 休学願について 2 平成29年度後期博士論文研究計画書等指導審査体制（案）について 3 学位規程に関する内規の一部改正について 4 研究科長候補者選挙管理委員の選挙について
7	10月17日	1 平成30年度博士前期課程入学試験（二次募集）について 2 平成30年度博士後期課程入学試験（二次募集）について
8	10月24日	1 平成30年度博士前期課程入学試験結果について
9	11月7日	1 休学願について 2 平成30年度大学院学年歴（案）について
10	11月14日	(教授のみ) 平成29年度後期博士論文研究計画書の審査について（審査結果報告及び投票）
11	11月21日	1 研究科長候補者選挙の結果について
12	12月5日	1 平成29年度後期博士論文審査体制（案）について 2 平成29年度修士論文審査体制（案）について

13	1月9日	(協議事項なし)
14	1月30日	1 平成30年度博士後期課程二次募集入学試験結果について
15	2月6日	1 平成30年度科目履修生募集要項(案)について 2 平成30年度研究生募集要項(案)について 3 平成30年度長野県看護大学県内大学単位互換履修生募集要項(案)について 4 大学院長期履修規程の改正について
16	2月20日	1 平成31年度大学院入学試験関係日程について 2 平成29年度博士前期(修士)課程修得単位の認定について 3 平成29年度修士論文審査結果について 4 平成29年度博士前期(修士)課程の学位授与について(投票) 5 長期履修在学期間の短縮について 6 平成30年度大学院非常勤講師について 7 平成30年度大学院科目履修対象科目の追加について
17	3月20日	1 休学願について 2 研究生の研究期間延長について 3 博士前期課程の修得単位認定について 4 博士後期課程の修得単位認定について 5 平成29年度退職に伴う指導教員の選定について 6 大学院博士前期課程の受験科目(英語)及び博士後期課程外国人留学生特別選抜に関する研究科長提案 7 大学院博士前期課程英語教育プログラムに関する確認事項について(教授のみ) 研究科委員の学内審査について

## 第2節 学部の教育活動

### (1) カリキュラム

#### <必修科目>

平成29年度入学生

	科 目	期	単位数	時間数	科 目	期	単位数	時間数
1 学 年	生 物 学	前学期	1	30	倫 理 学	後学期	1	15
	化 学	前学期	1	30	家 族 社 会 学	後学期	1	15
	運 動 実 技 ・ 理 論 I	前学期	1	30	医 療 英 文 読 解 演 習 I	後学期	1	30
	統 計 学	前学期	1	15	医 療 英 会 話 の 基 礎 I	後学期	1	30
	英 文 読 解 の 基 礎	前学期	1	15	生 化 学	後学期	1	30
	英 会 話 の 基 礎	前学期	1	30	人 体 の 構 造 と 機 能 演 習	後学期	1	30
	人 体 の 構 造 と 機 能 I	前学期	2	30	フ ィ ジ カ ル ア セ ス メ ン ト	後学期	1	30
	人 体 の 構 造 と 機 能 II	前学期	1	30	病 理 学	後学期	1	15
	看 護 学 概 論	前学期	2	30	薬 理 学	後学期	2	30
	基 礎 看 護 方 法 I	前学期	1	30	病 理 学 演 習	後学期	1	30
	基 礎 看 護 実 習 I	前学期	1	45	基 礎 看 護 方 法 II	後学期	2	60
	保 健 ・ 医 療 ・ 福 祉 シ ス テ ム 看 護 論 I	前学期	1	15	人 間 発 達 論	後学期	1	15
	情 報 処 理 科 学	前学期	1	30	人 間 関 係 論	後学期	1	30
					公 衆 衛 生 学	後学期	1	30
				保 健 ・ 医 療 ・ 福 祉 シ ス テ ム 看 護 論 II	後学期	1	15	
				小 計 (28科目)			32	765
2 学 年	臨 床 心 理 学	前学期	1	30	運 動 実 技 ・ 理 論 II	後学期	1	30
	医 療 英 文 読 解 演 習 II	前学期	1	30	感 染 学 演 習	後学期	1	30
	医 療 英 会 話 の 基 礎 II	前学期	1	30	慢 性 期 看 護 方 法	後学期	2	60
	疾 病 学 I	前学期	1	30	急 性 期 看 護 概 論	後学期	1	15
	疾 病 学 II	前学期	1	30	老 年 看 護 方 法 I	後学期	1	30
	感 染 学	前学期	1	30	精 神 看 護 概 論 II	後学期	1	15
	看 護 過 程 の 理 論 と 展 開	前学期	1	15	母 性 看 護 方 法 I	後学期	1	30
	慢 性 期 看 護 概 論	前学期	1	15	小 児 看 護 概 論 II	後学期	1	15
	老 年 看 護 概 論	前学期	2	30	小 児 看 護 方 法 I	後学期	1	30
	精 神 看 護 概 論 I	前学期	1	15	地 域 看 護 方 法 I	後学期	1	30
	母 性 看 護 概 論	前学期	1	15	家 族 援 助 論	後学期	1	15
	小 児 看 護 概 論 I	前学期	1	15	在 宅 ケ ア 方 法 I	後学期	1	30
	地 域 看 護 概 論	前学期	1	15	多 文 化 共 生 看 護 学	後学期	2	30
	在 宅 ケ ア 論	前学期	1	15	基 礎 看 護 実 習 II	後学期	2	90
疫 学	前学期	1	30					
				小 計 (29科目)			33	795
3 学 年	医 療 経 済 学	前学期	1	15	災 害 看 護 論	前学期	1	30
	看 護 栄 養 学	前学期	1	15	在 宅 ケ ア 方 法 II	前学期	1	30
	症 状 マ ネ ジ メ ン ト 論	前学期	1	15	保 健 統 計 学	前学期	1	15
	急 性 期 看 護 方 法	前学期	2	60	保 健 ・ 医 療 ・ 福 祉 シ ス テ ム 看 護 論 III	前学期	1	15
	老 年 看 護 方 法 II	前学期	1	30	遺 伝 と 人 間	後学期	1	15
	精 神 看 護 方 法	前学期	2	60	看 護 倫 理	後学期	1	15
	母 性 看 護 方 法 II	前学期	1	30	看 護 研 究 方 法	後学期	1	30
	小 児 看 護 方 法 II	前学期	1	30				
地 域 看 護 方 法 II	前学期	1	30	小 計 (16科目)			18	435
4 学 年	看 護 管 理 論	前学期	1	15	卒 業 研 究	全 期	4	180
	看 護 統 合 実 習	前学期	2	90	小 計 (3科目)			7
3 4 学 学 年 年	成 人 看 護 実 習		4	180	小 児 看 護 実 習		3	135
	老 年 看 護 実 習		4	180	地 域 看 護 実 習		4	180
	精 神 看 護 実 習		3	135	在 宅 看 護 実 習		2	90
	母 性 看 護 実 習		2	90	小 計 (7科目)			22

必修科目合計

科 目	単位数	時間数
83 科 目	112	3,270

<選択必修科目>

科 目	期	単位数	時間数	科 目	期	単位数	時間数
教 育 学	1年前学期	2	30	英 会 話 演 習	3年前学期	1	30
教 育 心 理 学	1年後学期	2	30	英 語 文 化 研 究	3年前学期	1	30

<選択科目>

科 目	期	単位数	時間数	科 目	期	単位数	時間数
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 論	1年前学期	1	15	論 理 学	3年前学期	1	15
心 理 学	1年前学期	2	30	運 動 理 論	3年前学期	1	15
社 会 学	1年前学期	2	30	助 産 概 論	3年前学期	1	15
信 州 学	1年前学期	1	15	国 際 看 護 学 I	3年前学期	2	30
数 の 話 と 教 養 数 学	1年前学期	1	15	国 際 看 護 学 II	3年前学期	1	15
独 語	1年前学期	1	15	国 際 看 護 実 習	3年前学期	2	90
生 命 科 学 演 習	1年後学期	1	30	医 事 法 学	3年後学期	1	15
哲 学	2年前学期	2	30	芸 術 と 人 間	3年後学期	2	30
文 化 人 類 学	2年前学期	2	30	地 域 母 子 保 健	3年後学期	1	15
経 済 学	2年前学期	2	30	仏 語	4年後学期	1	15
人 間 工 学	2年前学期	2	30	看 護 論	4年後学期	1	15
生 命 倫 理	2年後学期	1	15	看 護 教 育 論	4年後学期	2	30
法 学	2年後学期	2	30	エ ン カ ウ ン タ ー	4年後学期	1	30

(2) 臨地実習

学年	科 目 名	期 間	単 位
1	基礎看護実習Ⅰ	6月19日 ～ 6月23日	1
2	基礎看護実習Ⅱ	9月25日 ～ 10月6日 10月10日 ～ 10月20日	2
3	成人看護実習	9月25日 ～ 12月15日	4
	老年看護実習		4
	精神看護実習		3
	母性看護実習		2
	小児看護実習		3
	地域看護実習		4
	在宅看護実習		2
	国際看護実習 (選択)	7月31日 ～ 8月11日	2
	助産実習実習 (選択)	2月12日 ～ 3月23日	10
4	成人看護実習	5月8日 ～ 7月28日	4
	老年看護実習		4
	精神看護実習		3
	母性看護実習		2
	小児看護実習		3
	地域看護実習		4
	在宅看護実習		2
	看護統合実習	7月31日 ～ 8月10日	2
	助産実習実習 (選択)	9月4日 ～ 11月2日	10

### (3) 臨地実習施設

#### ① 病院

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
昭和伊南総合病院	駒ヶ根市	基礎看護Ⅰ・Ⅱ、成人看護、在宅看護、看護統合	こども病院	安曇野市	小児看護、助産
伊那中央病院	伊那市	基礎看護Ⅰ・Ⅱ、母性看護、小児看護、看護統合、助産	下伊那赤十字病院	松川町	在宅看護
こころの医療センター駒ヶ根	駒ヶ根市	精神看護、在宅看護	飯田市立病院	飯田市	基礎Ⅰ・看護統合
飯田病院	飯田市	精神看護	諏訪赤十字病院	諏訪市	基礎Ⅰ・Ⅱ、看護統合、助産
伊那神経科病院	伊那市	精神看護	諏訪中央病院	茅野市	助産
信州大学医学部附属病院	松本市	精神看護			

#### ② 保健・福祉施設

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
たんぼぼの家	駒ヶ根市	精神看護	はびろの里	伊那市	老年看護
親愛の里シンフォニー	宮田村	精神看護	センチナリアン	高森町	老年看護
コスモスの家	伊那市	精神看護	すずたけ	伊那市	老年看護
はなみずきの郷	飯田市	精神看護	信濃医療福祉センター	下諏訪町	在宅看護

#### ③ 助産所

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
おひさま助産院	駒ヶ根市	助産	明生助産院	伊那市	助産
野ノ花助産院	駒ヶ根市	助産	さくらこ助産院	伊那市	助産
幸助産院	駒ヶ根市	助産	助産所ドゥーラえむあい	伊那市	助産

#### ④ 保健福祉事務所

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
諏訪保健福祉事務所	諏訪市	地域看護	飯田保健福祉事務所	飯田市	地域看護
伊那保健福祉事務所	伊那市	地域看護	木曾保健福祉事務所	木曾町	地域看護

#### ⑤ 市町村

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
伊那市役所	伊那市	地域看護	南木曾町	南木曾町	地域看護
駒ヶ根市役所	駒ヶ根市	地域看護、母性看護	飯島町	飯島町	地域看護
辰野町役場	辰野町	地域看護			
箕輪町役場	箕輪町	地域看護			

#### ⑥ 訪問看護ステーション

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
伊南訪問看護ステーション	駒ヶ根市	在宅看護	訪問看護ステーションふれあい	箕輪町	在宅看護
訪問看護ステーションすずたけ	伊那市	在宅看護	下伊那赤十字訪問看護ステーション	松川町	在宅看護
訪問看護ステーションみどり	箕輪町	在宅看護	円会訪問看護ステーション	高森町	在宅看護

#### ⑦ 学校

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
両小野小学校	辰野町	地域看護	箕輪北小学校	箕輪町	地域看護
西箕輪小学校	伊那市	地域看護	西春近南小学校	伊那市	地域看護
宮田小学校	宮田町	地域看護	赤穂中学校	駒ヶ根市	地域看護
新山小学校	伊那市	地域看護	西箕輪中学校	伊那市	地域看護
箕輪西小学校	箕輪町	地域看護	東中学校	駒ヶ根市	地域看護
伊那北小学校	伊那市	地域看護	東部中学校	伊那市	地域看護
赤穂東小学校	駒ヶ根市	地域看護	春富中学校	伊那市	地域看護
赤穂南小学校	駒ヶ根市	地域看護	宮田中学校	宮田村	地域看護

#### ⑧ 保育園

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
赤穂保育園	駒ヶ根市	小児看護	すずらん保育園	駒ヶ根市	小児看護
飯坂保育園	駒ヶ根市	小児看護	桜ヶ丘保育園	駒ヶ根市	小児看護
北割保育園	駒ヶ根市	小児看護	福岡保育園	駒ヶ根市	小児看護
経塚保育園	駒ヶ根市	小児看護			

### 第3節 研究科の教育活動

#### (1) カリキュラム

##### 1) 授業科目

博士前期(修士)課程授業科目 (平成29年度入学生)

	授業科目	科目番号	単位数	学年別時間数				計	
				1年		2年			
				前学期	後学期	前学期	後学期		
必修科目	★ ○ 看護倫理	3201	2	30(一部集中講義)				30	
	★ ○ 看護理論	3101	2	30(一部集中講義)				30	
	★ ○ 看護研究法	3102	2	30				30	
*領域別分野専門科目(10単位)	看護基礎領域 病態機能学分野	★ ○ 病態機能学特論Ⅰ	3401	2	30				30
		★ ○ 病態機能学特論Ⅱ	3402	2	30				30
		★ ○ 病態機能学演習	3403	6		90			90
	病態治療学分野	○ 病態治療学特論Ⅰ	3404	2	30				30
		○ 病態治療学特論Ⅱ	3405	2	30				30
		○ 病態治療学演習	3406	6		90			90
	基礎看護学領域 基礎看護学分野	★ ○ 基礎看護学特論Ⅰ	3411	2	30				30
		○ 基礎看護学特論Ⅱ	3412	2		30			30
		○ 基礎看護学演習Ⅰ	3413	6		90			90
	看護管理学分野	○ 看護管理学・看護教育学特論Ⅰ	3414	2	30				30
		○ 看護管理学・看護教育学特論Ⅱ	3415	2		30			30
		○ 看護管理学・看護教育学演習Ⅰ	3416	6	90	90			180
発達看護学領域 小児看護学分野	母性・助産看護学分野	★ ○ 母性看護学特論Ⅰ	3242	2	30				30
		★ ○ 母性看護学特論Ⅱ	3243	2		30			30
		★ ○ 母性看護学演習Ⅰ	3251	6		90			90
	小児看護学分野	★ ○ 小児看護学特論Ⅰ	3252	2	30				30
		★ ○ 小児看護学特論Ⅱ	3253	2		30			30
		★ ○ 小児看護学演習Ⅰ・A	3247	2	30				30
		★ ○ 小児看護学演習Ⅰ・B	3248	2	30				30
		★ ○ 小児看護学演習Ⅰ・C	3249	2		30			30
	○ 小児看護学実習	3250	6				270	270	
	成人看護学分野	○ 成人看護学特論Ⅰ	3222	2	30				30
○ 成人看護学特論Ⅱ		3223	2		30			30	
○ 成人看護学演習Ⅰ		3235	6		90			90	
広域看護学領域	老年看護学分野	★ ○ 老年看護学特論Ⅰ	3225	2	30				30
		★ ○ 老年看護学特論Ⅱ	3226	2		30			30
		★ ○ 老年看護学特論Ⅲ	3234	2	30				30
		○ 老年看護学演習Ⅰ・A	3227	2		60			60
		○ 老年看護学演習Ⅰ・B	3231	2		60			60
		○ 老年看護学演習Ⅰ・C	3232	2		60			60
	○ 老年看護学実習	3233	6				270	270	
	精神看護学分野	★ ○ 精神看護学特論Ⅰ	3228	2	30				30
		★ ○ 精神看護学特論Ⅱ	3229	2	30				30
		★ ○ 精神看護学特論Ⅲ	3421	2		30			30
		★ ○ 精神看護学演習Ⅰ・A	3422	2		60			60
		★ ○ 精神看護学演習Ⅰ・B	3423	2			60		60
		★ ○ 精神看護学演習Ⅰ・C	3424	2				60	60
	○ 精神看護学実習	3425	10				450	450	
	地域・在宅看護学分野	★ ○ 地域・在宅看護学特論Ⅰ	3431	2	30				30
		★ ○ 地域・在宅看護学特論Ⅱ	3432	2	30				30
		○ 地域・在宅看護学演習Ⅰ	3433	3	90				90
		○ 地域・在宅看護学演習Ⅱ	3434	3		90			90
里山・遠隔看護学分野	★ ○ 里山・遠隔看護学特論Ⅰ	3441	2	30				30	
	★ △ 里山・遠隔看護学特論Ⅱ	3442	2	30				30	
	★ △ 里山・遠隔看護学特論Ⅲ	3443	2		30			30	
	★ ○ 里山・遠隔看護学演習Ⅰ	3444	6		180			180	
共通選択科目(8単位以上)	○ 看護学課題研究(論文コース)	3103	6			90	90	180	
	看護実践課題研究(専門看護師コース)	3104	2			30	30	60	
	看護学原論	3501	1	15				15	
	フィジカルアセスメント	3502	2	30(集中講義)				30	
	家族看護論	3503	1	15(一部集中講義)				30	
	★ 健康心理学特論	3510	2		30			30	
	★ 看護心理学	3511	2	30				30	
	★ 質的研究方法論	3505	1	15				15	
	★ 環境疫学特講	3304	1		15			15	
	★ 言語文化特講Ⅰ	3506	2		30			30	
	★ 保健・医療・福祉システム看護学特講Ⅰ	3307	2	30				30	
	★ 量的研究方法論	3507	1		15			15	
	★ コミュニティ・デベロップメント論特講	3311	2	30(集中講義)				30	
	語法特殊講義	3314	2	30				30	
	看護海外研修	3315	1		15			15	
	看護臨床薬理学	3508	2	30				30	
	★ 臨床病態学	3509	2	30				30	
	★ コンサルテーション論	3273	2		30			30	
	看護管理学	3262	2		30			30	
	看護教育・援助論	3261	2		30			30	
	★ 女性と子どもの健康問題と看護	3241	2		30			30	
	★ 遠隔看護論	3281	2		30			30	
	★ 国際看護論	3202	1	15				15	

★ 遠隔授業対応科目(一部対応科目を含む)

博士後期課程授業科目（平成 29 年度入学生）

授業科目			科目 番号	単位数	時 間 数		計	
					1年			
					前学期	後学期		
領域別分野専門科目 (6単位)	基礎看護学領域	基礎看護学分野	基礎看護学特論Ⅲ	AI01	2	30		30
			基礎看護学演習Ⅱ	AI02	4	120		120
		看護管理学分野	看護管理学・看護教育学特論Ⅲ	AJ01	2	30		30
			看護管理学・看護教育学演習Ⅱ	AJ02	4	120		120
	発達看護学領域	母性・助産看護学分野	母性看護学特論Ⅲ	AC01	2	30		30
			母性看護学演習Ⅱ	AC02	4	120		120
		小児看護学分野	小児看護学特論Ⅲ	AF01	2	30		30
			小児看護学演習Ⅱ	AF02	4	120		120
		成人看護学分野	成人看護学特論Ⅲ	AB01	2	30		30
			成人看護学演習Ⅱ	AB02	4	120		120
	広域看護学領域	老年看護学分野	老年看護学特論Ⅳ	AB03	2	30		30
			老年看護学演習Ⅱ	AB04	4	120		120
		精神看護学分野	精神看護学特論Ⅳ	AB07	2	30		30
			精神看護学演習Ⅱ	AB06	4	120		120
		地域・在宅看護学分野	地域・在宅看護学特論Ⅲ	AG01	2	30		30
			地域・在宅看護学演習Ⅲ	AG02	4	120		120
里山・遠隔看護学分野		★ 里山・遠隔看護学特論Ⅳ	AH01	2	30		30	
		里山・遠隔看護学演習Ⅱ	AH02	4	120		120	
共通選択科目 (4単位以上)			★ ケアの哲学	BA01	2	30		30
			健康心理学特講	BA17	2		30	30
			人類学的研究方法論	BA12	2	30		30
			感染生物学特論	BA13	2		30	30
			★ 言語文化特講Ⅱ	BA05	2	30		30
			健康科学特講	BA06	2		30	30
			★ 保健・医療・福祉システム看護学特講Ⅱ	BA14	2	30		30
			国際看護援助論	BA10	2		30	30
			生命科学特論	BA08	2	30		30
			病理病態学特論	BA15	2	30		30
			★ 現象学的研究方法論	BA16	2	30		30

★遠隔授業対応科目

## 第4節 看護実践国際研究センターの活動

### (1) 概要

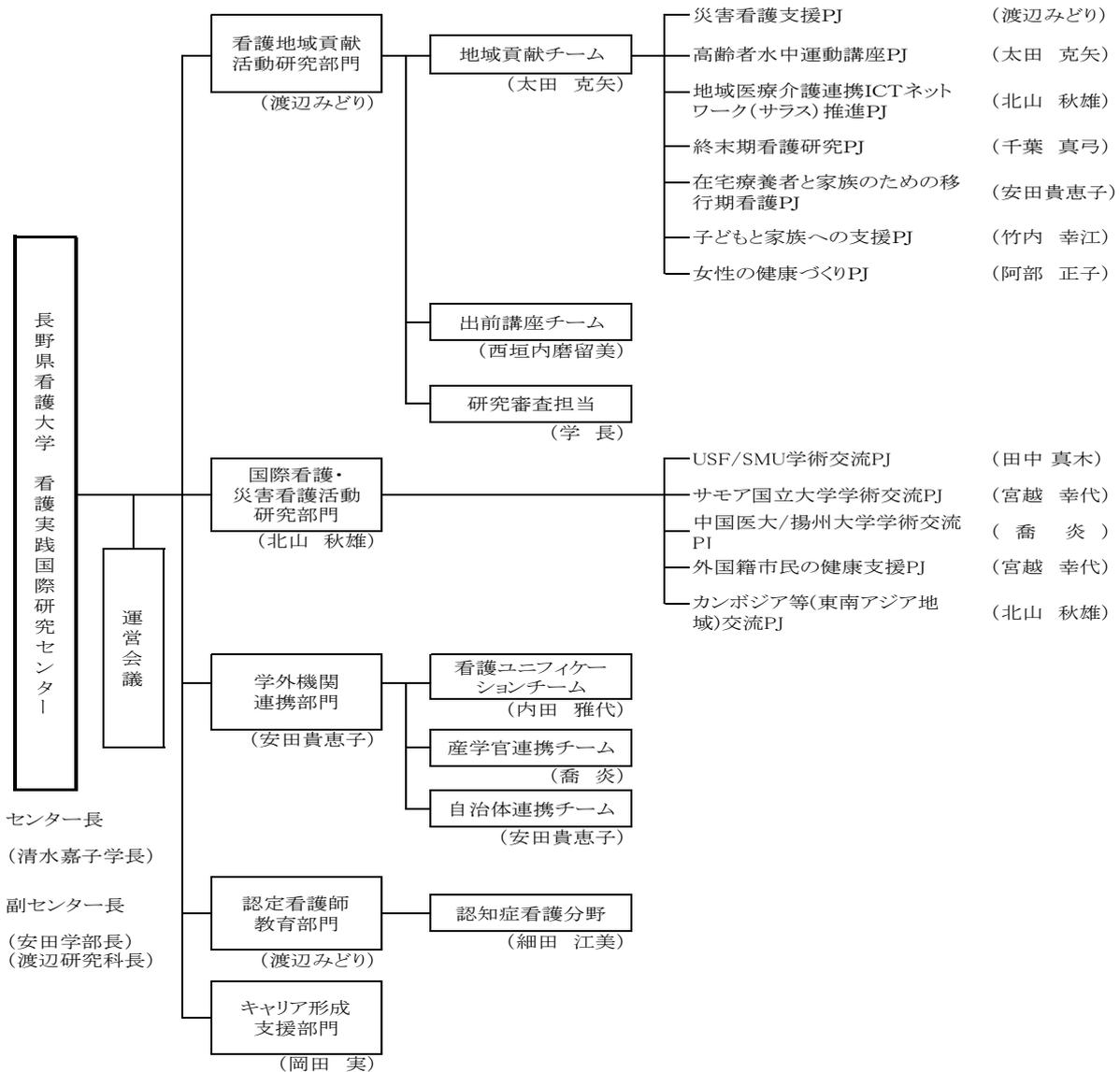
看護実践国際研究センターは国際的視野の涵養を背景に置き、講座や分野などの専門的な枠を超えた研究実践活動部門として平成14年度に設置された。

活動を推進するため、部門の名称・内容・運営等の見直しを行い、28年度より5つの部門とした。

29年度の活動状況は、看護大学研究集会（平成30年3月19日）で報告された。各部門の活動の詳細については、別に作成する「看護実践国際研究センター実績報告書」に記載する。また、平成29年度に岐阜県立大学のFD委員会並びに看護研究センター担当者3名が研修のため来校し、本学教員との交流を図った。

### 長野県看護大学 看護実践国際研究センター 組織図

平成29年4月1日現在 ( )内は代表者



#### 1) 看護地域貢献活動研究部門

地域貢献チーム、出前講座チーム、研究審査担当が活動を推進した。

地域貢献チームは、看護職者の教育・支援PJ、災害看護支援PJ、高齢者水中運動講座PJ、地域医療介護連携 ICT ネットワーク（サラス）推進PJ、終末期看護研究PJ、在宅療養者と家族のための移行期看護PJ、子どもと家族への支援PJ、女性の健康づくりPJが、地域住民へのケアの質やQOLの向上などに貢献する様々な活動を行った。

出前講座チームは平成29年度から本格スタートし、3件の出前講座を実施した。

研究審査担当は、県内看護職者との共同研究や特別研究・課題研究の審査を行った。

#### 2) 国際看護・災害看護活動研究部門

国際看護、災害看護に関する教育研究を支援する拠点として活動した。

USF/SMU 学術交流PJ、サモア国立大学学術交流PJ、中国医大/揚州大学学術交流PJ、外国籍市民の健康PJ、カンボジア等（東南アジア地域）交流PJが、国際交流活動を推進するとともに、地域との連携を踏まえた防災・災害支援の活動を進めた。

ネパールポカラ医療スタッフの視察受け入れや、本学教員が揚州大学医学部看護学院へ訪問するなど交流を行った。

#### 3) 学外機関連携部門

看護ユニフィケーションチーム、産学官連携チーム、自治体連携チームが活動を推進した。

本学は、平成26年度に南信地域の4病院との間で「看護連携型ユニフィケーション事業 基本協定」を締結し、教育連携、相互研修、研究交流を推進しており、29年度は新たに1病院と協定を締結した。産学官連携チームは、本学の「知の活用」を図り、学外機関との交流を推進するための窓口として活動しており、共同研究・受託研究の窓口としての活動、「スマート看護・福祉研究会」での活動、伊那谷アグリイノベーション推進機構との連携による活動等が進められた。また、学内教職員を対象に、産学官連携を促進するための研修会を開催した。

自治体連携チームは、駒ケ根市との包括連携協定に基づく事業の推進を図るため、駒ケ根市とのポカラへの母子保健活動支援の協力や少子化対策にかかる事業への協力、地域包括支援センターと住民の共同活動への支援、災害連携に向けた準備などを行った。

#### 4) 認定看護師教育部門

認定看護師教育課程を開講し、定員25名による認知症看護分野の教育を行った。修了者は23名であり、そのうち県内出身者は9名であった。受講希望者が多いことから、平成29年度から入試体制を全学組織とした。

#### 5) キャリア形成支援部門

本学で看護学を修めた卒業生・修了生が、その後も実践を通して大学との交流を継続できるよう、教育・研究機会の提供、研究活動に係る支援、進学・転職等に係る相談や情報提供などを行っている。

学部卒業生1年目に対する支援として「平成28年度卒業生あつまれ」を開催すると共に、卒業生に対する継続した調査研究を行っており、職場の支援体制を報告している。さらに、卒業生に対するキャリア形成の節目に遭遇する課題を支援するため、平成28年度から卒業生相談窓口を設置している。

### 第3章 教員の研修・研究、社会活動

#### 第1節 研修

##### (1) 国内研修

平成29年度に本学教員が国内で受けた研修は、延べ79件であった(表1-1)。また、この他にCITI Japan e-Learningを54名が受講し修了した。

(表1-1) 本学教員が受けた国内研修(五十音順)

氏名	開催年月	研修会名	開催場所
東 修	平成29年6月	日本精神保健看護学会	札幌市
	平成29年11月	日本精神科救急学会	金沢市
足立美紀	平成29年10月	駒ヶ根市教育委員会アレルギー講演会	駒ヶ根市
	平成29年11月	アレルギー大学ベーシックプログラム	静岡市
有賀智也	平成29年4月	第32回国際アルツハイマー病協会国際会議	京都府
	平成29年12月	第18回HOLOS国際看護セミナー2017「アメリカの高齢者における最善のエンドオブライフ・ケア/緩和ケアの提供」	東京都
	平成30年2月	第16回日本フットケア学会年次学術集会「フットケアを深める-足病学とフットケアの団結-」	福岡県
伊藤祐紀子	平成29年7月	北海道医療大学看護福祉学部看護学科同窓会福慧会設立20周年記念講演「再考～認知症ケアの中にみえる本当の看護を求める」	札幌市
	平成29年12月	講演「M-GTAの基本と実践応用力」	浜松市
	平成30年1月	M-GTA研究会シンポジウム「M-GTAで研究する～その意味と実践～」	東京都
井本英津子	平成29年12月	第37回日本看護科学学会学術集会	仙台市
	平成30年3月	平成30年度診療報酬改定説明会	東京都
浦野理香	平成30年2月	第45回日本集中治療医学会学術集会	千葉市
岡田 実	平成29年6月	第27回日本精神保健看護学会学術総会	札幌市
	平成29年11月	第25回日本精神科救急学会学術総会	金沢市
小野塚元子	平成29年4月	NHKハートフォーラム「認知症700万人 当事者と創る新時代～世界のトップランナーたちと～」	大阪市
	平成29年5月	認知症と家族の会研修「認知症の理解と援助」	飯田市
	平成29年7月	佐久大学公開講義:「導入演習」プレゼンテーション	佐久市
	平成29年9月	第13回京都橘大学高齢者ケア研究会	京都市
	平成29年12月	第18回HOLOS国際看護セミナー2017 がん看護セミナー	東京都
金子さゆり	平成30年3月	平成30年度診療報酬改定説明会	東京都
	平成30年3月	平成30年度介護報酬改定説明会	東京都
上條こずえ	平成29年10月	パワーハラスメントオンライン研修講座(web)	WEB
	平成30年2月	身体抑制と看護管理	東京都
	平成30年3月	初めての論文投稿と査読対応の実際(web)	WEB
	平成30年3月	平成30年度診療報酬改定説明会	東京都
熊谷理恵	平成29年5月	伊南循環器連携研修会	駒ヶ根市
	平成29年6月	セラピーを成り立たせるものー心理療法の視点からー	飯田市
	平成30年1月	学会誌における査読に関する研修会	名古屋市
	平成30年2月	臨床試験と遺伝子検査ーがん患者に与える影響と看護の役割ー	千葉市
近藤恵子	平成29年6月	日本地域看護学会第1回研究セミナー「挑戦!教分散構造分析」	東京都

氏名	開催年月	研修会名	開催場所
近藤恵子	平成30年1月	KJ法冬季セミナー	東京都
佐々木美果	平成29年7月	第66回神奈川胎児エコー研究会超ベーシック講座	横浜市
下村聡子	平成29年5月	認知症と家族の会研修「認知症の理解と援助」	飯田市
白井 史	平成29年8月	学童・思春期に死を迎える子どもと家族の看護	東京都
	平成29年9月	発達障害のある子が大人になったとき	安曇野市
	平成29年10月	後天性発達障害の理解とそのケア-環境によって起こった発達障害について-	伊那市
	平成29年12月	「愛着の器」モデルによる支援-「愛着」を視点に子どもを支援-	千曲市
高橋百合子	平成30年1月	看護教育モデル・コア・カリキュラム説明会	東京都
高山陽子	平成29年4月	国際アルツハイマー学会	京都府
	平成29年8月	認知症の人と家族の会「認知症の理解と援助」研修	松本市
	平成29年10月	第38回長野県看護研究学会	松本市
	平成29年11月	日本老年看護学会「ELNEC-JG」カリキュラム看護師教育プログラム	東京都
田中真木	平成29年9月	伊那中央病院倫理研修会	伊那市
	平成30年1月	看護学士課程教育の質を高めるカリキュラム開発に関する研修会	東京都
	平成30年3月	ユマニチュードを学ぼう ～優しさを伝えるケア ユマニチュードの技術～	駒ヶ根市
西村理恵	平成29年7月	長野県看護協会研修会「社会人基礎力の育成～職場環境づくりと人材育成のために～」	松本市
	平成29年7月	日本家族計画協会 受胎調節実地指導員養成講座	東京都
	平成29年7月	長野県看護協会研修会 「健康格差対策の進め方」	松本市
	平成29年9月	長野県助産師会研修会 「産後ケア事業」	塩尻市
	平成29年10月	日本助産師会安全管理研修会(災害対策・医療メディアエーション)	東京都
	平成29年11月	厚生労働省 次世代育成基盤研究事業 公開シンポジウム 「社会的ハイリスク妊婦の支援によって児童虐待・妊産婦自殺を防ぐ」	東京都
	平成29年12月	日本家族計画協会研修会 お母さんと子どもの元気セミナー「日本に住む外国人母子とその家族への支援とは」	東京都
	平成29年12月	日本産婦人科学会研修会 母と子のメンタルヘルスケア	東京都
	平成29年12月	日本家族計画協会 指導者のための避妊と性感染症予防セミナー	名古屋市
藤原聡子	平成29年11月	日本医史学会 医史学シンポジウム	東京都
松本淳子	平成29年6月	NHK 厚生文化事業団ハートフォーラム「境界性パーソナリティ障害—回復は大きならせん階段をのぼっていくように—」	大阪市
	平成29年7月	日本認知症ケア学会 2017年度認知症ケア上級専門士研修会	大阪市
	平成29年8月	NHK 厚生文化事業団ハートフォーラム「考えよう新しい『家族』の形—里親・特別養子縁組はいま—」	大阪市
	平成29年9月	NHK 厚生文化事業団ハートフォーラム「発達障害の子どもへの理解と支援—乳幼児期発達障害のサイン—」	大阪市
	平成29年9月	日本心理学会第81回大会チュートリアルワークショップ「声を操る！—STRAIGHT-WORLDにようこそ—」	久留米市
	平成29年9月	日本心理学会第81回大会チュートリアルワークショップ「マインドフルネストレーニングの実践方法」	久留米市
	平成29年10月	日本教育心理学会第59回総会研究委員会企画チュートリアルセミナー「統計モデルの違いを理解する—一般線形モデル・一般化線形モデル・階層線形モデル・階層的重回帰モデル—」	名古屋市
	平成29年10月	日本臨床心理士会平成29年度定例研修会1(東京)第10回障害の理解と支援に関する総合研修会(1)	東京都
	平成29年10月	日本臨床心理士会平成29年度定例研修会1(東京)第10回障害の理解と支援に関する総合研修会(2)	東京都

氏名	開催年月	研修会名	開催場所
松本淳子	平成 29 年 11 月	日本音楽知覚認知学会平成 29 年度秋季研究発表会チュートリアル「いまさら聞けない MIDI 実験の注意点」	松江市
	平成 29 年 12 月	第 9 回大阪市「認知症」医療・福祉専門職研修 認知症に取り組む『ダメ！と言わないケアを探る—前頭側頭葉変性症など—』	大阪市
御子柴裕子	平成 29 年 6 月 (後日 Web 受講)	第 10 回 JANS セミナー 社会への貢献を組み立て実装する看護学研究	東京都
	平成 29 年 7 月	第 23 回アルプス会総会講演会 私が一番受けたいココロの授業	松本市
宮越幸代	平成 29 年 7 月	JICA 国際協力機構；国際緊急援助隊医療チーム「中級研修」	東京都
	平成 29 年 10 月	NPO 法人災害看護支援機構 災害看護セミナー「災害関連死と看護ケア」	高松市
	平成 29 年 11 月	長野県看護協会「災害支援ナース」フォローアップ研修	松本市
	平成 29 年 12 月	日本集団災害医学会主催「MCLS 大量殺傷型テロ対応セミナー」	大阪大学
	平成 30 年 1 月	JICA 国際協力機構主催 安全対策研修「講義編」「実技編」	東京都
	平成 30 年 1 月	筑波大学エクステンションプログラム「看護管理職の惨事ストレス研修」	東京都
屋良朝彦	平成 29 年 7 月	公開講演会「相模原市津久井やまゆり園殺傷事件を振り返る」	立教大学
	平成 29 年 11 月	JICA 事業マネジメント研修「実用編」	JICA 駒ヶ根青年海外協力隊訓練所
	平成 29 年 11 月	第 8 回あいちリカバリー&地域支援ネットワーク交流会	名古屋市
	平成 30 年 1 月	さらりの集い in 沖繩	那覇市

## (2) 国外研修

平成 29 年度に本学教員が国外で受けた研修は、1 件であった。

氏名	開催年月	研修会名	開催場所
森野貴輝	平成 30 年 2 月	2016 年度 USF/ SMU 看護海外研修／交流プロジェクト	サンフランシスコ

## 第 2 節 研究活動

### (1) 助成金による研究活動

#### ① 文部科学省及び日本学術振興会が所管する科学研究費による研究

平成 29 年度に科学研究費助成事業の助成を受けて行った研究は 24 件であった。継続研究は 17 件、新規の研究は 8 件であった。(表 2・3)

(表 2) 平成 29 年度科学研究費助成事業の採択等の状況

	新規・継続			左記のうち新規			補助金額 (千円)
	応募件数	採択件数	採択率	応募件数	採択件数	採択率	
本学応募採択分①	43	25	58.1%	26	8	30.8%	26,950
転出分②		1			0		645
転入分③		0			0		
本学執行分①－②＋③		24			8		26,305

(表3) 平成29年度に科学研究費助成事業の助成を受けて行った本学の研究

研究種目	研究代表者	研究期間	研究課題名
基盤研究(A)	北山秋雄	平成28～31年度	地方小都市における最先端ITを用いた認知症トータルケアネットワークシステムの構築
基盤研究(B)	内田雅代	平成26～30年度	小児がん看護の標準化を目指した「ガイドライン」の臨床活用の検討とケアモデルの開発
	渡辺みどり	平成29～32年度	認知症トータルケアプログラムを適用した地域横断的看護力向上システム
基盤研究(C)	有賀美恵子	平成29～32年度	精神疾患が疑われる高校生に対処する養護教諭への支援－早期介入と医療との連携－
	安東由佳子	平成29～32年度	看護学生のキャリア教育につながるマインドフルネスを活用したストレス対処力育成
	佐々木美果	平成29～31年度	未就学児を持つシングルマザーの育児及び健康支援に向けた包括的アプローチの検討
	清水嘉子	平成29～32年度	家族の再構築を促す育児期支援プランの検討
	田中真木	平成29～32年度	日本の基礎看護教育における倫理的感受性育成プログラム開発－アジア諸国の比較研究－
	安田貴恵子	平成29～32年度	認知症ケア初動期の集中支援システムが予防機能を発揮するためのマネジメント指針
	金子さゆり	平成28～30年度	看護管理者のコンピテンシー獲得メカニズムの解明と組織的人材育成に関する研究
	柄澤邦江	平成28～31年度	がん終末期独居高齢者の在宅看取りを可能とするための訪問看護の実践と医療・介護連携
	曾根千賀子	平成28～30年度	認知症看護の自己点検評価法の開発および活用法の検討
	那須 裕	平成28～31年度	中山間地域において16年間継続してきた高齢者水中運動講座の効果の縦断的検証
	西垣内磨留美	平成28～30年度	看護系大学院生のための英文要約作成支援アプリの検討と開発
	屋良朝彦	平成27～30年度	応用倫理学における精神医療倫理と合意形成
	阿部正子	平成26～28年度	生殖医療に携わる看護師の実践能力開発とキャリア形成支援に関する研究
	太田克矢	平成26～29年度	看護学科新入生への理科的基礎知識の教授方法の開発
	塩澤綾乃	平成26～29年度	入院中の乳児に付き添う母親の母乳育児支援プログラムの実施と評価
	千葉真弓	平成26～30年度	認知症看護の質評価尺度の開発と臨床適用の検討
松本淳子	平成26～29年度	快適な病棟のための音環境デザイン	
挑戦的萌芽研究	有賀智也	平成27～30年度	矯正施設で高齢受刑者に携わる看護師が抱える困難感の解明と対処方略の検討
若手研究(B)	足立美紀	平成29～31年度	食物アレルギーを有する学童・思春期の子どもの自己管理への支援の検討
若手研究(B)	高橋百合子	平成27～30年度	慢性疾患をもつ子どもと家族に関わる外来看護師への教育支援プログラムの作成と評価
	熊谷理恵	平成26～31年度	がん臨床試験に参加する再発・進行がん患者の意思決定を支援する看護プログラムの開発

## ② 長野県看護大学特別研究費による研究

平成29年度に長野県看護大学特別研究費で行った研究は、12件であった。(表4)  
継続研究は8件、新規の研究は4件であった。

(表4) 平成29年度に長野県看護大学特別研究費で行った研究

研究代表者	研究期間	研究課題名
秋山 剛	平成27～29年度	長野県の里親が養育上抱える問題とその社会的支援についての研究
西村理恵	平成27～29年度	臨床助産師による助産学生の助産実践能力の査定と教育的支援
松本淳子	平成28～29年度	病棟における音楽療法の実践と効果
北山秋雄	平成28～29年度	駒ヶ根市における先端的ICTを用いた特定健診データ等の活用に関する研究
岡田 実	平成28～29年度	SALUSによるセミナーを通じて精神科熟練看護師のリーダーシップを促すプログラムの開発とその評価
東 修	平成28～29年度	SALUSを活用し看護研究支援プログラムを「エアリーチ」方式によって提供する実験的試みとその評価
安田貴恵子	平成28～29年度	新任保健師の実践能力を高める支援方法に関する研究
牛山陽介	平成28～29年度	火山災害時の死傷者ケアに必要な看護技術と知識の検討
安東由佳子	平成29～30年度	パーキンソン病患者におけるうつ発症のリスク要因に関する縦断研究
喬 炎	平成29年度	ガラス板圧診法による褥瘡の早期診断法の科学的検証
安東由佳子	平成29～30年度	長野県看護大学の教育の質評価に関する研究
近藤恵子	平成29～30年度	主体的に行動できる学生を育成するための看護教員と実習指導者のあり方の検討

## ③ 県内看護職者との共同研究

平成29年度に県内看護職者との共同研究費で行った研究は7件であった。(表5)

継続研究は4件、新規の研究は3件であった。

(表5) 平成29年度に県内看護職者との共同研究費補助金を受けて行った研究

研究代表者	研究期間	研究課題名	担当教員 (代表)
荻原香瑞誉(安曇野赤十字病院)	平成28～29年度	社会人経験を有する新人看護師の職場適応を促す看護師長の支援	渡辺みどり
前田美香子(伊那中央病院)	平成28～29年度	慢性心不全患者の療養生活支援に向けた訪問看護師と病棟看護師が必要とする情報の捉え方	曾根千賀子 伊藤季季
永島美典(東御市健康福祉部)	平成28～29年度	ソーシャル・キャピタル低地域で見られる共通要因の特定及び地域ネットワーク活性化への検討 — 一定性的手法による地域比較 —	安田貴恵子 御子柴裕子
杉浦恵子(松本短期大学看護学科)	平成28～29年度	長野県における周産期医療体制改善に向けた助産師の活用の検討	西村理恵
木下智津子(上伊那生協病院)	平成29～30年度	在日ブラジル人学校生徒の健康の実態と多職種連携による健康推進支援の取り組み	宮越幸代
太田美緒(昭和伊南総合病院)	平成29～30年度	外来看護職は要支援者を見つけ出せるか	高橋百合子
花岡佳子(伊那中央病院)	平成29～30年度	中堅看護師から中間管理者への役割移行の明確化および中間管理者育成プログラムの開発	金子さゆり

## ④ その他助成金による研究

平成29年度にその他の助成金を受けて行った研究は4件であった。(表6)

(表6) 平成29年度にその他の助成金を受けて行った研究

助成金名称	研究代表者	研究期間	研究課題名
共同研究費	喬 炎	平成29～30年度	幹細胞培養液の創部投与による早期褥瘡の早期治療の試み
共同研究費	喬 炎	平成29～30年度	セルロース誘導体液晶エラストマーを用いた褥瘡早期診断法と診断装置の開発

長野県科学振興会助成金	島袋 梢	平成 28～29 年度	日本に分布する感染症媒介蚊ヒトスジシマカの産卵行動と光環境の影 (前年度からの繰越分 37,653 円)
宇流麻学術研究助成基金	島袋 梢	平成 28～29 年度	感染症媒介蚊のヒト可視光領域外の光波長による行動抑制効果の検討 (前年度からの繰越分 5,620 円)

## (2) 分野の研究活動

分野	研究題名	研究内容
看護学・助産分野	性感染症予防に関するセミナー受講後の本学大学生への調査	H29年の女性の健康プロジェクト「性感染症について」(鈴風祭長野県在住大学訪問の高校生～大学生向けセミナー)で、アンケートにより、セミナー終了後の性感染症にたいする大学生の意識について調査した。その結果、セミナーを受講した本学大学生は、性感染症の知識を深め、自分自身やパートナーの健康について考える機会となっており、若者への性教育に効果的であることを示していた。今後は各年代に応じたプログラムを開発し、性感染症予防を含む女性の健康支援のための活動を検討したいと考える。
成人看護学分野	在宅パーキンソン病患者が療養生活を継続していくための疾病自己管理方略に関する研究	本研究は、成人期にある在宅パーキンソン病患者(PD患者)がQOLを維持しながら療養生活を継続していくための疾病自己管理方略を明らかにすることを目的としている。QOLに影響を及ぼす変数は、疾病自己管理行動の中の「好きなこと、楽しいことの継続」、「楽観的に考える」であった。人生や生活へのポジティブな思考や行動が、QOLに影響を及ぼすことが示され、趣味や生きがいをもちながら、楽観的に思考する等の疾病自己管理方略が、在宅PD患者には重要であることが示唆された。
	看護学生のストレス対処力育成に関する研究(科学研究費活用)	本研究は、青年期にある看護学生のストレスに関する研究であり、マインドフルネスによるストレス対処力育成の効果(心身への影響およびキャリア発達へ及ぼす影響)を検討することを目的としている。今年度は、文献検討により、ストレス対処力育成プログラムの枠組みと内容を検討した。
	一般病棟における看護師のせん妄ケアの実施状況と困難感	一般病棟に勤務する看護師のせん妄ケアの実施状況と困難感について、病棟による違いを検討した。せん妄ケアの実施状況では、18項目中全項目において内科系病棟より外科系病棟の方が、せん妄ケア実施頻度が高い傾向であった。
老年看護学分野	病棟看護師が医療観察下にある高齢対象者に行っている対応とその困難	「病棟看護師が医療観察下にある高齢対象者に行っている対応とその困難」を表題として、医療観察法病棟で労働に従事する看護師へ行ったインタビュー調査を行い、質的帰納的に分析し、成果発表として 第30回日本看護福祉学会学術大会で発表した。
	History of the Society for Elderly Care and Nursing in Japan	当分野と認知症認定看護師修了生、現場の看護職とともに行っている高齢者ケア研究会のあゆみについて第32回国際アルツハイマー病協会国際会議で発表した。
	病院における看護師の認知症ケアのチェックリストの開発	病院における看護職を対象に認知症ケアに関する振り返りのチェックリストを作成するための調査の実施・統計解析し、第32回国際アルツハイマー学会とTNWC&WANZ国際看護研究学会に発表した。また、研究成果がResearch in Gerontological Nursingに論文として掲載された。
	老年看護学領域に関わる災害看護研究の現状と今後の課題に関する研究概観	老年看護学領域に関わる災害看護の研究動向を把握し今後の調査研究ニーズの検討資料にすることを目的とし、過去15年間の国内外の文献を検討した。災害の種類フェイズ別に高齢者の健康課題と支援方法、課題を明らかにした。

分野	研究題名	研究内容
精神看護学分野	オンラインミーティングによるセミナーを通じて精神科熟練看護師のリーダーシップを育成するプログラムの実施と評価	精神科病院の看護部長から推薦を受けた熟練看護師 3~4 名を対象に、8 冊の文献を指定し、各自宅と大学間で年間 16 回のセッション（1 回 2 時間）をオンラインミーティングで実施し、このプログラム修了者に修了証書とネームプレートを進呈した。昨年度は 3 名終了し、これまでの 3 カ年で 9 名が修了している。修了者は引き続き、オンラインミーティングによる年間 12 回のセッションを活用し、1 冊の指定文献と一緒に熟読する文献抄読会に移行し、学習を継続しつつ人材育成を図り、職場において熟練看護師としての役割の発揮を促して現在に至る。
	オンラインミーティングを活用した看護研究支援プログラムを「エアリーチ」方式で実施するプログラムの実施と評価	医療機関の看護部との連携に基づいて、勤務時間中の 1 時間をオンラインミーティングで繋ぎ、年間 12 回のセッションを行い、研究動機、研究目的、研究方法、データの収集および分析結果、考察、臨床現場への寄与、院内発表、学会発表までの一連の流れを支援するプログラムである。昨年度は 2 施設と連携し 4 グループの研究課題を支援して現在に至る。
	オンラインミーティングを活用した医療機関へのコンサルテーションの提供と評価	人材育成セミナーや看護研究支援という定型的なセッションではなく、職場での看護実践上の課題や問題点について、勤務時間中の 1 時間をオンラインミーティングで繋いでディスカッションを行うことで、日々の看護実践の質を高めるいくつかのヒントを提供している。昨年度は、2 施設と連携し、2 つの看護師グループ（延 4 名）にコンサルテーションを実施して現在に至る。職場の課題や問題解決を期待されている。
	オンラインミーティングによる大学 - 臨床現場間の抄読会を通じた相互学習の実施と評価	上記のリーダーシップ育成プログラム、看護研究支援、コンサルテーションを通じて得られた施設との繋がりを背景に、勤務時間内 1 時間あるいは勤務時間外の 2 時間を通じて、1 冊の文献を年間 12 回のセッションを通じて熟読し、その内容に基づいてディスカッションを実施している。昨年度は 2 冊の文献毎に 2 グループ延 8 名の参加がした。教育現場と医療現場の最新情報交換の場でもあり、息長く活動を継続し現在に至る。
看護学・地域・在宅分野	新任期保健師の実践能力を高める支援方法に関する研究	長野県内市町村の新任期保健師を対象に、活動経験の実態、実践能力育成につながった経験等について質問紙調査を行い、その結果を県内の保健師人材育成検討会議で報告した。特別研究 A の研究費を得て行った。

### (3) その他研究活動

助成金を受けて行った研究活動以外の本学の研究活動については、以下のとおり。

#### ① 著書・翻訳（五十音順）

氏名	内容
東 修	東修 (2017): 精神医療の危機, その背景と新たな道(紹介文). 大塚淳子, 犬飼直子, 精神医療(88), 133-134, 批評社, 東京.
井村俊義	Michael Taussig (1993)/井村俊義 (2018): 模倣と他者性: 感覚における特有の歴史. 1-416, 水声社, 神奈川.
坂田憲昭	Herlihy B (2014)/坂井建雄(総監訳), 大久保暢子, 工藤宏幸, 安西なつめ, 坂田憲昭 (2017): ヒューマンボディ からだがわかる解剖生理学 原著第 5 版. エルゼビア・ジャパン, 東京.
座馬耕一郎	座馬耕一郎 (2017): 寄生虫との関わり. 辻大和, 中川尚史, 日本のサル: 哺乳類学としてのニホンザル研究, 203-220, 東京大学出版会, 東京.
	石川新一, 岩田有史, 座馬耕一郎, 水町衣里 (2017): アイデアをかたちに h 人類進化ベッドはこうしてできた. 大阪大学 CO デザインセンター, 対話で創るこれからの『大学』, 145-164, 大阪大学出版会, 大阪.
屋良朝彦	屋良朝彦 (2018): 『世界の散文』— 〈真理〉と表現という問題系の射程. 松葉祥一, 本郷均, 廣瀬浩司編, メルロ=ポンティ読本, 134-145, 法政大学出版, 東京.

② 論文 (五十音順)

氏名	内 容
秋山 剛	Tomokawa S, Kaewiset S, Saito J, Akiyama T, Waikugul J, Okada J, Kobayashi J, Jimba M (2018): Key factors for school health policy implementation in Thailand. Health Education Research, 33:186-195.
	Akihiro Nishio, Junko Saito, Sachi Tomokawa, Jun Kobayashi, Yuka Makino, Takeshi Akiyama, Kimihiro Miyake, Mayumi Yamamoto (2018): Systematic review of school tobacco prevention programs in African countries from 2000 to 2016. PLOS ONE, <a href="https://doi.org/10.1371/journal.pone.0192489">https://doi.org/10.1371/journal.pone.0192489</a> .
有賀美恵子	竹内幸江, 安田貴恵子, 有賀美恵子, 酒井久美子 (2017): 長野県看護大学看護学部卒業生の動向調査-1期生(1998年度卒業)から16期生(2013年度卒業)までの調査. 長野県看護大学紀要, 19:23-32.
安東由佳子	曾我部美恵子, 大原良子, 安東由佳子 (2018): M大学生の看護臨地実習における認識の特徴～日本語版実践力上昇尺度を用いた他大学生との関連～. 関西看護医療大学紀要, 10(1), 35-47.
	馬場美幸, 安東由佳子 (2018): 看護学生における臨地実習への取り組みに対する積極性に関連する要因の検討. 日本看護福祉学会, 23(2), 79-91.
小野塚元子	田中真佐恵, 北村隆子, 小野塚元子 (2017): 特別養護老人ホームに勤務する看護師の看護実践における生活の視点. 日本看護福祉学会誌, 23(1):65-79.
柄澤邦江	柄澤邦江(研究代表者), 清水美穂子, 伊藤みほ子, 安田貴恵子, 中林明子, 大石ふみ子 (2017): 緩和ケア外来に通院するがん患者の地域緩和ケアに関する認識—地域緩和ケアの充実を図る上での課題. 長野県看護大学紀要, 19:11-22.
	柄澤邦江(研究代表者), 安田貴恵子, 中林明子, 伊藤みほ子, 高橋光子 (2017): 訪問看護における在宅感染予防の実践状況と実践できないケアの理由. 日本赤十字看護学会誌, 17(1):53-59.
近藤恵子	近藤恵子, 小林たつ子 (2017): 複数患者受け持ちに関する学生の学びと困難をふまえた統合実習指導の課題. 長野県看護大学紀要, 19:33-44.
酒井久美子	竹内幸江, 安田貴恵子, 有賀美恵子, 酒井久美子 (2017): 長野県看護大学看護学部卒業生の動向調査—1期生(1998年度卒業)から16期生(2013年度卒業)までの調査. 長野県看護大学紀要, 19:23-32.
佐々木美果	中垣明美, 稲見崇孝, 佐々木美果, 馬場礼三 (2018): 妊婦水泳中に胎児徐脈をきたした一事例. 日本臨床スポーツ医学会誌, 1:144-148.
喬 炎	常淑文, 三浦大志, 北山秋雄, 一志歩乃加, 梁景岩, 陳斉紅, 束余声, 喬 炎 (2017): 八仙逍遥湯対大鼠圧力損傷の予防と治療効果(中国語). 中華現代護理雑誌, (23) 21:2714-2720.
	常淑文, 袁 媛, 廖月霞, 藤原聡子, 王艶薇, 北山秋雄, 田村かおり, 寘英茹, 喬 炎 (2017): 浅析中日2所高校高等護理教育差異及日本護士繼續教育的特点. 中国实用護理雑誌, (33)29:77-81.
	常淑文, 喬 炎, 束余声 (2017): 早期圧瘡の診断と治療新進展(中国語). 護理研究, (31)24:2963-2966.
	袁 媛, 常淑文, 王艶薇, 吳洪海, 北山秋雄, 喬 炎, 梁景岩 (2017): 中日両国学校護理專業解剖学教学比較(中国語). 解剖学研究, (39)4:294-296.
高橋百合子	穂高幸枝, 内田雅代, 高橋百合子 (2017): 他職種との連携・協働における看護師の困難と対処—より良い連携・協働にむけて—. 第47回日本看護学会論文集 看護管理, 185-188.
田中真木	アン・J・デービス著 聞き取り・翻訳:多賀谷昭, 田中真木 (2017): Travel to nursing ethics 看護倫理への旅. 長野県看護大学紀要, 19:1-10.
藤原聡子	常淑文・袁媛・廖月霞・藤原聡子・王艶薇・北山秋雄・田村かおり・喬炎 (2017): 浅析中日2所高校高等護理教育差異及日本護士繼續教育的特点. 中国实用護理雑誌(33)29, 77-81.
三浦大志	Kazufumi Nakamura, Daiji Miura, Yukihiro Saito, Kei Yunoki, Yasushi Koyama, Minoru Satoh, Megumi Kondo, Kazuhiro Osawa, Omer F. Hatipoglu, Toru Miyoshi, Masashi Yoshida, Hiroshi Morita, Hiroshi Ito (2017): Eicosapentaenoic acid prevents arterial calcification in klotho mutant mice, an animal model of typical aging. PLOS ONE, 3;12(8):2017.
	Yukihiro Saito, Kazufumi Nakamura, Daiji Miura, Kei Yunoki, Toru Miyoshi, Masashi Yoshida, Norifumi Kawakita, Tomonari Kimura, Megumi Kondo, Toshihiro Sarashina, Satoshi Akagi, Atsuyuki Watanabe, Nobuhiro Nishii, Hiroshi Morita, Hiroshi Ito (2017): Suppression of Wnt Signaling and Osteogenic Changes in Vascular Smooth Muscle Cells by Eicosapentaenoic Acid. Nutrients, 9(8), 858:2017.
	Toru Miyoshi, Kazufumi Nakamura, Daiji Miura, Masashi Yoshida, Satoshi Aakagi, Yuko Ohno, Megumi Kondo, Hiroshi Ito (2018): Effect of LCZ696, a dual angiotensin receptor neprilysin inhibitor, on isoproterenol-induced cardiac hypertrophy, fibrosis, and hemodynamic change in rats. Cardiology Journal, Ahead of print Original articles, Published online: 2018-04-25, Accepted:2018-04-03.
安田貴恵子	柄澤邦江, 安田貴恵子, 中林明子, 伊藤みほ子, 高橋光子 (2017): 訪問看護における在宅感染予防の実践状況と実践できないケアの理由. 日本赤十字看護学会誌, 第17巻1号:53-59.

氏名	内 容
安田貴恵子	柄澤邦江, 清水美穂子, 伊藤みほ子, 安田貴恵子, 中林明子, 大石ふみこ (2017): 緩和ケア外来に通院するがん患者の地域緩和ケアに関する認識—地域緩和ケアの充実を図る上での課題. 長野県看護大学紀要, 19:11-21.
	竹内幸江, 安田貴恵子, 有賀美恵子, 酒井久美子 (2017): 長野県看護大学学部卒業生の動向調査—1期生(1998年度卒業)から16期生(2013年度卒業)までの調査. 長野県看護大学紀要, 19:23-32.
	田村須賀子, 山崎洋子, 時田礼子, 安田貴恵子 (2018): 学士課程の講義・演習における「保健師の家庭訪問」の教育内容・方法の特徴. 保健師ジャーナル, 74(1):48-54.
渡辺みどり	藤野あゆみ, 渡辺みどり (2018): 看護職の倫理的感受性に関する研究動向と課題. 日本看護福祉学会誌, 23, 93-106.

### ③ 学会発表 (五十音順)

氏名	内 容
秋山 剛	秋山剛: 専門里親のライフ・ストーリー. 長野県看護大学研究集会, 2018.3.19, 駒ヶ根市.
	秋山剛, 竹内幸江, 柄澤邦江, 北山秋雄: 専門里親のライフストーリー. 長野県看護大学研究集会, 2018.3.19, 駒ヶ根市.
東 修	東修, 黒川めぐみ, 田中順子, 大蔵真理: 精神科看護師が患者から向精神薬の副作用の説明を求められた時に感じている困難と対応方法. 第25回精神科救急学会学術集会, 2017.11.3, 金沢市.
	東修, 岡田実, 有賀美恵子, 長南幸恵, 森野貴輝, 塩澤実香, 北山秋雄, 秋山剛: SalusVisionを活用した看護研究支援プログラムを「エアリーチ」方式によって提供する実験的試みとその評価. 平成29年度長野県看護大学研修集会(口頭発表), 2018.3.19, 駒ヶ根市.
	岡田実, 東修, 有賀美恵子, 長南幸恵, 森野貴輝, 北山秋雄, 秋山剛: SalusVisionによるセミナーを通じて精神科熟練看護師のリーダーシップを促すプログラムの開発とその評価. 平成29年度長野県看護大学研修集会(口頭発表), 2018.3.19, 駒ヶ根市.
足立美紀	足立美紀, 内田雅代, 高橋百合子, 白井史, 竹内幸江: 食物アレルギーの子どもや家族に対する保育士の対応の実態. 第64回日本小児保健協会学術集会, 2017.7.1, 大阪府.
	足立美紀, 内田雅代, 高橋百合子, 白井史, 竹内幸江: 保育園における食物アレルギーの子ども/家族への対応の実態. 第64回日本小児保健協会学術集会, 2017.7.1, 大阪府.
	高橋百合子, 内田雅代, 白井史, 足立美紀, 竹内幸江: 慢性疾患をもつ子どもと家族に関わる小児科外来看護師への教育支援プログラムの評価. 日本小児看護学会第27回学術集会, 2017.8.19, 京都市.
	M. Uchida, F. Shirai, Y. Ohara, N. Takenouchi, M. Hirata, M. Adachi, Y. Takahashi, S. Takeuchi, J. Nonaka5, J. Ogawa, M. Mori: How Hospital Environment Influences Children's Cancer Nursing in Japan. The 49th Annual Congress of the International Society of Paediatric Oncology (SIOP 2017), 2017.10.12-15, Washington, D.C., USA.
有賀智也	Tomoya Aruga, Tomiko Karasawa, Midori Watanabe, Mayumi Chiba, Emi Hosoda, Yuka Egashira, Chikako Sone, Akira Uehara: History of the Society for Elderly Care and Nursing in Japan. 32th International Conference of Alzheimer's Disease International, 2017.4.26-29, Kyoto, Japan.
	有賀智也, 渡辺みどり, 太田克矢, 千葉真弓, 曾根千賀子, 江頭有夏, 細田江美: バランス維持機能と健康関連 QOL および抑うつとの関係. 日本看護福祉学会, 2016.6.25-6.26, 奈良県広陵町.
有賀美恵子	有賀美恵子: 精神疾患が疑われる高校生と家族を支える養護教諭の支援-専門多職種と連携支援をすすめるための工夫-. 第37回日本看護科学学会学術集会, 2017.12.16, 仙台市.
安東由佳子	Yukako Ando, Takako Yasuda, Ryoko Ohara, Mizue Yuge, Mieko Sokabe, Mina Yonekawa: Japanese Nursing Students' Sense of Belongingness During the Clinical. The 2nd Asia-Pacific Nursing Research Conference, 2017.8.2-4, Taipei.
	Ryoko Ohara, Mieko Sokabe, Takako Yasuda, Misuzu Yuge, Yukako Ando, Mina Yonekawa: Perception of Safety and Security During the Clinical Placement at. The 2nd Asia-Pacific Nursing Research Conference, 2017.8.2-4, Taipei.
	安東由佳子, 植木美乃, 山脇健盛, 饗場郁子, 齋藤由扶子, 犬飼晃, 阿部朱美, 松川則之, 小林敏生: 在宅パーキンソン病患者の抑うつ, QOL および SOC の関連. 第82回日本健康学会, 2017.11.10-11, 沖縄.
井出彩織	井出彩織, 阿部正子: 初めて子どもをもつ妊娠末期の夫婦にみられる相互作用～親密さの視点からみた夫婦2組の語りより～. 第20回長野県母子衛生学会, 2017.11.11, 松本市.
伊藤佑季	熊谷理恵, 浦野理香, 伊藤佑季, 牛山陽介, 安東由佳子: 一般病棟看護師のせん妄ケアの実施状況と困難感(第2報)臨床経験年数による比較. 第30回日本看護福祉学会, 2017.7.1-2, 佐賀市.
	前田美香子, 伊藤佑季: 慢性心不全患者の療養生活支援に向けた訪問看護師と病棟看護師が必要とする情報の捉え方. 第14回日本循環器看護学会, 2017.9.9-10, 徳島市.

氏名	内容
伊藤祐紀子	近藤恵子, 田中真木, 田村かおり, 井本英津子, 小林由美子, 那須淳子, 上條こずえ, 伊藤祐紀子: 主体的に行動できる学生を育成するための看護教員と実習指導者の連携・協働に関する研究の動向と課題, 長野県看護大学研究集会, 2018.3.19, 駒ヶ根市.
岡田 実	東修, 岡田実, 有賀美恵子, 長南幸恵, 森野貴輝, 塩澤実香, 北山秋雄, 秋山剛: SalusVision を活用した看護研究支援プログラムを「エアリーチ」方式によって提供する実験的試みとその評価. 平成 29 年度長野県看護大学研修集会(口頭発表), 2018.3.19, 駒ヶ根市. 岡田実, 東修, 有賀美恵子, 長南幸恵, 森野貴輝, 北山秋雄, 秋山剛: SalusVision によるセミナーを通じて精神科熟練看護師のリーダーシップを促すプログラムの開発とその評価. 平成 29 年度長野県看護大学研修集会(口頭発表), 2018.3.19, 駒ヶ根市.
小野塚元子	小野塚元子, 家根明子: Video-based-ethnography in Decision-making Support for Early Dementia Patients and their Family. 第 32 回国際アルツハイマー病協会国際会議, 2017.4.26, 京都市. 家根明子, 小野塚元子: Social inclusion of the elderly: Home Health Nursing Practicum as an opportunity for Dementia Prevention. 第 32 回国際アルツハイマー病協会国際会議, 2017.4.26, 京都市. 小野塚元子, 家根明子: 認知症初期集中支援におけるチームのかかわりの特徴と課題. 第 7 回日本在宅看護学会学術集会, 2017.11.25, 甲府市. 家根明子, 小野塚元子, 長瀬雅子: 認知症初期集中支援チームにおけるチーム員個々の役割と特徴. 第 37 回日本看護科学学会学術集会, 2017.12.16, 仙台市.
金子さゆり	Sayuri Kaneko: Between provision of healthcare and the quality of life to patients after stroke living at Home in Japan. ICN 2017 -Congress Barcelona 2017-, 2017.5, SPAIN. 金子さゆり, 川崎つま子, 松浦正子, ウィリアムソン彰子, 平岡翠, 鈴江智恵, 伊藤てる子, 真下綾子, 近藤恵子: 看護管理者のキーコンピテンシーとコンピテンシー獲得モデルの構築. 第 21 回日本看護管理学会学術集会, 2017.8, 横浜. 吉松由子, 金子さゆり: 看護師の自己教育力の向上に資する看護管理者の支援尺度の開発. 第 21 回日本看護管理学会学術集会, 2017.8, 横浜. 井本英津子, 金子さゆり: 看護教員経験年数による看護教員の能力への関連. 第 27 回日本看護学教育学会学術集会, 2017.8, 沖縄. 吉松由子, 金子さゆり: 成人学習を基盤とする看護師の自己教育力測定尺度の開発. 第 37 回日本看護科学学会学術集会, 2017.12, 仙台. 井本英津子, 金子さゆり: 3 年課程看護師養成所に勤務する看護教員の能力向上に影響する職場サポートの検討. 第 37 回日本看護科学学会学術集会, 2017.12, 仙台. 吉岡詠美, 金子さゆり: 基礎教育と継続教育における倫理的判断能力の獲得レベルと倫理教育の現状. 第 37 回日本看護科学学会学術集会, 2017.12, 仙台.
熊谷理恵	熊谷理恵, 浦野理香, 伊藤佑季, 牛山陽介, 安東由佳子: 一般病棟看護師のせん妄ケアの実施状況と困難感(第 2 報). 日本看護福祉学会, 2017.7, 佐賀市. 渡辺まゆ美, 熊谷理恵: 術後乳がん患者における放射線性皮膚炎への対処行動 -放射線治療終了直後から次回外来受診時までに着目して-. 日本がん看護学会, 2018.2, 千葉市.
近藤恵子	金子さゆり, 川崎つま子, 松浦正子, ウィリアムソン彰子, 平岡翠, 鈴江智恵, 伊藤てる子, 真下綾子, 近藤恵子: 看護管理者のキーコンピテンシーとコンピテンシー獲得モデルの構築. 第 21 回日本看護管理学会, 2017.8.19, 横浜. 近藤恵子, 田嶋紀子, 白鳥さつき, 大石ふみ子: 放射線診療に従事する看護師の職業被ばく対策に関する研究. 第 6 回日本放射線看護学会, 2017.9.3, 名古屋. 大石ふみ子, 白鳥さつき, 田嶋紀子, 近藤恵子, 伊藤眞由美: 放射線診療に携わる看護師の職業被ばくについての考え. 第 6 回日本放射線看護学会, 2017.9.3, 名古屋. 近藤恵子, 田中真木, 田村かおり, 井本英津子, 小林由美子, 那須淳子, 上條こずえ, 伊藤祐紀子: 主体的に行動できる学生を育成するための看護教員と実習指導者の連携・協働に関する研究の動向と課題, 長野県看護大学研究集会, 2018.3.19, 駒ヶ根市.
酒井久美子	安田貴恵子, 田村須賀子, 村井ふみ, 御子柴裕子, 酒井久美子, 下村聡子, 春山早苗, 山崎洋子: 地域における認知症ケアの推進に関わる保健師の活動:自治体保健師による実践報告の分析. 第 6 回日本公衆衛生看護学会学術集会, 2018.1.6-7, 大阪市.
座馬耕一郎	中村美知夫, 保坂和彦, 伊藤詞子, 松本卓也, 松阪崇久, 仲澤伸子, 西江仁徳, 島田将喜, 高畑由起夫, 山上昌紘, 座馬耕一郎: 野生チンパンジーの対峙的肉肉食:同所肉食動物との関係に着目して. 第 71 回日本人類学会大会, 2017.11.5, 東京. 重田眞義, 座馬耕一郎, 相原進: 私たちはどのような格好で眠っているか「人類進化ベッド®」使用時の寝姿勢. 生態人類学会第 23 回研究大会, 2018.3.24, 南城市.

氏名	内容
島袋 梢	川田均, 中澤秀介, 島袋梢, 大橋和典, Eggrey Aisha Kambewa, Dylo Foster Pemba: メトフルトリン製剤を用いたマラウイ共和国におけるマラリアコントロールに関する大規模試験(1)マラリア媒介蚊個体群に対する密度抑制効果と小児の熱帯熱マラリア陽性率に対する影響. 第 69 回 日本衛生動物学会大会, 2017.4.14, 長崎市.
下村聡子	安田貴恵子, 田村須賀子, 村井ふみ, 御子柴裕子, 酒井久美子, 下村聡子, 春山早苗, 山崎洋子: 地域における認知症ケアの推進に関わる保健師の活動:自治体保健師による実践報告の分析. 第 6 回日本公衆衛生看護学会学術集会, 2018.1.6-7, 大阪市.
白井 史	M. Uchida , F. Shirai , Y. Ohara , N. Takenouchi , M. Hirata , M. Adachi , Y. Takahashi, S. Takeuchi, J. Nonaka5 , J. Ogawa , M. Mori: How Hospital Environment Influences Children's Cancer Nursing in Japan. The 49th Annual Congress of the International Society of Paediatric Oncology (SIOP 2017), 2017.10.12-15, Washington, D.C., USA.
	足立美紀, 内田雅代, 高橋百合子, 白井史, 竹内幸江: 食物アレルギーの子どもや家族に対する保育士の対応の実際. 第 64 回日本小児保健協会学術集会, 2017.7.1, 大阪府.
	足立美紀, 内田雅代, 高橋百合子, 白井史, 竹内幸江: 保育園における食物アレルギーの子ども/家族への対応の実際. 第 64 回日本小児保健協会学術集会, 2017.7.1, 大阪府.
	高橋百合子, 内田雅代, 白井史, 足立美紀, 竹内幸江: :慢性疾患をもつ子どもと家族に関わる小児科外来看護師への教育支援プログラムの評価. .日本小児看護学会第 27 回学術集会 , 2017.8.19, 京都市.
	M. Uchida , F. Shirai , Y. Ohara , N. Takenouchi , M. Hirata , M. Adachi , Y. Takahashi, S. Takeuchi, J. Nonaka5 , J. Ogawa , M. Mori : How Hospital Environment Influences Children's Cancer Nursing in Japan. The 49th Annual Congress of the International Society of Paediatric Oncology (SIOP 2017), 2017.10.12-15, Washington, D.C, USA.
	平田美佳, 竹之内直子, 小原美江, 白井史, 内田雅代: 小児がんの子どもと家族のケアに携わる看護師の捉えたケア上の困難(第 1 報)病状の説明と信頼関係の構築. 第 15 回日本小児がん看護学会学術集会, 2017.11.11, 松山市.
	竹之内直子, 平田美佳, 小原美江, 白井史, 内田雅代: 小児がんの子どもと家族のケアに携わる看護師の捉えたケア上の困難と課題(第 2 報)終末期に笑点を当てて. 第 15 回日本小児がん看護学会学術集会, 2017.11.11.
曾根千賀子	Chikako Ikegami, Katsumasa Ota: FACTORS THAT HOSPITAL NURSES MAKE UP THE IMPORTANCE OF RECOGNIZING DEMENTIA CARE. 32nd International Conference of Alzheimer's Disease International , 2017.4.26-29, Kyoto.
	Yukari Niimi, Katsumasa Ota, Chikako Ikegami: method for displaying electronic patient records based on information privacy. International Council of Nurses congress , 2017.5.27-6.1, Barcelona.
	Ota, K., Otake, E., Niimi Y., Sone C, . Yamada S., Maeda, J., Matsuda M.: Method of Estimation of Expectation and Satisfaction with Dignity of Patients with Dementia - Examining the Feasibility of the IPDS as a Proxy Estimation of Patient Dignity -. 3rd International Ethics in Care Conference, 2017.9.15, Leuven.
	Chikako Ikegami, Katsumasa Ota, Yukari Niimi: Components of nursing care for patients with dementia. TNMC & WANS International Nursing Research Conference , 2017.10.22, Thailand.
喬 炎	喬 炎, 三浦大志, 北山秋雄, 王艶薇, 柄澤邦江, 伊藤みほ子, 森上幸恵, 常淑文, 張樹槐, 赤羽秀樹: iPhone/スマートフォンのカメラを活用した褥瘡の早期診断装置の開発. 第 19 回日本褥瘡学会, 2017.9.14, 盛岡市.
	喬 炎, 曾根原紀佳, 三浦大志: 水素水浴によるドライスキンの紫外線(UV-B)傷害の軽減効果. 第 24 回日本システム学会学術総会, 2017.11.4, 横浜市.
	喬 炎, 三浦大志, 島袋梢, 北山秋雄: ガラス板圧診法による褥瘡の早期診断法の科学的検証. 平成 29 年度 長野県看護大学研究集会, 2018.3.19, 駒ヶ根市.
高橋百合子	足立 美紀, 内田 雅代, 高橋 百合子, 白井 史, 竹内 幸江: 食物アレルギーの子どもや家族に対する保育士の対応の実際. 第 64 回日本小児保健協会学術集会, 2017.7.1, 大阪市.
	足立 美紀, 内田 雅代, 高橋 百合子, 白井 史, 竹内 幸江: 保育園における食物アレルギーの子ども・家族への対応の実際. 第 64 回日本小児保健協会学術集会, 2017.7.1, 大阪市.
	高橋百合子, 内田雅代, 白井史, 足立美紀, 竹内幸江: 慢性疾患をもつ子どもと家族に関わる小児科外来看護師への教育支援プログラムの評価. 日本小児看護学会第 27 回学術集会, 2017.8.19, 京都市.
	M. Uchida , F. Shirai , Y. Ohara , N. Takenouchi , M. Hirata , M. Adachi , Y. Takahashi, S. Takeuchi, J. Nonaka5 , J. Ogawa , M. Mori: How Hospital Environment Influences Children's Cancer Nursing in Japan. The 49th Annual Congress of the International Society of Paediatric Oncology (SIOP 2017), 2017.10.12-15, Washington, D.C., USA.

氏名	内容
竹内幸江	足立美紀, 内田雅代, 高橋百合子, 白井史, 竹内幸江: 保育園における食物アレルギーの子ども・家族への対応の実践. 第 64 回日本小児保健協会学術集会, 2017.7.1, 大阪市.
	足立美紀, 内田雅代, 高橋百合子, 白井史, 竹内幸江: 食物アレルギーの子どもや家族に対する保育士の対応の実践. 第 64 回日本小児保健協会学術集会, 2017.7.1, 大阪市.
	高橋百合子, 内田雅代, 白井史, 足立美紀, 竹内幸江: 慢性疾患をもつ子どもと家族に関わる小児科外来看護師への教育支援プログラムの評価. 第 27 回日本小児看護学会学術集会, 2017.8.19, 京都市.
	小原涼, 太田克矢, 竹内幸江: 尿試験紙を用いた検査で陽性を呈する疑似尿の汎用性の検証. 第 37 回日本看護科学学会学術集会, 2017.12.16, 仙台市.
	太田克矢, 竹内幸江, 小原涼: 看護学科新入生の理科的基礎知識の現状—高校での理科の履修科目と入学試験の形態に着目して—. 第 37 回日本看護科学学会学術集会, 2017.12.17, 仙台市.
千葉真弓	Tomoya Aruga, Midori Watanabe, Katsuya Ota, Mayumi Chica, Yuka Matsuzawa, Chikako Sone, Emi Hosoda: Influence of sleep inducing drug on the subjective health status and fall-prevention self-efficacy of the elderly living in a region : Lessons from analysis of the elderly with exercise habits in Japan. 31th International Conference of Alzheimer's Disease International, 2016.4.21-24, Budapest, Hungary.
	Midori WATANABE, Emi HOSODA, Mayumi CHIBA, Chikako SONE, Tomoya ARUGA, Yuka EGASGIRA: Individualized care practices in care-homes for elderly people with dementia in Japan :Comparison of administrators' experience of dementia care. 31th International Conference of Alzheimer's Disease International, 2016.4.21-24, Budapest, Hungary.
	矢澤玲子, 千葉真弓, 渡辺みどり, 柄澤邦江: 病気とともに在宅で生きる高齢夫婦の関係の進展. 第 29 回日本看護福祉学会学術大会, 2016.6.25-26, 奈良県広陵町.
	有賀智也, 渡辺みどり, 太田克矢, 千葉真弓, 曾根千賀子, 江頭有夏, 細田江美: バランス維持機能と健康関連 QOL および抑うつとの関係. 第 29 回日本看護福祉学会学術大会, 2016.6.25-26, 奈良県広陵町.
西垣内磨留美	Marumi Nishigauchi: The Meaning of Women's Clothing Emerging from American Literature. The International Journal of Arts & Sciences' International Conference for Social Sciences and Humanities, 2017.5.24, Boston, U.S.A.
	Marumi Nishigauchi, Katsuya Ota: Launching a Project for Supporting Graduate Nurse Students. 16th Hawaii International Conference on Education, 2018.1.7, Honolulu, U.S.A.
西村理恵	西村理恵, 阿部正子, 藤原聡子, 佐々木美果, 塩澤綾乃, 廣瀬紀子, 井出彩織: 臨床助産師による学生の助産実践能力の査定と教育的支援に関する研究..長野県看護大学研究集会, 2018.3.19, 駒ヶ根市.
	奥原香織, 杉浦恵子, 西村理恵: 長野県における周産期医療体制改善に向けた助産師の活用の検討. .長野県看護大学研究集会, 2018.3.19, 駒ヶ根市.
細田江美	Emi Hosoda, Midori Watanabe, Yoko Takayama, Akira Uehara: Roles of Teachers of Nurses to Support Nursing Practice as Dementia Certified Nurses. 32th International Conference of Alzheimer's Disease International, 2017.4.26-29, Kyoto, Japan.
松本淳子	Matsumoto, J.: Effects of natural environmental sounds on cognition of peculiar noises in hospital wards. inter-noise 2017, 2017.8.30, Hong Kong.
	松本じゅん子: 大学生における地域の音環境の特色と印象. 日本心理学会第 81 回大会, 2017.9.20, 久留米市.
	松本じゅん子: 音楽による味覚への影響. 日本音響学会 2017 年秋季研究発表会, 2017.9.26, 松山市.
	松本じゅん子: 看護系大学生の休学や留年における有効な支援. 日本教育心理学会第 59 回総会, 2017.10.7, 名古屋市.
	松本じゅん子, 多賀谷 昭, 北山秋雄: 病棟における音楽療法の実践と効果. 第 14 回長野県看護大学研究集会, 2018.3.19, 駒ヶ根市.
松本じゅん子: 起床時の音楽の利用と気分. 日本音響学会 201 年春季研究発表会, 2018.3.13, 宮代町.	
三浦大志	喬炎, 三浦大志, 島袋梢, 北山秋雄: ガラス板圧診法による褥瘡の早期断科学的検証. 第 14 回 長野県看護大学研究集会, 2018.3.19, 駒ヶ根市.
御子柴裕子	安田貴恵子, 御子柴裕子, 中村杏子, 丸山ますみ: 保健師の中に残る「もやもや感」に焦点をあてたワークショップにおけるリフレクションスキル. 日本地域看護学会第 20 回学術集会, 2017.8.5-6, 大分県別府市.
	安田貴恵子, 田村須賀子, 村井ふみ, 御子柴裕子, 酒井久美子, 下村聡子, 春山早苗, 山崎洋子: 地域における認知症ケアの推進に関わる保健師の活動:自治体保健師による実践報告の分析. 第 6 回日本公衆衛生看護学会学術集会, 2018.1.6-7, 大阪市.

氏名	内容
御子柴裕子	安田貴恵子, 御子柴裕子, 中村杏子, 丸山ますみ: 保健師の中に残る「もやもや感」に焦点をあてたワークショップにおけるリフレクシオンスキル. 日本地域看護学会第20回学術集会, 2017.8.5-6, 大分県別府市.
宮越幸代	岡本凡乃, 宮越幸代: 災害看護等の研究における救援者を対象とした倫理的配慮の実態と課題. 日本災害看護学会第19回年次大会, 2017.8.26-27, 倉吉市.
	牛山陽介, 宮越幸代: 火山災害時の死傷者のケアに必要な看護技術と知識の検討. 日本災害看護学会第19回年次大会, 2017.8.26-27, 倉吉市.
村井ふみ	安田貴恵子, 田村須賀子, 村井ふみ, 御子柴裕子, 酒井久美子, 下村聡子, 春山早苗, 山崎洋子: 地域における認知症ケアの推進に関わる保健師の活動:自治体保健師による実践報告の分析. 第6回日本公衆衛生看護学会学術集会, 2018.1.6-7, 大阪市.
森野貴輝	渡辺みどり, 秋山剛, 森野貴輝: 2017年度看護海外研修(サンフランシスコ大学, サミュエルメリット大学). 平成29年度長野県看護大学研究集会, 2018.3.19, 駒ヶ根市.
安田貴恵子	安田貴恵子, 御子柴裕子, 中村杏子, 丸山ますみ: 保健師の中に残る「もやもや感」に焦点をあてたワークショップにおけるリフレクシオンスキル. 日本地域看護学会第20回学術集会, 2017.8-5-6., 大分県別府市.
	田村須賀子, 安田貴恵子, 山崎洋子, 高倉恭子: 子ども虐待を危惧し一時保護となった幼児と家族に対する母子福祉担当保健師の支援意図. 日本地域看護学会第20回学術集会, 2017.8.5-6, 大分県別府市.
	牛尾裕子, 宮芝智子, 嶋澤順子, 塩見美抄, 田村須賀子, 松下光子, 飯野理恵, 安田貴恵子, 山崎洋子: 地区活動演習の学びを評価するルーブリックのモデレーションプロセスが参加教員にもたらす意味. 日本地域看護学会第20回学術集会, 2017.8-5-6., 大分県別府市.
	山崎洋子, 安田貴恵子, 城諒子, 田村須賀子: 学士課程の講義・演習で家庭訪問事例を使う教員が学生に期待する学習成果. 日本公衆衛生学会, 2017.10, 鹿児島市.
	安田貴恵子, 田村須賀子, 村井ふみ, 御子柴裕子, 酒井久美子, 下村聡子, 春山早苗, 山崎洋子: 地域における認知症ケアの推進に関わる保健師の活動:自治体保健師による実践報告の分析. 第6回日本公衆衛生看護学会学術集会, 2018.1.6-7., 大阪市.
	田村須賀子, 山崎洋子, 安田貴恵子, 高倉恭子: 障害者支援施設退所後の生活拠点を本人・家族・多職種と検討した保健師の支援意図. 第6回日本公衆衛生看護学会学術集会, 2018.1.6-7., 大阪市.
	春山早苗, 田村須賀子, 中尾八重子, 安田貴恵子, 山崎洋子, 鈴木久美子, 塚本友栄, 関山友子, 島田裕子, 青木さぎ里, 江角伸吾, 土屋ちひろ: 地区管理にかかわる市町村保健師の活動 その1:活動の様相と地区管理の課題. 第6回日本公衆衛生看護学会学術集会, 2018.1.6-7., 大阪市.
	中尾八重子, 春山早苗, 田村須賀子, 山崎洋子, 安田貴恵子, 鈴木久美子, 塚本友栄, 関山友子, 島田裕子, 青木さぎ里, 江角伸吾, 土谷ちひろ: 地区管理にかかわる市町村保健師の活動 その2:人口規模別の課題と工夫. 第6回日本公衆衛生看護学会学術集会, 2018.1.6-7., 大阪市.
	鈴木久美子, 春山早苗, 田村須賀子, 中尾八重子, 安田貴恵子, 山崎洋子, 塚本友栄, 関山友子, 島田裕子, 青木さぎ里, 江角伸吾, 土谷ちひろ: 地区管理にかかわる市町村保健師の活動 その3:活動分野別の課題と工夫. 第6回日本公衆衛生看護学会学術集会, 2018.1.6-7., 大阪市.
渡辺みどり	Tomoya Aruga, Tomiko Karasawa, Midori Watanabe, Mayumi Chiba, Emi Hosoda, Yuka Egashira, Chikako Sone, Akira Uehara: History of the Society for Elderly Care and Nursing in Japan. 32th International Conference of Alzheimer's Disease International, 2017.4.26-29., Kyoto, Japan.
	Tomoya Aruga, Tomiko Karasawa, Midori Watanabe, Mayumi Chiba, Emi Hosoda, Yuka Egashira, Chikako Sone, Akira Uehara: History of the Society for Elderly Care and Nursing in Japan. 32th International Conference of Alzheimer's Disease International, 2017.4.26-29, Kyoto, Japan
	Emi Hosoda, Midori Watanabe, Yoko Takayama, Akira Uehara: Roles of Teachers of Nurses to Support Nursing Practice as Dementia Certified Nurses . 32th International Conference of Alzheimer's Disease International, 2017.4.26-29, Kyoto, Japan.
	渡辺みどり, 増谷順子, 太田喜久子, 松岡千代, 小野幸子, 六角遼子, 千田睦美, 田中久美, 関由香里, 渡部昭子: 老年看護学領域に関わる災害看護研究の現状と課題. 日本老年看護学会第22回学術集会, 2017.9.14-16, 名古屋市.

#### ④ 研究報告書 (五十音順)

氏名	内容
安東由佳子	安東由佳子, 阿部朱美, 奥田鈴美, 植木美乃, 松川則之, 山脇健盛, 小林敏生: パーキンソン病患者における抑うつ症状の発症・進行に関与する心理・社会的要因の検討. 公益財団法人メンタルヘルス岡本記念財団 研究助成報告書 2016年度(第28号), 7-11, 2017.

氏名	内容
酒井久美子	安田貴恵子, 竹内幸江, 有賀美恵子, 酒井久美子: 長野県看護大学学部卒業生の動向とキャリア形成の実態. 平成 27-28 年度長野県看護大学特別研究費課題研究報告書. 1-12, 2017.
高橋百合子	竹内幸江, 山下恵子, 内田雅代, 白井史, 高橋百合子, 太田克矢: きょうだいを亡くした子どもへのグリーフケアの早期介入プログラムに関する研究. 平成 25-27 年度日本学術振興会科学研究費助成事業基盤研究報告書. 2017.
竹内幸江	竹内幸江, 山下恵子, 内田雅代, 白井史, 高橋百合子, 太田克矢: きょうだいを亡くした子どもへのグリーフケアの早期介入プログラムに関する研究. 平成 25-27 年度日本学術振興会科学研究費助成事業基盤研究報告書. 2017
安田貴恵子	安田貴恵子, 竹内幸江, 有賀美恵子, 酒井久美子: 長野県看護大学学部卒業生の動向とキャリア形成の実態. 平成 27-28 年度長野県看護大学特別研究費課題研究報告書. 1-12, 2017.

⑤ 講演等 (五十音順)

氏名	内容
東 修	東修, 岡田実: Web 会議システムを使用した看護研究支援, 2017.5~2018.4 の期間, 合計 9 回, 駒ヶ根市, 函館市.
	東修, 鈴木千穂: 看護人事・労務管理, 看護職の健康管理とストレスマネジメント. 平成 29 年度認定管理者教育課程, セカンドレベル研修, 2017.6.16, 松本市.
	東修: 精神科看護事例検討会. 2017.7.27, 10.26, 12.13.(合計 3 回), 駒ヶ根市
	東修, 岡田実: 看護実践に関するコンサルテーション(NCON)の主催(2 施設, 年間各 10 回), 駒ヶ根市
	東修: TRUE COLORS 入門講座, 2017.1.30, 函館市
井村俊義	井村俊義: 看護の詩学:理論と実践のあいだ. 精神医療倫理科研・技術哲学科研・合同研究会, 2018.2.21, 東京都.
太田克矢	太田克矢, 松本淳子, 久保知奈津, 曾根千賀子, 有賀智也, 屋良朝彦, 千葉真弓, 井村俊義, 細田江美, 宮越幸代, 座馬耕一郎, 渡辺みどり, 御子柴裕子, 那須淳子, 森野貴輝, 近藤恵子, 牛山陽介, 酒井久美子, 村井ふみ, 小林明子, 上條こずえ, 下村聡子, 田中真木, 那須裕, 野口利香, 中澤彩子, 春日由美子, 湯沢まゆみ: 2017 信州ねりんピック文化・芸術交流大会 in こまがね. 長野県看護大学高齢者水中運動講座, 2017.12.2, 駒ヶ根市.
小野塚元子	小野塚元子: 地域包括ケアと退院支援. 日本老年看護学会平成 29 年度認知症看護対応力向上研修, 2017.9.17, 佐久市.
金子さゆり	金子さゆり: 看護研究の基礎知識. 昭和伊南総合病院看護部, 2017.6, 駒ヶ根市.
	金子さゆり: リーダーシップ研修(1 回目). 伊那中央病院看護部, 2017.7, 伊那市.
	金子さゆり: 看護の思考過程に沿った看護記録. 長野県看護協会, 2017.7, 松本市.
	金子さゆり: 臨床現場のケアの向上を目指した看護職者支援プログラム「看護過程」研修会(2回目). 長野県看護大学看護ユニフィケーション事業, 2017.11, 駒ヶ根市.
	金子さゆり: 臨床現場のケアの向上を目指した看護職者支援プログラム「看護過程」研修会(1 回目). 長野県看護大学看護ユニフィケーション事業, 2017.9, 駒ヶ根市.
	金子さゆり: リーダーシップ研修(2 回目). 伊那中央病院看護部, 2017.10, 伊那市.
	金子さゆり: リーダーシップレベルアップ研修. 伊那中央病院看護部, 2017.11, 伊那市.
	金子さゆり: 臨床現場における看護研究テーマの見つけ方. 名古屋市立大学病院看護部研修会, 2018.2, 名古屋市.
	金子さゆり: プリセプター準備研修. 伊那中央病院看護部, 2018.3, 伊那市.
熊谷理恵	熊谷理恵: 長野県看護大学出前講座. カイロプラクティックによる骨盤健康教室, 2018.2, 駒ヶ根市.
近藤恵子	近藤恵子: これからのシンプルケアセミナーForWOC. 2017.8.27, 安曇野市.
	近藤恵子: フィジカルアセスメント講習会. 消化器系、泌尿器科系、外皮, 2017.9.3, 駒ヶ根市.
座馬耕一郎	座馬耕一郎: チンパンジーに「眠り」を学ぶ. 鎌倉女子大学生涯学習センター平成 29 年度公開講座「赤い類人猿、黒い類人猿:森に棲むヒトの親戚」, 2017.11.9, 鎌倉市.
	座馬耕一郎, 椎野若菜: サルをみる、ヒトをみる:ヒトとサル、親と子、そしてベッド. 20 世紀の映像百科事典「エンサイクロペディア・シネマトグラフィカ」連続上映, 2017.12.3, 東京.
喬 炎	喬 炎: 褥瘡早期診断に用いるガラス板圧診法の適正圧力の検証. 揚州大学特別講演会, 2018.3.1, 中国 揚州市.

氏名	内 容
森野貴輝	岡田実, 東修, 有賀美恵子, 長南幸恵, 森野貴輝: セミナーや看護研究支援プログラムを通じて臨床現場と大学が協働し精神科看護実践を再構築する実験的試み. 日本精神保健看護学会 第27回学術集会ワークショップ, 2017.6.25, 札幌市.
	Atsuki Morino: Current status and issues of mental health care in Japan. 2018.2.26, San Francisco.
安田貴恵子	安田貴恵子: ポカラ市北部における住民参加型保健活動を軸とした持続可能な母子保健プロジェクト 現地視察報告会. 2018.1.31, 駒ヶ根市.
屋良朝彦	河野哲也, 屋良朝彦, 神戸和佳子, 前田有香, 花井彩也子: 琉球新報:子ども・保護者哲学カフェ. 哲学対話@沖縄, 2018.1.31, 那覇市.
	河野哲也, 屋良朝彦, 神戸和佳子, 前田有香, 花井彩也子: 宮古高校の哲学対話. 哲学対話@沖縄, 2018.2.1, 宮古島市.
渡辺みどり	渡辺みどり: メンバーシップ研修. 看護チームにおけるメンバーシップ, 2017.6.8, 伊那市.
	渡辺みどり: 伊那中央病院 メンバーシップ研修. メンバーシップとリーダーシップ, 2017.6.8, 伊那市.
	渡辺みどり: 日本老年看護学会 認知症看護対応力向上研修(加算2対応研修). 認知症に特有な倫理的課題, 認知症患者に特有な倫理的課題と意思決定支援, 2017.9.16-17, 佐久市.
	渡辺みどり: 丸の内病院 倫理研修. 高齢患者の意思決定支援, 2017.10.4, 松本市.
	渡辺みどり: 日本老年看護学会 認知症看護対応力向上研修(加算2対応研修). せん妄の予防と対応方法, 2017.11.19-20., 駒ヶ根市.
	渡辺みどり: 日本老年看護学会 認知症看護対応力向上研修(加算2対応研修). 認知症に特有な倫理的課題, 認知症患者に特有な倫理的課題と意思決定支援, 2017.11.19-20, 駒ヶ根市.
	渡辺みどり: 日本老年看護学会 認知症看護対応力向上研修(加算2対応研修). 認知症に特有な倫理的課題, 認知症患者に特有な倫理的課題と意思決定支援, 2018.2.4-5, 出雲市.

#### ⑥ 出版物等(五十音順)

氏名	内 容
東 修	東修 (2017): 専門看護師のチカラ, 第38回, 看護現場の環境改善—管理者とCNSの協働について—. 村上一則, ベストナース, 9, 51-52, 株式会社北海道医療新聞社, 北海道.
足立美紀	足立美紀 (2017.7.28): "情報ホットライン TOPIC01 理解あるサポートを! 増える食物アレルギー". 月刊かみい, 6.
座馬耕一郎	座馬耕一郎 (2017): 空飛ぶカタツムリの謎. マハレ珍聞, 1, マハレ野生動物保護協会, 京都.
喬 炎	喬 炎, 北山秋雄, 三浦大志, 範江林, 赤羽秀樹 (2017): 褥瘡の早期診断用リングライトアダプタ. 実用新案, No.3211867.
高橋百合子	穂高幸枝, 高橋百合子 (2018): 小児科外来における家族との適切な「かかわり方・支え方・寄り添い方」. 継続看護を担う体質強化外来看護, vol.23, no.1, 121-128, 日総研, 名古屋.
宮越幸代	宮越幸代 (2017): リウマチ熱から子どもたちを守る! サモアで始まったプロジェクト. Nursing BUSINESS, vol.11, no.4, 63, メディカ出版, 東京.

### 第3節 社会・地域貢献活動

平成29年度に本学教員が行った学外の研修会・講演会(第2節⑤講演等に記載の講演を除く)、学会等に関する活動は、延べ160件であった(表6)。

また、本学教員が行った看護職者等が取り組む研究への支援は、延べ29件であった(表7)。

(表6) 本学教員が行った社会・地域貢献活動(五十音順)

氏名	活 動 内 容
秋山 剛	国際学校保健コンソーシアム 事務局 構成員
	NPO 法人 メータオ・クリニック支援の会 理事
	飯田女子短期大学 非常勤講師
	信州公衆衛生学会 理事
	国立大学法人長崎大学 健康な地域社会をつくる学童支援プロジェクト(ケニア共和国) 短期専門家
	駒ヶ根市要保護児童等支援ネットワーク 構成員
東 修	看護事例検討会 講師(こころの医療センター駒ヶ根)
	長野県看護協会認定看護師セカンドレベル研修(労務管理) 講師
	看護実践に関するコンサルテーション(NCON)の主催(2施設, 年間各10回)

氏名	活動内容
東 修	TRUE COLORS 入門講座 講師 (函館市)
有賀智也	高齢者ケア看護研究会 事務局運営
	上伊那医療生協 法人拡大倫理委員会 委員
	長野県民主医療機関連合会 「看介護研究講座」 講師
有賀美恵子	日本学校メンタルヘルス学会誌 査読者
伊藤佑季	第31回日本看護福祉学会学術大会 大会事務局員
伊藤祐紀子	中部 M-GTA 研究会世話人 (講演会、ワークショップ、研究発表会の企画開催)
	鍼灸師会上伊那地区 フィジカルアセスメント研修講師分担
	長野県看護大学看護実践センター学外機関連携部門 看護ユニフィケーション事業研究研修会「やってみよう！事例研究」講師
井本英津子	臨床現場のケアの向上を目指した看護職者支援プログラム「看護過程研修会」研修ファシリテーター
浦野理香	昭和伊南総合病院 事例検討会講評
太田克矢	駒ヶ根市環境審議会 会長
	駒ヶ根市政策研究所政策研究会 研究員
	長野県公衆衛生専門学校 非常勤講師
	公益財団法人大学基準協会 大学評価委員会大学評価分科会第46群委員
岡田 実	日本精神保健看護学会誌 査読委員
	日本赤十字看護学会誌 査読委員
	第27回日本精神保健看護学会学術総会、ワークショップ主催
	長野県立こころの医療センター駒ヶ根、倫理審査委員会外部審査委員
	精神科熟練看護師育成セミナー (SAE) の主催 (年間16回)
	看護実践に関するコンサルテーション (NCON) の主催 (2施設、年間各10回)
文献抄読会 (NJC) の主催 (年間12回)	
小野塚元子	第31回日本看護福祉学会学術大会 企画委員
	非営利活動法人のぞみの里 運営推進協議会 委員
金子さゆり	医療の質・安全学会誌 査読委員
	日本看護科学学会誌 査読委員
	日本医療・病院管理学会誌 査読委員
	日本看護協会 認定看護管理者カリキュラム基準検討ワーキンググループ委員
	日本学術振興会科学研究費補助金 審査委員
	昭和伊南総合病院 倫理審査委員
	第21回日本看護管理学会学術集会 抄録査読
	第37回日本看護科学学会学術集会 抄録査読
第31回日本看護福祉学会学術集会 事務局	
上條こずえ	鍼灸師会上伊那地区 フィジカルアセスメント研修講師分担
	長野県公衆衛生専門学校 非常勤講師
北山秋雄	南信里親里子交流支援の会 顧問
	日本ルーラルナーシング学会 評議員
	日本民族衛生学会 評議員
	日本思春期学会 査読委員
	日本ルーラルナーシング学会誌 査読委員
	日本在宅ケア学会 査読委員
	飯田女子短期大学 非常勤講師
	長野県公害審査会 委員
日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究S) 審査委員	
熊谷理恵	第31回日本看護福祉学会学術大会 大会事務局
近藤恵子	日本ストーマ・排泄・リハビリテーション学会：評議員・社会保険委員
	長野県ストーマリハビリテーション研究会：世話人 (第22回研究会会長)
	日本褥瘡学会：評議員

氏名	活動内容
近藤恵子	長野県褥瘡懇話会：世話人
	長野県看護協会：学会委員・編集委員
坂田憲昭	愛知医科大学 非常勤講師
	川崎看護専門学校 非常勤講師
酒井久美子	JICA 草の根技術協力事業「ボカラ市北部における住民参加型地域保健活動を軸とした持続可能な母子保健プロジェクト」本邦研修 新生児訪問の方法・演習担当
佐々木美果	駒ヶ根市赤穂公民館ベビーマッサージ教室講師
	駒ヶ根市赤穂公民館第3回女性セミナー「シングルマザーの保健意識と現状」講師
座馬耕一郎	日本霊長類学会 評議員・渉外担当幹事
	アフリカ・アジアに生きる大型類人猿を支援する集い 世話人
	マハレ野生動物保護協会 理事
	日本人類学会 進化人類分科会 幹事 岐阜県立看護大学 非常勤講師
島袋 梢	平成29年度信州大学教員免許更新講習会 講師
下村聡子	JICA 草の根技術協力事業「ボカラ市北部における住民参加型地域保健活動を軸とした持続可能な母子保健プロジェクト」本邦研修 新生児訪問の方法・演習担当
白井 史	日本小児がん看護学会 ケア検討委員
曾根千賀子	長野県民主医療機関連合会「看介護研究講座」講師
喬 炎	平成29年度 教員免許状更新講習会（信州大学） 講師
	長野県総合教育センター（理科・生物講座）への教育支援 4回
	一流講師に学ぶ理科の実験実技講習会（長野県教育委員会主催） 講師
	日本未病システム学会 評議員
	長野県須坂看護学校 非常勤講師
	東京理科大学との共同研究 1件 一般社団法人国際抗老化再生医療学会との共同研究 1件
高橋百合子	日本重症心身障害福祉協会認定重症心身障害看護師研修 講師
高山陽子	長野県介護支援専門員研修委員会：委員
	長野県健康福祉部主事：平成28年度看護職員認知症対応力向上研修：講師
	介護支援専門員実務研修「認知症に関する事例」講師
	長野県看護協会：新人看護職員研修会「認知症高齢者への関わり方、精神症状の理解」：講師 第38回長野県看護研究学会：交流集会企画運営
竹内幸江	日本看護倫理学会・評議員
	日本小児看護学会・評議員 専任査読員 広報委員 災害対策委員
	日本小児がん看護学会・専任査読員
	日本看護学教育学会・専任査読員
	千葉看護学会・査読員 長野県看護実習指導者養成講習会 講師
千葉真弓	日本老年看護学会 査読員
	日本老年看護学会 認知症対応力向上研修 講師
	日本看護福祉学会 理事・査読員
	愛知県立大学大学院 非常勤講師 長野県伊那公衆衛生専門学校 非常勤講師
那須淳子	長野県公衆衛生専門学校 非常勤講師
	昭和伊南総合病院 事例検討会講評
西垣内磨留美	多民族研究学会会長
	黒人研究学会役員
	アイリッシュ・アメリカン研究会副代表
	多民族研究学会第25回全国大会 シンポジウム座長
	長野県赤穂高等学校評議員 長野県公衆衛生専門学校非常勤講師

氏名	活動内容
西村理恵	長野県助産師会 副会長
	長野県助産師会 災害対策委員会 副委員長
	長野県助産師会 教育委員
	長野県立飯田高等学校 評議員
藤原聡子	看護協会主催進路指導担当者会議 講師
松本淳子	日本音楽知覚認知学会理事（研究発表会担当）
	日本音楽知覚認知学会音楽知覚認知研究編集委員
	日本音楽知覚認知学会創立 30 周年記念出版「音楽知覚認知ハンドブック」第 12 章「音楽と産業・社会」副編集委員
	日本日症ケア学会認知症ケア上級専門士
	長野県公衆衛生専門学校非常勤講師（心理学，統計学）
三浦大志	平成 29 年度 信州大学教員免許状更新講習会 講師
	日本生理学会アウトリーチ活動 登録講師
	飯田女子短期大学 非常勤講師
	長野県須坂看護専門学校 非常勤講師
御子柴裕子	平成 29 年度保健師のための実践力向上研修会—個別援助から学ぼう！—（全 4 回） 企画・実施、ファシリテーター（伊那保健福祉事務所との共催）
	日本ルーラルナーシング学会 編集委員会
	大町保健福祉事務所新任保健師研修会 企画委員
宮越幸代	文化庁委託事業 駒ヶ根市「日本語学習事業」委員
	日本災害看護学会 ネットワーク活動・調査調整部 委員
	信州木曾看護専門学校 「国際看護・災害看護」非常勤講師
	駒ヶ根市総合防災訓練上穂町区第 5 町内地区防災訓練「避難所としての体育館視察と利用についての意見交換」主催（本学防災委員長）
	駒ヶ根市日赤奉仕団活動 団員
	駒ヶ根市・宮田村・飯島町・松川町主催「みなこいワールドフェスタ」企画・実行委員
	飯田・下伊那北部教職員会 全員研究会 養護教諭部会研修「震度 6 みんなで備えれば怖くない！災害発生後の医療者の連携と役割」講師
村井ふみ	JICA 草の根技術協力事業「ボカラ市北部における住民参加型地域保健活動を軸とした持続可能な母子保健プロジェクト」本邦研修 新生児訪問の方法・演習担当
森野貴輝	Liberta(リベルタ)の会 主催メンバー
安田貴恵子	日本地域看護学会 代議員、日本地域看護学会誌 査読委員
	日本ルーラルナーシング学会 理事、日本ルーラルナーシング学会誌 査読委員
	千葉看護学会誌 査読委員
	信州公衆衛生学会誌 編集委員
	日本看護系大学協議会 看護学教育評価検討委員
	医療マネジメント学会長野支部看護師分科会北信地区看護連携協議会 退院支援・退院調整基礎研修講師
	松本保健所管内保健師研修会講師「保健師実践能力の育成 ～保健師としての歩みと成長を可視化してみよう」
	長野県中堅期保健師研修グループコンサルタント、講師「保健事業の枠組みを確認しよう」「実践プロセスの意義と育成する能力」
	長野県新人保健師研修企画運営（全 4 回）
	日本地域看護学会第 21 回学術集会 企画委員
	駒ヶ根市総合保健計画策定検討委員会委員、駒ヶ根市国民健康保険特定健康審査等実施計画策定委員会委員
飯島町健康づくり計画（第 4 次）検討委員会委員	
信州木曾看護専門学校 非常勤講師	
屋良朝彦	伊那市医療政策審議会委員
	日本学術振興会特別研究員審査員
	教員免許状更新講習 講師「こどもの哲学 —哲学的対話の理論と実践—」

氏名	活動内容
屋良朝彦	長野県公衆衛生専門学校 非常勤講師
	信州木曾看護専門学校 非常勤講師
	岡谷市看護専門学校 非常勤講師
	長野県須坂看護専門学校非常勤講師
	伊那谷 生と死を考える会 会員
	地域円卓会議@駒ヶ根 哲学対話集会 主催
渡辺みどり	日本老年看護学会 代議員・査読委員
	日本老年看護学会災害支援検討委員
	日本老年看護学会生涯学習支援委員
	日本看護福祉学会 理事・査読委員/第30回日本看護福祉学会学術大会講演発表座長
	日本看護科学学会 代議員
	千葉看護学会 査読委員
	佐久大学外部評価委員

(表7) 本学教員が行った看護職者等が取り組む研究への支援（五十音順）

氏名	病院等施設名	支援内容
東 修	市立函館病院	Web 会議システムを活用した臨床看護師に対する看護研究支援 H29年5月～H30年3月までの計9回
	函館渡辺病院	Web 会議システムを活用した臨床看護師に対する看護研究支援
	伊那神経科病院	Web 会議システムを活用した臨床看護師に対する看護実践のコンサルテーション
伊藤祐紀子	伊那中央病院	院内研究指導 1 件
	伊那中央病院	共同研究に向けた研究計画書の支援 1 件
	伊那中央病院	院内発表会での講評
浦野理香	長野県立木曽病院	院内研究指導 3 件、発表会での助言
岡田 実	市立函館病院	院内研究支援、研究発表支援 3 題
	函館亀田北病院	院内研究支援、研究発表支援 3 題
	伊那神経科病院	院内研究支援 1 題
小野塚元子	伊那中央病院	院内研究指導 1 題
金子さゆり	伊那中央病院	院内研究指導 1 件、共同研究 1 件
	昭和伊南総合病院	研究に関する講義、研究アドバイザー 7 件、発表会での助言
	名古屋市立大学病院	研究に関する講義、研究指導 2 件
上條こずえ	伊那中央病院	院内研究指導 3 題
熊谷理恵	伊那中央病院	院内研究指導 1 題、発表会での助言
曾根千賀子	長野県民主医療機関連合会	研究発表会での助言
	伊那中央病院	研究指導 1 題
高橋百合子	日本重症心身障害福祉協会	研究指導 5 題
	伊那中央病院	院内研究指導 3 題
	昭和伊南総合病院	共同研究に向けた研究計画書の支援 1 題
竹内幸江	岡谷市民病院	研究指導 11 題
田中真木	伊那中央病院	院内研究指導 1 題
那須淳子	昭和伊南総合病院	事例研究発表会 講評
御子柴裕子	長野県訪問看護研究委員会 (長野県看護協会)	訪問看護に関する調査研究
宮越幸代	伊那中央病院	平成 28 年度～29 年度 院内看護研究指導「A 病院の「DMAT」及び「災害支援ナース」に登録する看護師の災害看護活動に対するモチベーションの推移とそれに影響するもの
	伊那中央病院	平成 29 年度院内看護研究発表会 助言
渡辺みどり	伊那中央病院	プリセプター研修講師 1 回
	丸の内病院	倫理委員会研修「高齢患者の意思決定支援」講師 1 回

## 第4章 社会貢献

### 第1節 公開講座

平成29年度に開催した公開講座の状況は、以下のとおりである。

	開催日・時間	テーマ	講師	参加人数
1	9月16日(土)	佐久総合病院と今後の地域医療	JA長野厚生連佐久総合病院 伊澤 敏 統括院長兼院長	38名
2	平成30年 2月17日(土)	産み育てることに目を向けて	長野県看護大学 清水 嘉子 学長	104名
3	平成30年 3月3日(土)	「子どもや家族とともに創造する看護」を目指して -小児看護の実践・教育・研究活動から学んだこと-	長野県看護大学 内田 雅代 教授	100名
合計				242名

### 第2節 分野の活動

平成29年度に行った分野としての活動は、以下のとおりである。

分野	活動内容
基礎看護学分野	産学連携協定している伊那市タカノ株式会社(福祉機器製造開発)の開発製品を用いての「床ずれ防止に関する体圧分散」の体験学習 9月20日(水)9:00~10:30 本学2年生を対象に実施 10月30日(月)13:00~14:30 本学1年生 基礎看護方法Ⅱのポジショニングの演習一部として実施
	長野県鍼灸師会フィジカルセサメント講習会(9月3日) 講師:伊藤祐紀子、近藤恵子、上條こずえ
母性・助産看護学分野	H29.9(鈴風祭初日)長野県看護大学 看護実践国際研究センター・看護地域貢献部門 女性の健康プロジェクト「性感染症について」(鈴風祭 長野県在住大学訪問の高校生~大学生向けセミナー)企画・運営
小児看護学分野	駒ヶ根市近郊に住むアレルギー疾患をもつ子どもと親の会「たんぼぼの会」の活動を支援し、学内で月1回の定例会を実施した。定例会では、アレルギーに関するミニ講話や専門学会における新たな知見や疾患管理に関する情報を提供するとともに、親同士の情報交換の場となるよう支援した。また、平成29年11月25日に、「アレルギーを持つ子どもと家族が楽しく、安全に安心して生活するために」をテーマとした講演会を実施した。内容は(1)「たんぼぼの会」の母親からのメッセージと(2)小児科医師による講演で、参加者は32名であった。
成人看護学分野	壮年期の中でも特に子育て期の母親を対象に、骨盤健康教室を開催した。内容は、骨盤に関する座学と骨盤体操・骨盤調整の実技で構成した。成人期の中でも、日常的に自分の身体のメンテナンスをする機会がなく、自分の身体に目を向ける意識のない子育て期の方を対象とし、健康への意識を高める契機となった。

分 野	活 動 内 容
成人看護学分野	病院の看護研究 8 件を分担して支援した。研究計画書作成から論文発表までを支援し、8 件中、2 件は学会発表まで行うことが出来た。
老年看護学分野	3 月 1 日に民医連主催の看護・介護研究発表会に出席し、研究のコメント・アドバイスを含めた講評をおこなった。 2017 年（平成 29 年）8 月 25 日長野県民主医療機関連合会看介護研究講座「内容分析とは」について、講師として講義を実施した。
	介護老人保健施設「すずたけ」の行事である「すずたけまつり」にボランティアとして教員が、学生 10 名と一緒に参加した。
	高齢者看護ケア研修会では、研究会を 2 回開催し、企画・運営のサポートを行った。 ・2017 年（平成 29 年）9 月 2 日 テーマ「在宅で暮らす高齢者への関わり-生き生きと暮らし続けるためのケア-」 ・2018 年（平成 30 年）2 月 3 日 テーマ「高齢者の意思決定支援」
	2018 年（平成 30 年）3 月 7 日 水中運動講座骨密度測定大会を実施し、地域在住高齢者へ自身の健康状態を知る機会を提供した。
	2017 年（平成 29 年）5 月 15 日 伊那中央病院において、2 年目の看護師を対象として「メンバーシップ研修」の講師を務めた。
	2017 年（平成 29 年）9 月 16-17 日 日本老年看護学会認知症看護対応力向上研修を開催し、県内外の病院看護職約 60 名に向けた「認知症加算 2」対応研修を実施し、講師を務めた。
	2017 年（平成 29 年）10 月 4 日 社会医療法人丸の内病院において、病院の全職員を対象に倫理研修として「高齢患者の意思決定支援」について講師を務めた。
地域・在宅看護学分野	伊那保健福祉事務所健康づくり支援課保健師と協働して、上伊那郡市の保健師を対象とする研修（個別支援から学ぼう！保健師のための実践力向上研修会 全 4 回）を開催した。
	駒ヶ根市ネパール交流市民の会が JICA より補助金を得て行っている「ポカラ市北部における住民参加型地域保健活動を軸とした持続可能な母子保健プロジェクト」の本邦研修において、看護大学での研修（1 日）のプログラムを準備し運営を行った。
	長野県の委託を受けて県看護協会が訪問看護支援事業の一つである県内の訪問看護の充実に関わる実態調査の分析作業に関わり、訪問看護検討会議の資料として報告した。

※ 本学教員が行った社会・地域貢献活動については、第 3 章「教員の研修・研究、社会活動」第 3 節に掲載しています。

## 第5章 学内委員会等の活動及び検証

### 第1節 運営委員会

#### 1 所掌事項

看護大学の管理運営に関する重要事項を調査審議する。

#### 2 活動と成果

##### (1) 委員会活動

###### 【開催日】

第1回	29年4月14日	第10回	29年11月2日
第2回	29年5月12日	第11回	29年11月17日
第3回	29年6月2日	第12回	29年12月1日
第4回	29年6月30日	第13回	29年12月14日
第5回	29年7月13日	第14回	30年1月12日
第6回	29年7月28日	第15回	30年2月2日
第7回	29年9月14日	第16回	30年2月20日
第8回	29年9月29日	第17回	30年3月2日
第9回	29年10月13日	第18回	30年3月16日

###### 【審議内容】

大学運営に関する学長の構想・意思の具体化への検討や、教授会、人事教授会及び研究科委員会に諮る協議事項・報告事項等に関する審議及び内容の確認を行った。

##### (2) 成果

事前に議題の内容等を協議・点検・整理し、大学運営の方向性の確認や調整を行い、教授会等における円滑で効率的な審議に資した。

#### 3 今後の課題

##### (1) 喫緊の課題

ア 評価委員会における大学の自己点検・評価の課題について、運営委員会で検討し改善改革につなげていく。

イ 大学が取り組むべき主な課題の検討スケジュールに基づき、本委員会において取り組んだ内容について教授会等における審議に資する議論を行う。

##### (2) 将来的な課題

ア 今後の法人化議論に備えた準備をする。

### 第2節 広報・交流委員会

#### 1 所掌事項

- (1) 大学の広報に関すること
- (2) 公開講座に関すること
- (3) 大学説明会に関すること
- (4) 国際交流に関すること
- (5) 地域交流に関すること

#### 2 活動と成果

##### (1) 委員会活動

委員会及び開催行事は下記の通りであった。(行事の事前準備活動などの記載は省略)

○会議：全8回(4/3、5/9、6/19、7/10、9/11、11/20、2/2、3/5)

主な議題：PATHWAY・オープンキャンパス（OC）・公開講座・進路説明会・大学見学・模擬授業・学報・その他広報活動・活動費用

○開催行事：オープンキャンパス（7/29）、公開講座（9/16、2/17、3/3）、大学見学（複数日）、進路説明会（複数日）、模擬授業（複数日）

(2) 成果

1) 進路説明会（進学相談）・模擬授業

外部からの依頼 39 件のうち 25 件に対応し（対応述べ教員数は 27 名）、これに加えて OC 及び学祭時に個別進学相談会を実施した（対応述べ教員数は 13 名）。このうち相談者数は、OC 時 59 件、学祭時 25 件であった。外部での模擬授業は 5 件に対応した。

2) 大学案内 PATHWAY 発行

構成の主軸の 1 つである「学部の学生生活が伝わる大学案内」を維持しつつ、表紙のイメージの修飾による変更をはじめ、適宜、時間が経過した記事や写真などを更新した。

3) 学報の発行と大学院だより

読みやすく充実した紙面の学報（No. 44, 45）を 2 回発行し、関係各所に配布した。この際、入試部会の依頼による大学院だより（No. 4, 5）も作成し学報に挟み込む形で配布した（学報 No. 41 より実施）。

4) 大学説明会（オープンキャンパス）

午前、午後を通しての開催とし、単なる全体説明会とはせずに「看護（実験）体験コーナー、個別進学相談、学生トークライブ、模擬授業、学食体験」などを例年と同様に組み込んだ。参加者は今年度も約 780 名と増加した。参加者アンケートからもおおむね好評を得ていた。

5) 公開講座開催

地域貢献の一環として、下記のとおり、公開講座を 3 回開催した。外部講師による公開講座の参加者アンケートの結果は非常に良好であった（学内講師による公開講座では、退任記念講演も兼ねていた為、アンケートは未実施）。

○1 回目（通常の公開講座）

日時：平成 29 年 9 月 16 日（土）

タイトル：「佐久総合病院と今後の地域医療」

講師：伊澤 敏先生（JA 長野厚生連 佐久総合病院 統括院長兼院長・精神神経科医長・心療内科医長）

参加者：38 名

○2 回目（学長退任記念講演）母性・助産看護学分野との共催

日時：平成 30 年 2 月 17 日（土）

タイトル：「産み育てることに目を向けて」

講師：清水嘉子（学長）

参加者：104 名

○3 回目

日時：平成 30 年 3 月 3 日（土）

タイトル：「子どもや家族とともに創造する看護」を目指して

— 小児看護の実践・教育・研究活動から学んだこと —

講師：内田雅代先生（小児看護学分野教授）

参加者：100 名

◆オープンキャンパスの参加者数

年度	高校生	保護者等	合計
H29	414	366	780
H28	384	319	703
H27	357	300	657
H26	355	247	602
H25	377	255	632
H24	377	179	556
H23	183	90	273
H22	244	160	404
H21	205	80	285
H20	205	190	395

- 6) 学外掲示板の更新  
公開講座のポスターほかを更新した。(昭和伊南病院, こころの医療センター駒ヶ根)
- 7) 在学生を対象に大学の広報に関するアンケート調査の実施  
2016と2017年度入学生を対象に、入学前の時点での大学の広報などに関連する項目について調査(長野県民新聞、オープンキャンパス、パスウェイ、本学受験の意思決定など)を行った。その結果、オープンキャンパスへの参加率は、推薦入試による入学生が81%であったのに対し、一般入試(前期・後期)による入学生では28%であった。
- 8) 県や業者による広報誌、パンフレットの内容の作成、確認を行なった。
- 9) 大学院案内パンフレットを発行した。
- 10) サモア留学生の歓迎昼食会をIRCと広報・交流委員会で実施した(2017年8月1日)。

### 3 今後の課題

#### (1) 喫緊の課題(懸案事項)

上記恒例事業のより円滑な運営と実施が最重要課題である。特にオープンキャンパスの参加者が増加し、容易な工夫では対応できない状態であるため、開催方法の抜本的な見直しが必要である。また、各事業の目的がはっきりとしていない部分があり、委員会内外でその内容と得られる成果をよく吟味していく必要がある。

#### (2) 将来的な課題

少子化時代の学生募集対策として、従来の事業実施の変更の必要性が大学執行部から意見として出でている。大学教員の業務量の増大と多様化の中でより効率的な広報活動を行うには、最も重要な対象者の1つである「学部入学志願者」への効率的な広報活動のありかたについて検討していく必要がある。

## 第3節 教務委員会

### 1 所掌事項

#### ①カリキュラムの進行にあたり必要な事項の検討

ガイダンスの計画

学生便覧・シラバスに関すること

時間割の作成

非常勤講師の任用

卒業研究シラバスの検討・ガイダンス・担当教員の調整

#### ②履修に関すること

履修登録の確認(重複登録、未登録等、特に再履修の科目の多い学生、復学している学生について)

必要時、学年顧問と連絡を取り、学生の履修面の相談

編入生の履修相談

卒業判定・単位認定資料の確認作業

#### ③カリキュラムの改善に関する検討

### 2 活動と成果

#### (1) 委員会活動

期 日	審議事項/活動内容
平成29年 4月18日	1.平成29年度教務委員会の活動と役割分担 2.退学願いについて(1件)

5月9日	1.選択科目の履修登録状況の確認 2.平成29年度スタートアップセミナー 進行状況の共有	3.既修得単位の認定申請の協議 4.卒業研究の評価に関する実態把握について
6月13日	1.卒業研究の評価に関する実態把握について 2.スタートアップセミナー発表会について	【報告】未修得単位のある学生の履修登録状況について
7月11日	1.長野県看護師等養成機関教務主任会議の報告 2.看護学教育モデル・コア・カリキュラム検討案について	3.スタートアップセミナー終了時のアンケートについて 4.学生の成績分布について
7月25日	1.看護統合実習の先修要件に係る学生の履修可否の検討	2.看護学教育モデル・コア・カリキュラム検討案について意見交換
9月13日	1.文部科学省への変更承認申請の照会結果について 2.退学願いについて(2件) 3.年度途中で卒業する学生の卒業判定	4.平成29年度科目等履修生の選考 5.平成29年度スタートアップセミナーの振り返り 【報告】助産師課程履修学生の単位取得状況について
10月10日	1.基礎看護実習Ⅱと看護専門領域実習を同じ年度に履修する学生について 2.助産師課程履修学生の選抜方法について 3.平成30年度学年暦(案)について	4.平成30年度シラバス・学生便覧の作成依頼について 5.平成30年度スタートアップセミナーについて
11月14日	1.平成30年度卒研ガイダンスについて 2.平成30年度授業科目の開講時期の変更について	3.平成30年度スタートアップセミナーについて 4.卒業研究の評価に関する情報収集結果
12月12日	1.平成30年度科目等履修生募集要項(案) 2.平成30年度県内大学単位互換履修生募集要項(案) 3.履修規程の改正について(開講時期の変更に伴うもの)	4.平成30年度時間割(案)について 5.平成30年度学生便覧(スタートアップセミナーの記載事項) 【報告】看護学教育ワークショップ参加報告
平成30年1月18日	1.平成30年度教務ガイダンス(案) 2.学生便覧(スタートアップセミナーの記載)について 3.平成30年度スタートアップセミナー(継続審議)	4.2年次前期実施の一次救命法演習の位置づけについて 【報告】平成30年度非常勤講師について
2月14日	1.休学願いについて(1件) 2.平成29年度卒業予定者の卒業要件の確認について	3.卒業研究の評価に関する情報収集結果の報告内容について 4.平成30年度非常勤講師について(新規講師)
3月8日	1.休学願いについて(2件) 2.退学願いについて(1件) 3.平成29年度単位取得状況について	4.平成30年度国際看護実習履修生の選考について 5.平成29年度委員会活動の成果と課題(案)について

## (2) スタートアップセミナーの実施

検討準備期間を経て平成28年度に初めて行ったスタートアップセミナーを、前年度の評価を踏まえて、修正を加えた内容で実施した。平成29年度の主な変更点は、グループワークのメインテーマを設定したこと、グループワーク発表会の時期が学科目の試験が集中する時期に重ならないようにするため発表会日時を6月27日(火)に設定したことである。スタートアップセミナーのプログラム概要を表に示す。

表. 平成29年度 スタートアップセミナーの概要

回数	内容	日程
1	大学での学習方法を学ぶ(講義、屋良准教授)	4月12日(火)
2	学習の助けとなる情報の調べ方を学ぶ(講義と演習、附属図書館 司書 原さん)	4月19日(火)
3~5	グループ単位で活動目標(テーマ)を定めて主体的に取り組む(グループ活動)	5月~7月の期間に行う

6	グループでの取り組みについて発表し共有する(発表)	6月27日(火) 参加者:教員36名、2年次生4名
---	---------------------------	------------------------------

グループ活動は、学生を14のグループに分け、各グループに教員1～2名が側面的支援者として関わった。グループ支援に関わる教員は、全ての講座および分野からでいただいた。人数は20名であった。

終了時の学生アンケートの結果では、肯定的な回答が「全体日数の適切さ」90%、「グループ活動の回数の適切さ」86%であった。プログラム内容については、肯定的な回答が「講義内容は大学での学習に役立つ」95%、「活動発表会は興味深い内容だった」95%、「グループ活動は今後の学生生活に役立つ」86%であった。

教員アンケートの結果では、回答者の8割が「総合的にみてスタートアップセミナーは大学での学修に役立つ」と答えていた。

### (3) 成果

1) 初年次教育の充実のために設けられた全学的プログラム「スタートアップセミナー」2年目の取り組みを中心となって実施した。前年度の学生意見および教員意見を踏まえ、グループ活動の方法に若干の修正を加えた内容で行った。

実施経過の記録として、平成27年度からの取り組み内容を記載した報告書を作成し教授会で報告した。教授会では、「一定期間の実施を経て、位置づけを検討する必要がある」と学長より意見が出された。

2) 実習科目の先修要件を満たすことができずに、実習科目の履修が遅れている学生について、該当する実習科目について履修の可否を確認した。具体的には、基礎看護実習Ⅱから引き続き領域別実習を履修するケースに該当する学生の確認、ならびに看護統合実習の履修可否の確認を行った。

3) 卒業研究(必修科目、4単位)の授業科目としての評価を継続的に行っている。平成27年度には学生を対象に学習内容に関するアンケート調査を実施した。平成29年度は、成績評価の項目や評価する際の観点についての実態調査を行った。調査結果について教務委員会で検討を経て、教授会にて報告し共有した。

## 3 今後の課題

### <喫緊の課題> (懸案事項)

1) スタートアップセミナーの平成29年度の振り返りでは、授業科目外の活動としてグループ活動のアウトプットの方法はどうあったらよいか(授業科目の課題や試験との兼ね合い)や、インターネットを使った情報収集の方法や入手した情報の使い方において、情報リテラシーの不足が学生にみられることが教務委員会で議論となった。今後もスタートアップセミナー実施後の評価を学生側と教員側の双方から行い、実施後評価を行うとともに前述の課題の検討を継続する。

2) 卒業研究の指導担当講座・分野の決定方法について、検討する必要がある。

### <将来的な課題>

1) 文部科学省より「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」が報告され、日本看護系大学協議会からもコンピテンシーに基づいた卒業時到達内容の見直しがなされ、説明会が開かれている。さらに、日本学術会議でも看護学教育の基準が提示されている。このように、学士課程教育の参照基準が新たに作成されていることを受け、これら参照基準の学習を行うことや本学の学部教育の自己点検に活用していくことが望まれる。

## 第4節 実習委員会

### 1 所掌事項

- (1) 実習の目標・計画・実施・評価に関すること
  - 1) 実習要項（共通部分）の作成
  - 2) 専門領域実習の学生グループ分けおよび実習ローテーション表の作成
  - 3) 実習記録等に関する調整事項
  - 4) 実習の実施に関する調整事項
  - 5) 実習の教育評価に関する事項
- (2) 実習施設との連絡調整に関すること
  - 1) 実習施設との連絡調整（各分野）のサポート
  - 2) 実習指導者会議に関すること
  - 3) その他実習施設との連絡調整に関すること
- (3) 実習中における安全と事故防止に関すること
  - 1) 「個人情報保護」や「同意書」等への対応
  - 2) 事故発生時の対処方法
  - 3) 災害発生時の対処方法
- (4) その他実習に関すること
  - 1) 実習に関わる交通機関の調整に関すること
  - 2) 実習用学生ユニフォームに関すること
  - 3) 実習期間中に使用するバス、共用の学内の部屋、携帯電話の調整

## 2 活動と成果

- (1) 委員会活動
  - 1) 第1回委員会：平成29年4月13日（水）13：00～15：00
    - ①実習委員会の任務/スケジュール等の確認 ②実習ガイダンスの報告
    - ③平成29年度前期の実習オリエンテーション
    - ④実習期間中の共用部屋の使用および携帯電話の使用
    - ⑤実習要項等の作成 ⑥実習バスの運行 ⑦実習FD
    - ⑧インシデント・アクシデントの基準
  - 2) 第2回委員会：平成29年5月9日（火）14：40～16：10
    - ①今年度前期実習に関する準備状況（実習バス、実習病院ロッカー、実習要項）
    - ②実習期間中の共用部屋の使用 ③実習中の事故に関する報告書
    - ④平成28年度実習委員会活動報告（案）
  - 3) 第3回委員会：平成29年6月13日（火）14：40～16：10
    - ①国際看護実習スケジュール ②2017年度生の小児期感染症抗体価等
    - ③各実習報告（インシデント・アクシデント含む）
    - ④各担当者からの報告（実習要項、バス他）
    - ⑤信州木曽看護専門学校への伊那中央病院ロッカー貸出
    - ⑥実習中の事故に関する報告書
  - 4) 第4回委員会：平成29年7月11日（火）14：40～16：10
    - ①各実習報告（インシデント・アクシデント含む）
    - ②各担当者からの報告（実習要項、バス他） ③実習中の事故に関する報告書
    - ④看護教育モデルコアカリキュラムに関する意見
  - 5) 第5回委員会：平成29年9月12日（火）14：40～16：10
    - ①各実習報告（インシデント・アクシデント含む）
    - ②平成29年度後期からの実習（実習ローテーション、実習中の事故対応に関する規程、各担当者からの準備状況：実習要項、バス）、オリエンテーション等
    - ③伊那中央病院実習生控室、ロッカー、キーカード

- 6) 第6回実習委員会：平成29年10月18日（水）9：00～10：30
  - ①平成29年度後期からの実習（学生に関する情報交換、各担当者からの準備状況（実習要項、バス、携帯・共用室の使用他、平成30年度からの実習開始と終了時期）
  - ②実習ローテーション表の作成時期
  - ③実習交通費（タクシー代の取り扱い） ④実習要項の配布時期
- 7) 第7回委員会：平成29年11月16日（木）13：00～14：30
  - ①H29後期の各領域の報告に関する情報交換 ②各担当者からの報告
  - ③臨地実習における交通費の支払い方法の変更の検討
  - ④平成30年度新入生ユニフォームの試着注文時期の変更の検討
  - ⑤実習要項の配布に関するスケジュール表の検討
  - ⑥「看護専門領域実習」の表記に関する検討
- 8) 第8回委員会：平成29年12月21日（木）13：00～14：30
  - ①各実習報告 ②学生便覧の実習に関する記載
  - ③実習FD企画 ④拡大実習委員会での検討すべき事項と開催方法
- 9) 第9回委員会：平成30年1月30日（火）13：00～14：30
  - ①今後の予定の確認（委員会業務の引継ぎ、平成29年度委員会活動報告他）
  - ②実習要項改訂：臨地実習の位置づけ・構成 ③実習要項の「冊子体」作成
  - ④実習FD（看護ユニフィケーション相互研修を兼ねる）
  - ⑤拡大実習委員会の資料
- 10) 第10回委員会：平成30年2月19日（月）14：40～16：10
  - ①平成29年度拡大実習委員会資料等の確認（表紙、各実習報告、実習事故報告、実習FD研修会 ②平成30年度の実習準備の確認
  - ③伊那中央病院ロッカーの整備 ④実習指導教員への携帯電話の配備
  - ⑤実習FD準備の進捗状況の確認 ⑥新たな実習施設の申請
  - ⑦「臨地実習における交通費の補助に関する要綱」の改正
  - ⑧4年間の学生の実習体験を記録し成長を促す方策の関する今後の検討
- 11) 第11回委員会：平成30年3月16日（金）14：40～16：10
  - ①実習FDに関する進捗状況
  - ②平成30年度実習準備（実習バス、要項、オリエンテーション、ガイダンス：分担、ユニフォームの注文）
  - ③国際看護実習の日程変更等 ④実習に関する事故報告 ⑤拡大実習委員会資料の事務局送付確認、 ⑥各担当業務内容の事務局送付確認
  - ⑦平成29年度実習委員会活動報告（案）

## (2) 成果

### 1) 実習事故報告書の作成及び規程の変更

従来、インシデント・アクシデント報告書として記載していた内容には、インシデント・アクシデントの定義に入らない様々なものが含まれていた。臨地実習中に生じる事故は、学生が対象者（物）に損害や損傷を与える場合と学生自身が被害を受ける場合がある。このような事故全般について整理が必要であり、大きく実習における事故として分類し、その再発予防を目的とした教員の対応や学生指導等に関する事故報告書（様式）についても検討し、併せて関連する規程の変更を行った。

### 2) 交通費補助に関する支払方法の変更

タクシー代や宿泊旅費などの高額な支払いに関して、従来の学生からの直接支払い（後日、大学への申請により交通費会計から補助金を受け取る）では、学生が実習中に大金を持ち歩く必要があったことから、事務局と交渉し、交通費会計から業者への支払い方式に変更できた。これらから、実習における交通費補助に関する要綱を改定した。

- 3) 実習要項の「実習の位置づけ、構成」に関する表記の明確化  
実習要項の「実習の位置づけ、構成」を、カリキュラムの文言と整合させ明確に記載するとともに、助産師課程の履修に関して、イメージしやすいようにした。
- 4) 実習ユニフォームの学生氏名の部分を、刺繍ではなく印字にすることで、入学後早期にユニフォームの準備ができ、また、学生にとっても値段が安くなることにつながった。
- 5) 学生の実習指導に関する課題 ー指導上困難な学生の情報共有  
実習指導に関する困難な学生への対応に関する情報共有を行い、学生理解を深め、個々の学生へのよりよい対応ができる一助となった。
- 6) 実習FD  
平成30年3月22日(木)、藤沢市教育文化センターの目黒悟先生を招き「看護の学びを支える授業デザイン～実りある臨地実習に向けて～」をテーマとした研修会を開催した。参加者は60名(学内38名、学外22名)で、午前中は講義、午後は演習を中心とした研修内容であった。研修会終了後のアンケートでは、83%の参加者が「内容をよく理解できた」、60%の参加者が「今後の実習指導や看護教育に役立つ内容であった」と回答しており、有意義な研修会を開催することができた。
- 7) 平成29年度も昨年度に引き続き、紙面による各実習報告および検討課題等をすべての実習担当教員に配布し、現状を周知し課題を共有した。

### 3 今後の課題

#### (1) 喫緊の課題(懸案事項)

##### 1) 実習中に使用する教員の携帯電話に関すること

現在使用可能な7台では、各領域の実習用としては不足である。大学予算との関係もあり困難が予想されるが、恒常的な予算化をする必要があるかどうかを含め、検討していく必要がある。

#### (2) 将来的な課題

##### 1) 実習の評価に関する指標の検討

平成26年度後期から開始した新カリキュラムが30年前期で4年間となる。カリキュラム全体の中での実習に関する評価指標の検討を行い、評価を実施していく必要がある。

##### 2) 学生の4年間の実習体験と学びのプロセスに関すること

各学生の実習における学習課題に関する継続支援・指導に関する課題として、多様な学生個々への教員の対応技術等の向上とともに4年間を通じた学生の成長を支援するための学生および教員への体系的なプログラム等の検討について議論してきたが、実習だけでなく4年間を通じた学生の学び全体からの検討も必要であることから、教務委員会との協議も合わせて検討していく必要がある。

##### 3) 実習環境の改善

分野教員と臨地実習指導者との学生教育に関する連携をさらに促進し、よりよい実習環境の実現を図っていく必要がある。カンファレンスの場所の確保などに関しても引き続き実習場との協議を重ね、よりよい実習環境を確保していく。

## 第5節 入試検討委員会

### 1 所掌事項

委員会は、次の事項について調査及び審議する。

- ①大学入試に関すること
- ②入試科目及び期日の選定に関すること
- ③合否判定の基礎資料に関すること

- ④入試の追跡調査に関すること
- ⑤入試のあり方に関すること
- ⑥その他入試に関すること

## 2 活動と成果

### (1) 委員会活動

開催回数	開催日	議 題
1	平成 29 年 4 月 18 日 (火)	①委員会における人事と役割分担について ②平成 29 年度における委員会の活動計画について ③各試験における業務の役割分担について ④平成 30 年度入学者選抜に関する要項 (案) について
2	5 月 9 日 (火)	①平成 29 年度の委員会活動計画 (改訂版) の確認 ②平成 30 年度入学者選抜に関する要項の確認 ③大学入試センター試験の問題仕分け作業について
3	6 月 20 日 (火)	①平成 30 年度学生募集要項 (案) について ②平成 29 年度入試業務配置 (案) について ③平成 29 年度の県内高校訪問について ④平成 30 年度推薦社会人入学試験における「小論文」試験の点数化について ⑤平成 29 年度入学生 (推薦) に係る大学入試センター試験の成績について
4	7 月 11 日 (火)	①平成 30 年度大学入試センター試験にかかる長野県地区連絡会議の協議内容について ②学研への入試問題の使用許可について ③平成 29 年度高校訪問の実施計画について ④本学における大学入学者選抜方法の見直しについて
5	8 月 3 日 (木)	①大学入試センター試験における本学試験場の志願者収容数について ②平成 30 年度大学入試センター試験 試験・業務処理要領の提供について ③平成 29 年度入試業務にかかる人員の配置について ④本学における大学入学者選抜方法の見直しについて ⑤平成 30 年度の学生募集要項 (一般、推薦入学、社会人) について
6	9 月 14 日 (木)	①平成 30 年度大学入試センター試験入試担当者連絡協議会 (第 1 回) の報告について ②本学における大学入学者選抜方法の見直しについて ③平成 29 年度後期の委員会日程について
7	10 月 13 日 (金)	①平成 30 年度推薦・社会人入学試験業務処理要領について ②平成 30 年度入学試験 (推薦・社会人、前期日程、後期日程) における面接試験の共通質問項目について ③本学における大学入学者選抜方法の見直しについて ④大学入学共通テストの導入に向けた試行調査 (プレテスト) について
8	11 月 18 日 (土)	①平成 30 年度推薦・社会人入学試験の合否判定案について
9	12 月 12 日 (火)	①平成 30 年度大学入学者選抜大学入試センター試験 試験実施・業務処理要領 (案) について ②平成 30 年度大学入試センター試験入試担当者連絡協議会 (第 2 回) の報告について ③大学入試センター試験監督者説明会について ④平成 30 年度大学入試センター試験の準備日程 (問題冊子等の搬入および仕分け) について
10	平成 30 年 2 月 6 日 (火)	①平成 30 年年度一般入学試験 (前期日程) 業務処理要領について ②一般入学試験 (後期日程) の入試組織表 (案) について ③平成 31 年度入学者選抜の日程 (案) について

11	2月25日(日)	①平成29年度一般選抜入学試験(前期日程)の合否判定案について
12	3月14日(水)	①平成29年度一般選抜入学試験(後期日程)の合否判定案について ②平成29年度一般選抜入学試験の追加合格候補者案について

## (2) 成果

### 1) 県内高等学校への訪問

本学についての説明や入試関連情報の提供等を目的とし、昨年度に引き続いて県内の高等学校への訪問を実施した。平成29年度については実施数を16校とした。

### 2) 入学志願者数の確保

今年度の入学志願者数については推薦入試で前年度とほぼ同じであったが、前期日程で11名、後期日程では30名の減少が見られた。選抜試験全体での志願者数は232名で、昨年度の275名よりは少なく志願倍率は2.9倍であった。ここ5年間の志願倍率は2.8から4.2倍の範囲内で推移していることから、今年度についても概ねこれを維持することができた。ただ、志願者数の減少は後期日程で特に顕著で、その区分において志願倍率が10倍を割り込んだのは平成24年度以来のことであった。

### 3) 入学者選抜試験の円滑な実施

特別選抜試験(推薦・社会人入学)及び一般選抜試験(前期日程・後期日程)の全試験を通して、滞りのない試験の実施を行うことができた。

### 4) 大学入試センター試験の円滑な実施

大学入試センター試験については、例年通り事前に2回の監督者説明会を開催し、滞りなく試験を実施した。

### 5) 大学入学者選抜方法の見直しについて

平成32年度の実施に向けて、本学における大学入学者選抜方法の見直しについて協議を行い、その具体案を作成して県の医療推進課に提出した。

## 3 今後の課題

### (1) 喫緊の課題(懸案事項)

#### 1) 高大接続システム改革会議「最終報告書」を受けての大学入学者選抜試験改革

高大接続システム改革会議の「最終報告書」を受け、本学においても大学入学者選抜の改革を行う必要がある。新たな入学者選抜は平成32年度からの実施が予定されており、その2年前の平成30年度には選抜方法等の予告・公表を行うことが求められている。今年度は具体的な実施案を取りまとめ、教授会での協議を経て、本学を所管する県の医療推進課に提出した。来年度7月までの予告・公表を目指し、新たな年度の当初にはそのための準備を開始する必要がある。

#### 2) 編入学試験制度の廃止とそれに代わる入学者選抜の検討

本学では編入学試験を平成26年度まで行ってきたが、現在はその試験区分による学生の募集を停止している。これに代わる新たな選抜試験の導入、並びに各選抜試験にかかる募集定員数の配分等についての検討を行い、なるべく早期に編入学試験を廃止することになる。新たに導入する選抜試験については、前述した大学入学者選抜試験改革のスケジュールに合わせての実施を目指して、具体的な案を前出の入学者選抜実施案に組み入れた。この予告・公表についても早々に準備を始める必要がある。

#### 3) 入学志願者の確保について

今年度を含めた過去10年間の志願倍率は、推薦・前期日程・後期日程の3つの選抜試験区分の全体で、2.8倍(平成27年度)～4.4倍(平成22年度)の範囲を推移している。また、これらのうち志願者数の最も多い前期日程についても、極端に志願者の少なかった平成27年度を除いては、概ね2倍以上の志願倍率をこれまで維持している。本県の医療に貢献していく看護職者を輩出していくためには、如何にして優れた学生

を多く確保するかが重要となるが、このためにはより多くの志願者を集めて試験倍率を高く保つ必要がある。昨今は全国的に看護学部の新設が相次ぎ、その傾向は今も続いている。長期的にみて、本学においても今後志願者数の減少することが懸念される。引き続き対応策を検討していくべきである。

## (2) 将来的な課題

### 1) 看護学部の新設を見据えた志願者確保のための対応策

平成31年4月の開設を目指し、長野市内に2つの看護学部の設置が予定されている。このことは、本学の入学志願者数へも少なからぬ影響を与えるであろう。

### 2) 選抜試験成績と入学後の学業成績との相関（各選抜試験別の追跡調査）

現在実施している入学者選抜の適確性を評価し、その改善点等を探っていくためにも、入学後の学業成績と選抜試験成績との相関を検証すべきであると考ええる。

### 3) 面接試験における評価の点数化

入学者選抜で行なわれている面接試験については、その評価の明確な点数化が行われておらず、合否を総合的に判断するための一つとして採用されている。評価を点数化し、合否の判定に関わる総合点に加えることを考慮しても良いのではないか。

### 4) 推薦入学者の質を確保するための方策

推薦入学試験で実施されている評価は、英語試験を含む小論試験と面接試験とによる。出願の際の要件として一定以上の「評定平均値」を求めているが、志願者の有する基礎学力を測るための指標として、これらの試験科目や「評定平均値」が果たして適当であり得るのか。一般選抜の合否判定では大学入試センター試験の成績も利用しており、入学者の基礎学力はこうした客観的な指標によって評価されている。今年度の推薦入学者（昨年度の推薦試験合格者）にも大学入試センター試験成績の提供を求めたが、例年同様全体的にみてその点数は高くはなかった。一般選抜入学者と同程度の基礎学力を身につけた入学者を確保するために、推薦入試において何らかの方策を新たに導入する必要があるのかもしれない。

## 第6節 図書委員会

### 1 所掌事項

- ① 図書の整備及び購入計画に関すること
- ② 図書館の運営に関すること
- ③ 学内情報処理に関すること

### 2 活動と成果

#### (1) 委員会活動

委員会で審議、報告された議題、および関係行事は以下の通り。

- 1) 第1回：平成29年5月11日（木）
  - ① 購入図書について
  - ② 図書館経費決算について
- 2) 第2回：平成29年6月14日（水）
  - ① 予算について
  - ② 購入予定図書について
  - ③ 第一次除籍資料について
  - ④ 平成28年度図書館活動報告
- 3) 第3回：平成29年7月25日（火）
  - ① 図書館洋雑誌の精選について

- ② 図書館資料の除籍について
- ③ 選書について
- ④ 夏期休業中の図書購入希望への対応について
- ⑤ 日本医学図書館協会北信越地区例会開催について
- 4) 第4回：平成29年10月3日（火）
  - ① 図書館資料の除籍について
  - ② 図書購入について
  - ③ 日本医学図書館協会北信越地区例会について
- 5) 第38回日本医学図書館協会北信越地区大会例会の開催
  - 期日：平成29年10月6日（金）
  - 出席者：北信越地区大学図書館から計7名、医学図書館協会から2名、本学から清水学長、西垣内図書館長、藤原委員、原司書
  - 議事：2017年度活動報告、2018／2019年度活動担当の選出、承合事項（質疑応答、意見交換）等
- 6) 第5回：平成29年11月6日（月）
  - ① 第38回日本医学図書館協会北信越地区大会例会開催報告
  - ② 図書館資料の除籍について
  - ③ 選書について
- 7) 第6回：平成29年12月18日（月）
  - ① 平成30年度EBSCOの継続契約について
  - ② 図書館和雑誌の精選について
  - ③ 選書について
  - ④ 図書館資料の除籍について
  - ⑤ 平成29年度の図書館開館計画について
  - ⑥ 図書館資料の除籍について
- 8) 第7回：平成30年1月26日（金）
  - ① 平成30年度図書館和雑誌の選定について
  - ② 平成30年度図書館開館計画の策定について
  - ③ 図書館資料の除籍について
  - ④ 図書館への書籍の寄贈について
- 9) 第8回：平成30年2月28日（水）
  - ⑤ 平成30年度メディカルオンライン・医中誌WEB・最新看護索引WEBの契約について
  - ⑥ 平成30年度図書館開館計画について
  - ⑦ 図書館資料の除籍について
  - ⑧ 長野県図書館大会について
  - ⑨ 雑誌の蔵書点検について
- (2) 成果
  - 1) 図書館開館計画の策定と図書館所蔵資料の廃棄・除籍など、円滑な図書館の運営を行った。
  - 2) 購読雑誌及び電子ジャーナルの選定など、図書館予算の適正な執行を行った。特に、和雑誌のうち無料の電子資料の有無を検討し、可能なものは移行して、図書館和雑誌の精選を行った。
  - 3) 図書館購入予定書籍及び資料の選定を行った。
  - 4) ホスト校として、司書が様々な準備、手配を行い、第38回日本医学図書館協会北信越地区大会例会を滞りなく開催した。
  - 5) 夏期休業中4年生から図書購入希望がよくあるという状況を考慮して、希望があった場

合は8月中にメール会議を行い発注できるようにした。

- 6) 前年度の懸案事項であった図書館の雨漏りの対処について働きかけ、事務局で適切な対応がなされた。

### 3 今後の課題

#### (1) 喫緊の課題（懸案事項）

蔵書が増加し、保管の継続が困難な状況が続いている。29年度は、ほぼ全ての委員会開催時に、除籍資料について検討し、状況の改善に努めたが、引き続き対応が必要である。図書館だけでなく、各研究室で保管している資料についても古いものが増えていると考えられ、研究室から除籍候補を挙げてもらい、除籍手続きを行うことを検討していく必要がある。図書館職員の作業時間に余裕のある時期に、資料の研究室から図書館への移動の希望も含め、情報を収集し、手続きを進める方針で検討していく。

各分野、講座保管の書籍については整理を行ってきたが、雑誌の整理も行う必要がある。将来、図書館のシステムを変更する予定があり、その際の業者による雑誌登録のためにも、雑誌を把握しておく必要がある。29年度末に整理を行う予定であったが、主任司書の異動があり、延期となった。

#### (2) 将来的な課題

PsycINFOの契約を28年度に中止し、図書館経費の大幅な削減を実現して以降は大幅な削減が難しい状況ではあるが、少額であっても図書館経費の削減に向け、今後も努力していく必要がある。限られた予算をどのように活用し、現在の図書館機能をいかに維持していくかについて、引き続き検討が求められる。

## 第7節 紀要委員会

### 1 所掌事項

- ① 紀要に関する事項について調査及び審議すること

### 2 活動と成果

#### (1) 委員会活動

委員会開催日は以下の通りであった。

- 1) 第1回：平成29年4月13日（木）
- 2) 第2回：平成29年5月11日（木）
- 3) 第3回：平成29年6月14日（水）
- 4) 第4回：平成29年7月25日（火）
- 5) 第5回：平成29年10月3日（火）
- 6) 第6回：平成29年11月6日（火）
- 7) 第7回：平成29年12月18日（月）
- 8) 第8回：平成30年1月26日（金）
- 9) 第9回：平成30年2月28日（水）
- 10) 第10回：平成30年3月28日（水）

委員会においては次の事項を実施した。

- ① 紀要投稿規定・原稿執筆要領・チェックリスト・原稿テンプレートの見直し
- ② 編集担当マニュアルの検討
- ③ 平成29年度紀要原稿の募集日程の決定
- ④ 平成29年度紀要編集・発行日程の調整
- ⑤ 紀要発行部数と配付先の検討

- ⑥ 紀要原稿の査読者と編集担当者の決定
- ⑦ 紀要原稿の査読結果の取り纏めと修正論文等の進捗状況の確認
- ⑧ 採否決定
- ⑨ 編集作業（原稿確認、校正等）
- ⑩ 紀要の入稿・発行作業

(2) 成果

- 1) 長野県看護大学紀要の発行
- 2) 紀要投稿規定・原稿執筆要領・チェックリスト・原稿テンプレートの改訂
- 3) 編集担当マニュアルの作成

### 3 今後の課題

(1) 喫緊の課題（懸案事項）

紀要の編集、および、発行を円滑に行うこと。

執筆要領・チェックリストと提出ファイルの整合性が取れるように、また、投稿者にわかりやすい文言となるように、改訂を行ったが、大変細かく、かつ関連項目の多い点検作業であるため、まだ齟齬が残っている可能性がある。引き続き確認、修正を行い、適正かつわかりやすい内容へ改善して、投稿者への浸透を図り、より円滑な編集作業が進められるよう、検討を要する。

(2) 将来的な課題

近年、論文執筆においても、研究者倫理規範を修得し遵守することが求められるようになってきている。従来、論文執筆における倫理的な不文律は当然存在するが、編集作業時に参照できるような一定の基準の整備を視野に入れておくことが、より質の高い紀要の発行に繋がると考えられる。

## 第8節 学生委員会

### 1 所掌事項

- ①学部及び大学院の学生の生活指導及び援助に関すること（新入生オリエンテーションに関することを含む）
- ②学部及び大学院の学生の課外活動に関すること
- ③学部及び大学院の学生の健康管理、健康相談及びカウンセリングに関すること
- ④寄宿舍及び寄宿生に関すること
- ⑤奨学生に関すること
- ⑥学部及び大学院の学生の就職に関すること
- ⑦その他学部及び大学院の学生の厚生に関すること

### 2 活動と成果

(1) 委員会活動

開催日	活動内容(○報告 ●協議)
第1回 4月18日	○平成28年度国家試験合格状況○平成29年度オリエンテーションの実施状況○平成29年度就職活動状況(4年生)○第1回進路希望調査(3年生) ●平成28年度学生委員会活動の役割分担○平成29年度新入生オリエンテーションの実施状況
第2回 5月16日	○平成29年度卒業予定者の進路情報○平成29年度新入生オリエンテーションアンケート結果(新入生・在学生・教職員)○平成28年度保健室年報 ●キャリアガイダンスⅠⅡの企画内容●平成28年度学生委員会自己点検評価報告書

第3回 6月20日	○平成29年度キャリアガイダンスⅠ・Ⅱ・Ⅲ○平成29年度団体・サークル届○平成29年度ワーキングセミナー実施状況 ●平成29年度長野県内市町村保健師採用合同説明会実施要綱●国試参考図書配布先●平成30年度新入生オリエンテーションの実施内容
第4回 7月18日	○平成29年度卒業予定者の進路希望調査結果○平成29年度卒業予定者の就職試験合格状況○平成29年度長野県内市町村保健師採用合同説明会準備状況○キャリアガイダンスⅡ配布資料○平成29年度鈴風祭の準備状況や検討課題 ●平成30年度新入生オリエンテーションプログラムの検討
第5回 9月19日	○卒業予定者内定状況○平成29年度市町村保健師採用合同説明会の実施状況○平成29年度第1回看護師模試自己採点結果○キャリアガイダンスⅡの実施状況○第22回鈴風祭実施状況 ●平成29年度公務員試験に関する学生支援策の提案●平成30年度新入生オリエンテーションの実施内容●後学期学生委員会開催日程●国試特別補講の開講希望調査
第6回 10月17日	○卒業予定者内定状況○公務員試験ガイダンスとスケジュール ●平成30年度新入生オリエンテーションの実施内容●平成29年度国試補講希望調査の一部変更
第7回 11月21日	○国試ガイダンス○国試模試(看護師2回目,保健師1回目)の自己採点結果 ●国試特別補講開講希望調査結果●平成30年度新入生オリエンテーションのプログラム変更に伴う学生自治会役員との協議予定
第8回 12月12日	○卒業予定者内定状況○国試模試看護師2回目,保健師1回目の最終結果○平成30年度新入生オリエンテーションのプログラム変更に伴う学生自治会役員との協議結果 ●キャリアガイダンスⅢ①②③の実施予定●平成28年度国試特別補講開講科目等の最終決定●平成28年度新入生オリエンテーション実施内容の検討
第9回 1月16日	○キャリアガイダンスⅢ①②の実施状況○3年生の第2回進路希望調査結果○公務員試験対策の公務員模試・保健師模試受験状況○国試必修問題対策模試,第2回保健師模試,第3回看護師模試の自己採点結果○平成30年度新入生オリエンテーションのプログラム ●平成30年度キャリア形成支援計画●本学における学生の旧姓使用の取扱い要項
第10回 2月13日	○平成29年度保健師模試1・2回目の比較○国家試験合格発表時の対応○平成30年度鈴風祭の日程(9月8・9日) ●平成30年度「学生相談のしおり」作成●平成30年度新入生オリエンテーションのプログラム概要説明と各種担当者の決定および会場設営●平成30年度新入生オリエンテーション運営補助者合同準備会議の日程
第11回 3月13日	○平成29年度国家試験受験状況○平成29年度卒業生・修了生進路内定最終状況○平成29年度求人状況○平成29年度進路指導室利用状況○国試合格発表時の対応○平成30年度国試関連模試日程とガイダンス日程の概要 ●平成30年度新入生オリエンテーションおよび企画運営協力者合同準備会議用資料の検討●平成30年度教務ガイダンス「学生生活」の担当●ハラスメント相談員の任命●学生相談のしおりの内容

(2) 定例の委員会以外で学生委員会が中心となった会議・活動等

学生生活ガイダンス	平成29年4月6・7日 各学年に学生生活ガイダンスを実施 青少年生活設計講座(1・2・3・4年生) 年金制度説明会(1・2・3・4年生) 防犯講習会(1・2・3・4年生)
-----------	---

新入生オリエンテーション	平成 29 年 4 月 10, 11 日(於:本学学内) 参加者数:新入生 85 名, 在学生 23 名, 教職員 20 数名
就職・キャリア支援関係	第6章第2節参照
国家試験特別補講	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師:<u>1 月 22 日(月)13:00~14:00</u> 計算問題対策:太田先生</li> <li><u>1 月 23 日(火)10:40~12:10</u> 疾病の成り立ちと回復の促進:喬先生</li> <li><u>1 月 26 日(金)9:00~12:10</u> 薬理学:坂田先生</li> <li><u>1 月 26 日(金)13:30~14:30</u> 人体の構造と機能:三浦先生, 島袋先生</li> <li>・保健師:<u>1 月 29 日(月)10:40~12:10</u> 保健統計学:北山先生</li> <li><u>1 月 29 日(月)13:30~15:30</u> 社会福祉, 社会保障:原先生(学外)</li> <li><u>1 月 30 日(火)10:40~11:40</u> 疫学:秋山先生</li> <li><u>1 月 31 日(水)13:00~15:00</u> 公衆衛生看護学:御子柴先生</li> </ul>
次年度新入生オリエンテーション企画運営協力者合同会議	平成 30 年 3 月 15 日(金):11:00~12:00
看護師保健師助産師国家試験会議	平成 30 年 3 月 26 日(月):15:30~

### (3) 成果

- ・学生生活ガイダンスを学年顧問と協力し, 各学年に対して実施できた。
- ・平成 29 年度新入生オリエンテーションは学内実施に転換してから 2 年目を迎えるが, 学内(体育館と大講堂)での 2 日間のプログラムを滞りなく実施し, 新入生オリエンテーションの目的である新入生どうし, 新入生と在学生および教職員の交流を図り, 新たな学生生活への移行と適応を支援することができた。平成 30 年度の実施に際して, その運営上の課題も明らかになり, 年度当初から周辺看護系大学における新入生オリエンテーションの実施状況を調査したり, 前学期の学務日確保, ブラックアルバイトに対処するワーキングセミナーや防災ガイダンスを新入生からしっかりガイダンスする必要性などの事情を考慮し, 平成 30 年度新入生オリエンテーションのプログラムはコンパクトに実施する予定となった。
- ・キャリアガイダンス I・II・III・IV は, 医療機関や自治体から管理者や本学卒業生を招いて計画通り学年毎に実施することができた。
- ・アルバイトに際して雇用者とのトラブルを避け, また生じたトラブルの解決のために, 新入生を対象にワーキングセミナーを実施したところ参加者が少なかったため, 来年度は特に新入生に対して実施時期と時間を考慮して実施する必要がある。
- ・第 3 回目の平成 29 年度市町村保健師採用合同説明会を実施できた。長野県を含めて 11 縣市町村が参加し, 出席した自治体職員も 24 名を数えた。鈴風祭初日にもかかわらず, 在学生 41 名, 本学卒業生 7 名が各縣市町村のブースで相談を受けた。昨年度の延相談者 92 名に比べると減少したが, 来年度第 4 回目の実施に向けて前向きな課題を残して盛会裡に終了できた。
- ・平成 29 年度卒業生の国家試験合否状況は, 看護師 100% (既卒者や外国籍を含む)・助産師 100%, 保健師 89.5% (8 名不合格)であった。昨年度同様, 看護師は 100%を達成したが, 保健師の不合格者が増えたことについては新たに対策を講じる必要がある。今年度新に試みた必修問題に特化した模試の受験は, 来年度も継続する必要がある。国家試験特別補講の日程と内容を昨年度よりもコンパクトにしたが, 受験状況や合否の結果に大きな影響はなく, 受験生への負担も軽減できた。
- ・平成 29 年度卒業生の長野県内への定着率は 63.2%と, 昨年度に比べ 5 ポイント下回った

とはいえ、県内保健医療福祉分野に従事する専門職を輩出する県立大学としての役割は達成することができた。

- ・鈴風祭や新入生オリエンテーション、卒業生激励会などの機会を通じて、学生自治会と連携することができた。
- ・進路指導室を事務室向かいから学生ホールに移転して3年目を迎えるが、学生が利用しやすい環境づくりを継続して配慮した結果、国試関連図書の利用状況が昨年度の128件から147件に増加した。
- ・従来、飯田女子短期大学に相乗りして参加していた公務員試験ガイダンスから、就職支援員を中心に本学独自の「公務員試験対策ガイダンス」の開催に転換を図った。10月14日（土）の午前中に初回のガイダンスを実施したところ、1年生16名、2年生16名、3年生20名、過年度生1名の計53名が参加し、「長野県内の保健師採用状況、本学の合否状況、採用試験実施状況」、「公務員試験対策心得」、「4年生で保健師内定者からのアドバイス」を受けた。本学主催による公務員試験ガイダンスとして効果的であったので、今後も継続する必要がある。

### 3 今後の課題

#### (1) 喫緊の課題（懸案事項）

- ・第4回市町村保健師採用合同説明会は、参加する自治体の拡大を検討しながら継続する必要がある。また、今年度新たに実施した「公務員試験ガイダンス」を充実させながら、行政保健師を志望する学生に対する進路指導環境を整え、行政保健師の内定者を10名以上確保する必要がある。
- ・本学学内で実施した第3回目の新入生オリエンテーションの企画・運営は、コンパクト化を余儀なくされたが、今後も学生自治会の協力を得ながら、教職員と在学生がこぞって新入生を歓迎する機会として充実させ継続していく必要がある。
- ・平成29年度国家試験の合格状況を維持しながら、引き続き看護師・保健師・助産師の100%合格を目指して、細やかな受験指導を継続する必要がある。

#### (2) 将来的な課題

- ・中山間地域において行政保健師確保に困難な市町村に、市町村保健師採用合同説明会を通じて、保健師確保支援の場を継続して提供していくこと。
- ・卒業予定者が国家試験に100%合格でき、長野県内への定着率がこれまで以上に高まるように、引き続き各種の支援策を工夫し実行していくこと。

## 第9節 ネットワーク推進委員会

### 1 所掌事項

#### (1) ネットワーク環境維持・管理に関すること

- ①コンピューターネットワーク（以下「ネットワーク」という。）のデザイン策定と執行
- ②ネットワークにかかわる予算策定と折衝
- ③ネットワークにかかわる機器の購入・設置・設定
- ④ネットワークのセキュリティ対策
- ⑤ネットワーク関連機器の監視
- ⑥ネットワークに関するクレーム対応
- ⑦アウトソーシング業者の窓口
- ⑧メールアドレスの登録削除変更の学内側の窓口
- ⑨メールアドレス管理

#### (2) 情報公開・広報に関係すること

ア 「長野県看護大学ウェブサイト管理運営要領」および「ガイドライン」に示される業務  
イ 大学ウェブサイト（広報関係）の制作主体

(3) IT 啓発に関係すること

ア 学内教職員、また学生向けの啓発活動

(4) その他委員会が必要と認める事項

## 2 活動と成果

(1) 委員会活動

- ・委員会の開催 6 回と下記の活動を行った
- ・Google Apps の管理
- ・サイボウズの管理
- ・SSLVPN の管理
- ・人事異動に伴う各種アカウントの処理
- ・ESET および SPSS ネットワークライセンスの認証サーバーの管理
- ・Firewall の機器管理
- ・バーチャルサーバー（インフォバレーと GMO の 2 台）の管理
- ・ドメインの管理（nagano-nurs. ac. jp および. com）
- ・大学ホームページの管理
- ・ホームページによる広報
- ・DHCP サーバー（L 2、L 3）等の機器の管理
- ・新任教職員へのメール・サイボウズ等の使用方法のガイダンス
- ・新入生等へのメールの使用およびスマホでの受信ガイダンス
- ・領域別実習の全体オリエンテーションでのメール受信状況確認
- ・大会義室と図書館の無線 LAN の管理
- ・大学院生室 1 から 4 の無線 LAN の管理
- ・大学院生室 1 から 4 のネットワークプリンターへの接続サポート
- ・上記以外の各種個別ガイダンスやサポート

○ 多くの活動で、現状のレベルを維持または向上させ、IT インフラや広報的な点からも学内外へ貢献することができた（ホームページ、Eメール、セキュリティソフトウェア ESET、サイボウズ、SSLVPN、SPSS ライセンス、ドメイン管理等）。また、メールやサイボウズ等、年度末に伴うアカウント作成・切り替え作業、ホームページの更新などについて、これまでの作業方法の見直しを行い、簡素化を行った。

そのほか、下記の活動を実施した。

- グループウェア（サイボウズ）のサーバーが故障したため復旧を行った。
- 一定レベルのスキルとキャパシティーを持つ委員の配置による委員会内役割配分の前進があったこと。

## 3 今後の課題

(1) 喫緊の課題（懸案事項）

グループウェアとしてサイボウズを運用しているが、レンタルサーバーでのバックアップ体制の構築が課題となっている。しかし実際のところ、講義室などの施設予約と、ファイル共有サービスのみが運用中であるため、代替案として他社もしくは無料サービスへの移行を検討している。しかし、セキュリティ面の問題、また、使用者である教職員に、新サービスへのデータ移動や操作方法の習得等の負担を生じさせるため、慎重に情報を収集し検討中である。

また、委員会構成の変更や離職などにもなう異動により、継続して委員会内に在籍する委員に集中して負担がかかる仕組みとなっている。現在、担当を複数に分担し、

負担を分散させる試みを継続して行っている。

ホームページ管理運営要領には「ホームページの管理に必要な実務を大学の事務局が代行」、「大学の広報として公開するドキュメントは大学の事務局が作成するものとする。」と定められている。このような管理が事務局で実際に実施されればより多くの学内教員が本推進委員会へ配置（担当）可能と考えられる。しかしながら短期間の異動の多い事務職員では難しい。またアウトソーシングとした場合も相当の費用を要する。

これまで学内組織のメーリングアドレスの作成も本委員会で請け負ってきたが、委員の負担を考慮し、今後はサービス利用者のメール環境に実装されているメーリングリストと同様の機能により、利用者自身で対応してもらうことを検討している。

## (2) 将来的な課題

学内にある機器やサーバーについて、稼動して年数がたっているためソフト面、ハード面での旧式化や経年劣化による故障が懸念される。

また近年、教育機関への標的型の攻撃等、インターネット関連の脅威が増大しており、管理運用にネットワーク上のセキュリティ対策の充実と高度な技術が求められている。しかし委員個人の努力では対応が不可能な側面がある。

## 第10節 FD・SD委員会

### 1 所掌事項

- ①教員の教育能力開発に関すること
- ②研究能力の開発に関すること
- ③カリキュラム開発への協力に関すること
- ④授業改善に関すること
- ⑤教職員の職務遂行能力の開発に関すること

### 2 活動と成果

#### (1) 委員会活動

第1回／平成29年4月5日(水)

- ①今年度の活動計画および役割分担
- ②若手教員の研究支援の企画検討

第2回／平成29年5月15日(月)

- ①若手教員の研究支援の企画検討
- ②教員相互による授業参観の企画検討

第3回／平成29年6月12日(月)

- ①若手教員の研究支援の企画検討
- ②教員相互による授業参観の企画検討

第4回／平成29年7月11日(火)

- ①若手教員の研究支援の準備
  - ・チラシデザインの検討，アンケート内容の検討
- ②教員相互による授業参観の準備
  - ・チラシデザインの検討，報告書フォーマットの検討

第5回／平成29年10月17日(火)

- ①若手教員の研究支援のアンケート結果集計
- ②研究集会の企画・運営の準備
  - ・企画，運営計画(案)の確認，演題登録のご案内用紙確認，案内の発送先の検討

第6回／平成29年11月28日(火)

①研究集会の運営の準備

- ・ご案内チラシの確認等

第7回／平成29年12月22日（金）

①研究集会の運営の準備

- ・演題数およびテーマの報告
- ・抄録集，プログラム案，座長，アンケート等の確認

第8回／平成30年2月5日（月）

①研究集会の運営の準備

- ・プログラム最終確認

②次年度新任教職員オリエンテーションの準備状況報告

第9回／平成30年2月21日（水）

①研究集会の運営の準備

- ・運営マニュアルの確認，当日の役割分担の最終確認

②新任教職員オリエンテーションの準備状況報告

第10回／平成30年3月16日（金）

①研究集会準備の最終確認

②次年度新任教職員オリエンテーションの準備

- ・対象者および次第の確認

③教員相互の授業参観の参観者報告書のまとめ結果報告

第11回／平成30年3月30日（金）

①研究集会の振り返り

- ・アンケート集計報告

②次年度新任教職員オリエンテーションの準備

(2) 成果

①平成29年度 新任教職員オリエンテーション

開催日時：平成29年4月3日（月）10:00～17:20，4月4日（火）9:30～14:20

会場：長野県看護大学 管理棟 小会議室2

対象者：新任教員3名，前年度中途採用者1名，新任事務局職員2名

概要：本学の理念，カリキュラム，システム，事務書類の手続き方法等について，各担当部署より説明をした．新任教職員が本学の一員であることを自覚し，新生活にスムーズに適応できることを目指して円滑に実施することができた．

②教員相互による授業参観

今年度，新しく教員相互による授業参観を導入した．後期からの開始となり，期間が短いため，今年度はトライアルにして参加は任意とした．9名が参加し実施後の報告書では様々な学びが報告された．参観者の感想では役に立ったというポジティブな評価が多かったが，任意参加では，業務が優先となるため，なかなか実施まで至らないことがわかった．来年度からは，各教員，年間最低1回を目標に大学全体で取り組んでいくことが望まれる．

③若手教員への研究支援

次年度からの，若手教員への研究支援を効果的に行うために，研究実施について，困っていることを中心にアンケート調査を行った．助手・助教の教員が，サポート環境や自分の研究能力も含め，様々な点で研究のし難さを感じていることがわかった．今後，上司からの研究サポートにつなげられるよう，アンケート結果は教授会で報告した．

④長野県看護大学研究集会

開催日時：平成30年3月19日（月） 9:30～16:05

会場：長野県看護大学 教育研究棟

参加者：86名（学外者28名，学内教職員58名）

概要：県内看護職者との共同研究，県内看護職による院内研究，産学官関係者による研究，本学の教員特別研究や看護実践国際研究センターの各部門から，計32演題が発表された。参加者数および研究発表の演題数は例年並みであり，各会場では，看護実践や教育・研究の意見交換が活発に行われ，有意義な集会となった。ここ数年，会場としていた自習室1や在宅看護実習室が手狭になってきており，今年度より，ポスター発表を中講義室4へ変更した。また，今年度で14回目を迎えた研究集会であるが，抄録集を確実に保管していくため，今後は研究集会終了後，サイボウズの委員会フォルダに保管することとした。

### 3 今後の課題

#### (1) 喫緊の課題

- 1) 若手教員への研究支援について，今年度のアンケート調査結果を参考に，今後，具体的な活動を検討していく必要がある。
- 2) 教員相互による授業参観は，今年度はトライアルとして任意参加であったが，次年度からは，大学全体で取り組むため，各教員が意識をもって取り組めるように周知を徹底する等委員会でもサポートをしていく必要がある。

#### (2) 将来的な課題

- 1) SDが義務化されたことを受け，本委員会は，今年度より「FD・SD委員会」となった。それに伴い，委員会規定の第2条所掌事項に「(5)教職員の職務遂行能力の開発に関すること」が加筆された。この任務について，今後はどのような活動を導入するかを事務局も含めて検討していく必要がある。

## 第11節 評価委員会

### 1 所掌事項

自己点検・評価及び第三者評価（以下、「大学評価」という。）に関し，次の事項について審議し，取り組んでいる。

- ア 自己点検・評価の企画及び実施に関する事項
- イ 第三者評価への対応に関する事項
- ウ 自己点検・評価の結果の公表に関する事項
- エ 大学評価の結果に基づく活用及び改善方策に関する事項
- オ その他本学の大学評価に関する事項

### 2 活動と成果

#### (1) 委員会活動

開催日	委員会	審議事項
5月10日	評価委員会	・大学評価実務説明会報告 ・大学評価スケジュール及び報告書担当(案)について ・専門部会の設置について ・H28年度の委員会活動報告とH29年度の主な取り組みについて
10月3日	小委員会	・H28後学期分の閲覧状況について ・H29前学期分の評価結果について ・教員コメントについて ・H30年度に向けた授業評価について

11月21日	評価委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認証評価報告書(草案)について</li> <li>・第3期認証評価の申請について</li> <li>・看護学教育モデル・コア・カリキュラムについて</li> <li>・大学運営協議会での意見について</li> </ul>
3月28日	小委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H29 前学期分の閲覧状況について</li> <li>・H30 後学期分の評価結果について</li> <li>・教員コメントについて</li> </ul>

## (2) 成果

- ① 平成 28 年度活動内容を取りまとめた自己点検・評価報告書を作成し、関係者及び教職員に冊子を印刷して配布するとともに、外部への公表として本学ホームページに報告内容を掲載した。併せて、次年度の報告書作成のための準備等を行った。
- ② 平成 27 年度から設置した「授業評価小委員会（メンバー：学部長、研究科長、FD委員長、事務局長、教務・学生課長）」を開催し、学生による授業評価結果や教員のコメント等について確認した。
- ③ 平成 30 年度大学評価に向けて、基礎要件確認シート、大学基礎データを作成するとともに、点検・評価報告書の草案を作成し、認証評価機関へ事前相談を行った。
- ④ 教育の質保証小委員会（メンバー：学部長、看護系分野の責任者、人間基礎科学分野講座主任）を設置し、学部の教育課程と学習成果の評価に関する検討を教務委員会、実習委員会とともに推進していくこととした。

## 3 今後の課題

### (1) 喫緊の課題（懸案事項）

長野県看護大学評価規程第 12 条に定められている「自己点検・評価」を計画的に実施し、その結果を改善につなげるため、各委員会活動における PDCA サイクルを進めると共に、大学の方針に基づいた計画を共有し、改善改革を、次の方針や計画に還元させながら継続していくことが求められている。そのためのリーダーシップとメンバーの自覚と行動が重要になる。さらに、教育の質保証小委員会と教務委員会が中心となって教育評価に取り組むことが課題となっている。また、認証評価を受けた後の課題に取り組む。

### (2) 将来的な課題

内部質保証・質向上のため、各委員会等に助言・提案等を行う等、評価委員会の更なる機能強化を図る必要がある。教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証し改善改革につなげていくシステムを検討し、教育の質保証に向けた取り組みを推進していく。

## 第 12 節 倫理委員会

### 1 所掌事項

- ① 申請のあった人及び人に由来する試料を対象とした研究計画の審査
- ② 実施後の報告書の審査
- ③ 研究倫理教育に関すること
- ④ 公的研究費内部監査に関すること

### 2 活動と成果

#### (1) 委員会活動

- 1) 毎月第 4 火曜日に定例審査及び、倫理審査申請書の改訂や研究倫理教育研修の検討などの会議を計 11 回開催した。

- 2) 再申請2件を含む計16件の研究計画について、定例会議において審査を行った。
- 3) 条件つき承認となった14件の研究計画の修正再提出に対し、随時審査を行った。
- 4) 平成29年度「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の改定に基づき、以下の活動を実施した。
  - ① 倫理審査申請書の研究計画書の見直し作業を行い、平成29年9月より改訂版での運用を開始した。
  - ② 「倫理委員会の構成及び会議の成立条件」を満たすために、平成29年10月より外部委員を増員した。
  - ③ 研究計画の審査にあたり、本学の「倫理審査の基本方針」について構成メンバーで再確認した。
- 5) 研究報告書の提出状況について、過去3年分（平成26年度以降）に承認された研究の進捗状況を確認した。また、「研究実施後の報告書」と「研究期間延長届」に加え、「研究進捗状況の報告（任意様式）」を作成、大学ホームページ上に掲載し研究報告書提出の徹底をはかった。
- 6) 研究倫理教育の研修会を実施した。（平成29年9月5日）
- 7) CITI（Collaborative Institutional Training Initiative）Japanによるe-Learningの受講方法（個人登録）について教員へ周知した。
- 8) 内部監査チームによる公的研究費内部監査を実施した。（平成29年11～12月）

(2) 成果

- 1) 申請の受付および審査を適正に行い、本学における教育、研究が倫理に沿って適正に遂行される条件を提供した。平成29年度の定例審査に申請された案件の審査結果を表1に示す。申請件数は16件であり、条件つき承認の14件については修正された研究計画の再提出があり、随時審査を行ない12件が承認となった。取り下げの1件は未提出であり、決定延期の2件については再申請があった。

表1 倫理審査申請とその結果

月	申請 件数	承認	条件付き承認			決定 延期	備考
			承認	未確定	取下げ		
4	1	1	1				
5	0	0					
6	1	1	1				
7	1	1	1				
8	2	2	2				研究計画書（改訂版）の運用
9	2	2	2				
10	0	0					外部委員の増員
11	1	1	1				
12	3	1	1			2	審査方針の再確認
1	3	2	2		1		
2	1	1	2				
3	1	0	1				承認は次年度へ繰り越し
合計	16	12	14	0	1	2	

(平成30年3月30日現在)

- 2) 研究報告書の提出状況について、H26年度は承認26件のうち、完了報告21件、進捗状況報告3件、未報告2件であった。H27年度は承認21件のうち、完了報

告 9 件、進捗状況報告 5 件、未報告 7 件であった。H28 年度は承認 20 件のうち、完了報告 6 件、進捗状況報告 7 件、未報告 7 件であった。未報告の研究者（大学院生の場合は指導教員）へは個別に連絡して提出を求めている。（平成 30 年 3 月 30 日現在）

- 3) 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に則り、審査を効果的に行うため、研究計画書(資料 1)の委員会指定様式を改訂し、平成 29 年 9 月より運用を開始している。現時点で特に運用上の問題はみられない。
- 4) 研究倫理教育の研修会を平成 29 年 9 月 5 日に実施した。教員と大学院生を対象に「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」改定の概略とそれに伴う倫理審査研究計画書(資料 1)の変更内容について説明し、周知徹底をはかった。研修会参加者は 55 名（教員 50 名＋院生 5 名）であり、研修会未参加の教員へは DVD 視聴による受講を促した。
- 5) 学内向けであった倫理審査に関するサイトを見直し、大学ホームページ上の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（平成 29 年度改訂版）と「研究計画書(資料 1)」の改訂版を更新し、「依頼文書」のテンプレートを掲載した。また、研究実施後の報告書については「研究実施後の報告書」と「研究期間延長届」に加え、「研究進捗状況の報告（任意様式）」を掲載した。
- 6) CITI Japan による e-Learning の受講方法について周知し、教員 65 名中 54 名の CITI Japan プロジェクト研修修了を確認した（平成 30 年 3 月 20 日現在）。

### 3 今後の課題

#### (1) 喫緊の課題(懸案事項)

- 1) 教職員および大学院生を対象に、研究倫理教育研修会をどのように開催していくか、外部研修も含めて検討する必要がある。倫理指針ガイダンスには「少なくとも年に 1 回程度は教育・研修を受けていくことが望ましい」とあり、科研申請においては研究機関が実施する研究倫理教育の受講が義務付けられているため、倫理教育研修を定期的に行う必要がある。
- 2) 学部生の研究倫理教育や卒業研究で倫理審査が必要な場合について、教務委員会との検討が必要である。

#### (2) 将来的な課題

- 1) CITI Japan e-Learning の効力期限について、現時点では期限を設けていないが、再受講時期について検討する必要がある。
- 2) 倫理申請条件について、倫理教育研修への参加や他の研修サイトの活用などを含めて見直しが必要である。
- 3) オーサーシップにおいて、申請書内に共同研究者の役割を明記する方法も含めて検討する必要がある。

## 第 13 節 ハラスメント防止委員会

### 1 所掌事項

- ハラスメント防止のための啓発活動に関すること
- ハラスメントの相談に関すること
- ハラスメントに起因する問題の解決及び被害の救済に関すること
- その他ハラスメントの防止等に関すること

### 2 活動と成果

## 1) 委員会活動

- (1) 第1回ハラスメント防止委員会：平成29年4月18日（火）
  - ① 新規採用者及び学生へのガイダンスの実施報告
  - ② 新任相談員（東講師）の教育（喬担当）についての報告
  - ③ 今年度の委員会活動の確認（役割分担）
  - ④ ハラスメント防止研修会について
  - ⑤ コミュニケーション促進月間について
- (2) 第2回ハラスメント防止委員会：平成29年5月23日（火）
  - ① ハラスメント防止研修会について（講師の選定、時期の検討）
  - ② コミュニケーション促進月間について（詳細の計画）
- (3) 第3回ハラスメント防止委員会：平成29年6月5日（月）
  - ① ハラスメント防止研修会について
  - ② コミュニケーション促進月間について
- (4) 第4回ハラスメント防止委員会：平成29年7月20日（月）
  - ① ハラスメント防止研修会について
  - ② コミュニケーション促進月間についての報告
- (5) 第5回ハラスメント防止委員会：平成29年9月5日（月）
  - ① ハラスメント防止研修会についての報告
  - ② 教職員の忘年会実施について
- (6) 第6回ハラスメント防止委員会：平成29年11月15日（月）
  - ① 忘年会実施について
  - ② 学内教員からの相談案件1件についての報告
- (7) 第7回ハラスメント防止委員会：平成30年3月9日（金）
  - ① 大学への委員会活動報告について
  - ② 研修会と忘年会についての報告と次年度の実施内容の議論
  - ③ 次期委員会の引継ぎ
- (8) そのほか  
平成29年度 相談員との連絡を行った。

## 2) 成果

- (1) 新規採用者及び学生へのガイダンス  
平成29年度の新規採用教職員及び新入生を含めた学生を対象とし、年度始めのガイダンスにおいて、ハラスメント及びその防止に関する本学の対応を説明した。
- (2) コミュニケーション促進月間の実施とマスコットキャラクターの塗り絵の募集  
ハラスメントの防止を目的として、学生及び教職員間のコミュニケーションを促進させるため、「7月をコミュニケーション促進月間、朝のあいさつ運動」と定め次の活動を行った。
  - ・教職員や学生からリーフレットに使用するマスコットキャラクターの塗り絵を募集し、コミュニケーションの促進を呼びかけた。また、標語を募集し、入選作品を次年度リーフレットに掲載する
- (3) ハラスメント防止研修会の実施  
教職員への研修会を平成29年9月11日に実施した。信州大学学術研究院教育学系教育科学グループの鈴木俊太郎准教授が「学生との前向きコミュニケーションのコツと実践」と題した講演を行った。63名の教職員が参加して、講演後のアンケートでは概ね肯定的な評価が多数であった。教職員のポジティブの思考方式や人間関係に関し、実例を通してその重要性について受講生の理解が促進できた。
- (4) 忘年会の実施

教員のみでなく職員の方も含めて忘年会を実施し、よりいっそうの親睦を図った。

この催しには 39 名が参加し、相互の理解を深めるための一助になった。

3) 一昨年度の喫緊課題の解決について

(1) 研修会への出席率（特に職階が上位の者）は昨年度に続き、改善していると確認した（教授出席 10 名、准教授 8 名、講師出席 6 名）。

4) ハラスメント事案の対応 なし

### 3 今後の課題

1) 喫緊の課題（懸案事項）

ハラスメント対策ガイドラインを実際に運用する際に必要となる書式や書類、および具体的なマニュアル等の更なる整備が必要である。具体的には、ハラスメント事案への対応を申し立てる際の手続きに要する書式や、マニュアルでは対応できない場合の対策を準備する必要があるが、本委員会は実際に対応する事案がなくて、どのように対応すべきかについては実際の運用の時に検討できることで、次期委員会に引き継ぐことになりました。

ハラスメント防止に関し、教員、職員および学生の意識を更に高めていく必要がある。事案は起こっていないものの、本学に構築されている解決方法についての周知の促進などが考えられる。

2) 将来的な課題

ハラスメント防止の効果的活動を検討する。また、ここ数年、ハラスメント相談員への相談件数が皆無または数件程度の状況が続いている。この原因が、学内の人間関係がよい状態なのか、相談員への相談がしにくい状態なのかなどを見極めていくシステムの構築や検証が求められる。大学が小規模であるがゆえに相談のしにくさがあることが推測される。相談がないから「ハラスメントはない」と捉えるのではなく注意してみることが必要

## 第 14 節 動物実験委員会

### 1 所掌事項

- ① 動物実験計画書の申請及び審査に関すること
- ② 動物実験の適正な実施及び結果に関すること
- ③ 動物実験の施設及び飼養に関すること

### 2 活動と成果

(1) 委員会活動

1) 第 1 回動物実験委員会：平成 29 年 4 月 25 日

- ① 文部科学省からの動物実験に係るアンケートへの回答
- ② 前年度の外部検証にともなう「検証結果報告」及び「証明書」の掲載
- ③ 本学ホームページ内の「研究倫理」（自己点検・評価報告書等）の差し替え
- ④ 動物実験計画書の審査（2 件）
- ⑤ 動物実験講習会及び実験動物慰霊祭についての検討
- ⑥ その他、外部検証によって指摘された事項の確認

2) 第 2 回動物実験委員会：平成 29 年 6 月 20 日

- ① 動物実験講習会の講師の選定
- ② 動物実験計画書の審査（3 件）
- ③ 動物実験委員会規程に「動物愛護法」を盛り込むことに関する修正

- ④ 新たな承認書の作成に関する検討
- 3) 第3回動物実験委員会：平成29年8月2日
  - ① 動物実験計画書の審査（1件）
  - ② 動物実験講習会の日程、場所、講師の確定
- 4) 動物実験に係る教育訓練：平成29年8月22日
- 5) 第4回動物実験委員会：平成29年9月26日
  - ① 各種届け出用紙（承認書、施設廃止届、動物実験計画変更届、苦痛度の集計表、動物実験室環境記録）に関する検討
  - ② 実験動物慰霊祭に関する各委員の役割分担の確認
- 6) 第4回実験動物慰霊祭：平成29年11月30日
- 7) 第5回動物実験委員会：平成29年12月5日
  - ① 動物実験計画書の審査（2件）
- 8) 第6回動物実験委員会：平成30年3月16日
  - ① 年度末に係る書類の確認（使用実験動物数・動物実験等の成果についての報告書、実験動物の飼養及び保管に関する記録、動物実験に関する自己点検・評価報告書、動物実験委員会活動報告、動物実験報告書）
  - ② 動物実験計画書の審査

(2) 成果

- 1) 動物実験計画書の審査と委員会による承認
- 2) 動物実験に係る教育訓練の実施
- 3) 実験動物慰霊祭の実施
- 4) 動物実験に関する環境の整備及び各種情報のホームページでの公表

### 3 今後の課題

(1) 喫緊の課題（懸案事項）

各種届け出用紙（施設廃止届、動物実験計画変更届、苦痛度の集計表、動物室環境記録等）の整備と、動物愛護法の規程への反映。

(2) 将来的な課題

動物実験の成果をさらに公表していくように努める。

## 第15節 感染症対策委員会

### 1 所掌事項

- (1) 本学におけるインフルエンザ、ノロウイルス等の感染症発生の予防と対応に関すること
- (2) 感染症に関する情報の収集、調査に関すること
- (3) その他感染症に関すること

### 2 活動と成果

(1) 委員会活動

1) 委員会での審議、感染症予防活動等

年月	内容
29. 4	ガイダンスにおいて学生に本学における感染症対策を周知
29. 7	夏休みを前に、海外感染症（ジカ熱、デング熱）について啓発
29. 8	国内での感染情報に基づき、麻疹について啓発

29. 9	結核週間に合わせ、啓発 第1回感染症委員会にて、認定教育課程受講者の抗体検査結果とその対応について検討と、小児ウイルス感染症の抗体価検査報告。また、職員のインフルエンザ予防接種勧奨についても確認。
29. 10	インフルエンザについて注意喚起、予防対策指導（掲示）
29. 11	インフルエンザ予防策（予防接種）について情報提供（掲示）
29. 12	世界エイズデーにあわせエイズ・性感染症啓発（掲示） 第2回感染症委員会にて、学生便覧内の感染性胃腸炎に関する記載内容の変更について検討。また、小児ウイルス感染症の抗体価検査の進捗状況について及び、感染症による出席停止の状況についても確認。教授会へ提案、承認。
29. 12 から 30. 2	インフルエンザ・感染性胃腸炎について注意喚起、予防対策指導（掲示とメールにて実施）

## 2) 感染症発生時の対応（感染者の把握・情報収集と対応）

年月	内容
29. 7	感染性胃腸炎を疑う学生1名に保健指導
29. 11	感染性胃腸炎を疑う学生1名に保健指導
29. 12	感染性胃腸炎を疑う学生2名に保健指導、インフルエンザの学生1名に保健指導
30. 1	インフルエンザの学生6名に保健指導
	【出席停止件数】 感染性胃腸炎疑い : 4件、インフルエンザ : 7件

## (2) 成果

- 1) インフルエンザ・感染性胃腸炎疑いと診断された学生に対し、保健指導を行った。特に感染性胃腸炎疑いの学生には、具体的な助言を行った。その結果、新たな感染拡大はなかった。
- 2) 新年度入学者に対しての小児ウイルス感染症の抗体価検査と予防接種の実施スケジュールを見直し、入学前に抗体価検査を勧奨する方法が2年目となった。周知するための配布資料の内容などを見直し、年度内にほぼ必要な情報を回収する事ができ、次年度の活動につなげる事ができた。

## 3 今後の課題

- ・学部学生及び大学院生・教職員に対して、有症状時の受診や出席停止等について引き続き周知徹底していく。
- ・小児ウイルス感染症の抗体価検査と予防接種のスケジュール、及び具体的な進め方について、大幅に変更したが、改善点があれば進め方などを見直していく。
- ・新興感染症等が出現した時には、長野県看護大学新型インフルエンザ等発生時業務継続計画の応用や新たな対応の検討が必要である。

## 第16節 コンソーシアム信州運営委員会

### 1 所掌事項

委員会の所掌事項を定めた学内規定等はない。設置の目的は、「コンソーシアム信州に加盟している本学が、これに関する活動を学内外で実施する際、円滑に行われる様にする」と委員会では認識している。暫定的な所掌事項として下記の項目が挙げられる。

- (1) 今年度よりコンソーシアム信州は教育部会と学生支援部会を推進チーム会議に一本化されました。

- ア これに伴って、推進チーム会議会への出席と、本学窓口としての協議
  - イ 遠隔授業等の発信および受信（受講）に関する事項
  - ウ 県内9大学合同学生キャンプに関する事項
  - エ 長野県内大学単位互換制度の、本学窓口としての協議
  - オ その他、コンソーシアム信州の活動に関すること
- (2) その他委員会が必要と認める事項

## 2 活動と成果

### 1) 委員会活動

#### (1) 第1回委員会：平成29年6月13日（火）

学内周知を行うため、教授会で報告した。

- 学内で開催される平成29年度教員免許更新講習の案内
- 今年度の遠隔授業について
- 県内9大学合同学生キャンプについて

#### (2) 第2回委員会：30年2月13日（火）

- 県内9大学合同学生キャンプの参加(本学教員1名、学生5名)遠隔授業について
- 今年度の遠隔授業履修者数及び来年度の遠隔授業時間割について
- 次年度ガイダンスの担当について

#### (3) 推進チーム会議への出席

### 2) 成果

- (1) 遠隔授業（宮越准教授）を今年も実施した。本学から5名と信州大学から3名が履修した。また、本学から他大学の講義を受講した人数は、のべ4人でした。
- (2) 9大学合同キャンプに本学学生5名と教員1名が参加した。
- (3) 教員免許更新講習会を行い、2つの講座を開設し、計51名の小、中、高等学校の教員が受講されました。
- (4) 教務ガイダンスで学生への遠隔授業を案内した。
- (5) 学生共同募集PR事業に参加した。

## 3 今後の課題

### 1) 喫緊の課題（懸案事項）

遠隔授業については引き続き学生などへの案内とともに他大学学生が履修しやすい時間割等の調整を引き続き行い、受講者の獲得に努める必要がある。

### 2) 将来的な課題

高等教育コンソーシアム信州の存続への係わり方について、様々な観点から検討する必要がある。

## 第17節 防災委員会

### 1. 所掌事項

「本学防災委員会規程:平成26年4月1日」に基づき、次の事項について調査および審議する。

- 1) 学生及び教職員の防災及び減災意識の向上に関すること
- 2) 災害発生時の対応策に関すること
- 3) 大学施設の防災及び減災に関すること
- 4) 地域との防災及び減災の連携等に関すること
- 5) その他防災及び減災に関すること

## 2. 活動と成果

### 1) 平成 29 年度の活動目標と実施状況

- (1) 昨年度導かれた防災/減災上の問題に対する経過把握と実施可能な対策、喫緊の事項への対応
  - ① 関係機関と連携した生協施設の防災対策の強化
  - ② 平日・平常時間以外の発災に関わる学内連絡体制の確認および周知
  - ③ 駒ヶ根市との包括的連携に基づいた防災・減災対策、発災時の初動システム、避難所対応
- (2) 備蓄等における近隣地域との連携の開始
  - ① 「防災マニュアル」の更新版の配布および周知・徹底、防災訓練での運用・評価
  - ② 更新されたシナリオとアクション・カードを用いた防災訓練の実施・評価
  - ③ 可能な限りの全学的参加、学生の参加による防災・減災教育
  - ④ シナリオとアクション・カードの運用理解の事前周知・徹底
  - ⑤ 防災備品、防災装備等の整備・運用理解の周知
- (3) 防災・減災 FD/SD の企画・実施・評価

### 2) ワーキング・チームと活動内容

所掌事項に沿って、昨年度から引き続き次のとおりワーキング・チームを編成し、活動した。

No.	項目	活動内容
1	組織・情報伝達	1) 各防災組織・連絡体制図の更新 2) 自衛消防隊班員の更新と班長顔合わせ 3) 初動体制の確認と周知徹底
2	防災マニュアル、アクション・カード	1) 「防災マニュアル」の点検・修正 2) アクション・カードとマニュアルの整備・徹底 3) 防災ハンドブックの検討・作成
3	防災訓練	防災訓練の企画・周知・実施・評価
4	防災備品の点検整備・文書管理	1) 防災備品庫の点検リストの作成、点検の定期化、欠品の補充 2) 自衛消防隊委員配布品の整備 3) 無線機の使い方の講習・訓練時の導入 4) 委員会で扱う資料の整理・文書管理 5) 非常時持ち出し袋の新設・点検の定期化 6) 全課程学生および学内関係者全ての名簿整備と更新の定期化
5	地域との連携	1) 駒ヶ根市との包括連携協定内容の確認と周知 2) 発災時の初動、備蓄等、必要な対応の確認とシステム整備 3) 地域防災訓練の企画および実施後の評価 ・上穂地区 5 町内防災訓練（平成 29 年 8 月 27 日（日）） 4) 大学近隣地区町内会との避難所活用に関する検討
6	防災・減災教育	1) 全学生・新任教職員への防災ガイダンス実施 2) 「学生便覧」の見直しと修正 3) 「防災ハンドブック」の作成と配付（防災訓練前） 4) 教職員への防災訓練関連企画（救急蘇生法、3T's、日赤救急法等）の周知および勧誘 5) 関係機関との連携および研修機会等への参加 ・駒ヶ根日本赤十字奉仕団の定例会議、定期訓練への参加

### 3) 今年度の委員会の開催状況と内容

回数	期日	主な審議事項
第 1 回	4 月 25 日（火）	1) 平成 29 年度委員会活動案・任務分担表の検討 2) 平成 29 年度自衛消防隊組織・任務分担表の検討 3) 防災マニュアル・防災ハンドブックの内容および運用方法の検討

第2回	6月1日(木)	1) 平成29年度自衛消防隊組織・任務分担表の決定 2) 自衛消防隊顔合わせ企画の検討 3) 防災マニュアル・防災ハンドブックの内容および運用方法の検討 4) 防災訓練の内容検討
第3回	7月3日(木)	1) 県危機管理課防災員による生協の防災対策コメント 2) 地震体験車企画の報告 3) 自衛消防隊班長会議の内容検討 4) 防災訓練の内容検討 5) 防災関連企画の検討(市危機管理係講話・上穂5町内の地区防災訓練の企画と運営・体育館の避難所としての整備等)
第4回	9月21日(木)	1) 防災ハンドブックの内容の検討 2) 防災訓練の内容の検討
第5回	10月5日(木)	1) 防災ハンドブック完成版の内容および配布方法の確認 2) 防災訓練の内容検討・班長会議の企画検討
第6回	12月12日(火)	1) 防災訓練の振り返り状況報告および訓練後の喫緊の対処事項 2) 市および上穂第4・5町内との体育館の避難所活用に関する検討 3) 平成29年度予算購入物品の検討および平成30年度委員会予算案 4) 次年度防災訓練時期および概要の検討
第7回	1月31日(水)	1) 平成29年度防災訓練振り返りと次年度訓練についての検討 2) 平成30年度「学生便覧」防災関連ページの修正案の検討 3) 平成30年度「防災ガイダンス」実施案の検討
第8回	2月27日(火)	1) 近隣自治体による避難所としての体育館視察結果報告 2) 防災訓練後の喫緊の対処事項の結果報告(生協食堂の防災備品対応・「防災訓練」撮影動画の学内共有方法・安否確認テストの実施頻度) 3) 平成30年度「防災ガイダンス」実施方法等の確認 4) 平成29年度「委員会活動年度報告書(案)」(自己評価報告書)、平成30年度「自衛消防隊組織名簿(案)」「緊急連絡網(案)」の検討 7) 平成29年度委員会活動の振り返りと平成30年度分担(案)の検討

#### 4) 防災訓練の実施・評価

平成29年11月17日(金)：午前10：00～11：20【地震を想定した情報伝達訓練】

45名参加

午後13：30～14：30【地震による火災想定避難訓練】

230名参加

内容：進行資料およびアクション・カードを用いた「情報伝達訓練」と「消防避難訓練」を行った。学生には生協食堂および中講義室でのShakeOutと緊急退避訓練、煙体験を新たに企画した。

総括：情報伝達訓練では、防災チームリーダーに集中していた情報・判断・指示の進行シナリオの修正と、地震後に想定される事例(学部長の不在、余震、住民対応等)の提示によって、各本部員がより实际的に起こりうる対応を体験する機会となった。消防避難訓練では負傷者事例の救護所到着に時間を要したため煙体験が時間外となったが、発災直後に重要な各班と本部間の指揮・統制、情報伝達、救護者対応における具体的な示唆を得た。事例対応の観察役付与、ShakeOut、煙体験の取り入れは学生にとってより実践的な訓練機会となったが、参加可能な教員および3・4年生の関心を促すことが今後の課題となった。さらに、実施時期の変更や新たに生協食堂で行った訓練は、ボイラー稼働によるシステムへの影響や放送設備設定の確認など、防災上の要点を新たに知る機会となった。安否確認ができた人数は昨年よりやや低下し、その改善が課題となった。今後の訓練内容の精練・向上を目指す上で午前と午後を別日で訓練することを検討する。また、新たな企画を追加する際は、従来の企画の一部を削除する。

#### 5) 委員会活動の成果

1) 「地震体験車(6月)」(120名参加)、「煙体験(防災訓練)」新たに企画し、地震の揺れ

や煙の怖さがわかり備えをしようと思ったなど、より現実的な自助を考える機会として好評であった。

- 2) 今年後の目標であった生協設備の防災対策として、県危機管理防災課員による緊急退避方法に関する助言を受けた。また、防災訓練では食堂利用中の地震発生を想定した学生の安全確保行動および緊急退避訓練を取り入れ、学生の具体的な安全確保行動と退避に要する時間等を観察した。対象となった1学年学生は全学生が参加し、柔軟に身体を保護することができ、退避に伴う出入り口も予想以上の混乱がなかったことが確認された。また、訓練によって発覚した放送設備の音量復旧、油火災対応の消火器の見直し、ヘルメット・メガホン等の防災備品の設置による減災対策を直ちに行った。
- 3) 防災訓練では、中講義室での学生の安全確保行動および緊急避難訓練も取り入れた。その結果、出火場所に向かって退避する、緊急避難口を知らない、退避中の私語が多い、教員の参加度などの課題が指摘され、今後、より現実的な力をつける全学的な訓練にするための示唆を得た。
- 4) 学生および全教職員に向けた「防災ハンドブック」500部を作成し、配付、防災訓練では、実際に安全確保行動の説明に活用した。防災訓練で取り入れた新たな企画のアンケートや撮影動画等を委員会としてとりまとめ、全学でフィードバックできる防災ガイドンス企画を検討中である。
- 5) 本学体育館が近隣住民の指定避難所であることから、第5町内住民による体育館視察と避難所としての活用を検討する企画を「駒ヶ根市総合防災訓練」実施日の地区防災訓練で実施した（指定避難場所に参集した87名中61名が参加）。実施にあたり、体育館関連施設の清掃・整備、視察後の避難所運営に関するビデオ視聴、活用に関する意見交換、アンケート調査等を実施した。その結果、市や町内会の防災の備えの現状を共有し、備えるべき物品のリストアップ、備品保管庫の確保検討、助成金申請の準備等の「公助に頼らない自助・共助の意識化・行動化」につながった。その後、市危機管理係からの申し入れにより、第4町内も加えた町内と大学との避難所活用・運用方法の検討に着手している。

### 3. 今後の課題

喫緊の課題：

- 1) 安否確認の訓練回数を増やし、学外にいる学生・教職員のより確実な安否確認ができるようにする。平成30年度の情報伝達訓練では、名簿等による安否確認をより厳密に行えるようにする。
- 2) 大災害の発生時の学生・教職員の安否確認方法について、従来のメールシステムおよび災害用伝言ダイヤルの利用以外に、情報通信網の断絶を想定したより確実な代替案を引き続き検討する。

将来的な課題：

- 1) 本学の体育館の避難所等としての活用・運用に関する検討が始まったところであり、今後は平日・平常時間以外の発災に関わる学内連絡体制、住民対応の初動について具体的に検討する。要検討事項としては、次の点があげられる。
  - ①発災直後の体育館開放の基準・開錠方法（鍵の管理含む）
  - ②大学教職員の動き方、配置
  - ③市役所等との連絡体制の構築
  - ④グラウンドから体育館への動線（未舗装、階段など）
  - ⑤グラウンドでの車輛の駐車位置
  - ⑥受付、名簿作成、チェック体制、各種トリアージ体制
  - ⑦即座に必要なトイレ対策（収容人数に対する絶対的不足、未洋式化、備蓄なし）
  - ⑧実際の収容可能人数の算定と各人の必要スペース、配置図の策定
  - ⑨収容想定人数に対する備品、物資の検討、公助として提供される物と自主的な備えの想定

- 2) 学生の防災・減災に関する企画をサークルや行事に組み入れ、実施には地域との連携も試みる。

## 第18節 安全衛生委員会

### 1 所掌事項

- (1) 教職員の危険及び健康障害を防止するための基本となるべき施策に関する事
- (2) 教職員の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策に関する事
- (3) 公務災害の原因及び再発防止対策に関する事
- (4) その他教職員の危険及び健康障害の防止並びに健康の保持増進に関する事

### 2 活動と成果

#### (1) 委員会活動

年月日	内容
29. 7	労働安全衛生月間を周知
29. 8	ストレスチェック実施
29.10	全教職員に「労働者の疲労蓄積度自己診断チェック表」を配信、心身のセルフケアについて啓発
29.11	職場点検チェックリストを活用した職場巡視実施 ストレスチェック結果を配付 結果説明会に参加
29.12. 1	職員安全衛生管理規程に基づく第1回安全衛生委員会を開催。学内のストレスチェック結果について委員会内で共有し、職場環境改善策を検討。その他、安全衛生管理体制や教職員の健康管理状況、ACEプロジェクト、年次休暇取得状況及び超過勤務実績状況等について協議、検討。 産業医による職場巡視を実施。
随時	交通労働災害防止等について教授会等で啓発
随時	定期健康診断や人間ドック、各種検診、ACEプロジェクト・ストレッチについて周知、啓発、受診勧奨、精密検査等の事後指導実施。

#### (2) 成果

2回目となるストレスチェックが実施され、その結果を踏まえて委員会を開催し、学内の状況を確認、問題点を共有し、今後の対策等を検討する事ができた。

会議には産業医に参加していただき、助言を頂く事ができた。また、産業医による職場巡視を実施できた。

### 3 今後の課題

- ・健康障害の防止や健康の保持増進に係ることについて、教職員の啓発や受診勧奨等を継続強化していく。
- ・ストレスチェックの結果、点数が高い事務局の、個々の業務の負担軽減を模索していく。

## 第19節 研究科委員会教務部会

### 1 所掌事項

長野県看護大学看護学研究科教務部会は、看護学研究科博士前期課程、博士後期課程の大学院教育に関する以下の内容を扱う。

1. 看護学研究科カリキュラムに関する事
  - 1) カリキュラムの検討と作成、2) 非常勤講師について（依頼と決定）
2. 看護学研究科単位取得に関する事

- 1) 博士前期課程・後期課程の大学院生の単位取得状況の確認
3. 看護学研究科科目履修に関すること
  - 1) 大学院科目履修の決定、2) 科目履修生の選考
4. 看護学研究科院生の休学、退学、長期履修などに関すること
  - 1) 休学・退学願、長期履修願、奨学金返済免除者の審査
  - 2) 長期履修希望者の選考
5. 看護学研究科修士論文、博士論文の審査及び学位授与に関すること
  - 1) 修士論文審査基準と審査方法の見直し、2) 修士論文発表会の進行
  - 3) 博士論文審査委員選出、4) 博士論文審査基準の見直し
  - 5) 博士論文発表会進行、6) 博士論文審査結果公表の手続き等
6. 上記1～5に関わる学則の検討
7. 看護学研究科院生の大学院生活全般に関すること
  - 1) 年1回の大学院生と教務部会委員との話し合いの開催

## 2 活動と成果

### (1) 部会活動

#### 第1回教務部会（4月12日）

- ① 休学願3名について審議した。
- ② 大学院授業科目の履修登録状況(修士・博士)について確認した。
- ③ 教務部会の年間計画について確認した。
- ④ 研究生の研究期間延長について審議した。

#### 第2回教務部会（5月12日）

- ① H29 修士論文研究テーマ・論文指導（審査）委員(案)について審議した。

#### 第3回教務部会（7月13日）

- ① 平成29年度前期博士論文審査に係る外部審査委員について審議した。
- ② CNS38 単位申請に伴う科目の変更について審議した。
- ③ 学習成果の把握について

#### 第4回教務部会（9月19日）

- ① 休学願1名について審議した。
- ② 平成29年度後期 博士論文研究計画書等の指導・審査体制について審議した。
- ③ 長野県看護大学学位規程に関する内規(案)について審議した。
- ④ 大学院生との話し合いの結果について確認した。
- ⑤ 学習成果に関するアンケートについて確認した。

#### 第5回教務部会（10月24日）

- ① 平成30年度大学院入学願書提出者における長期履修希望状況及び、長期履修の申請条件(博士前期課程5名)を確認し、承認した。
- ② 平成30年度大学院学年暦について審議した。
- ③ 大学院シラバス・学生便覧作成スケジュールについて確認した。

#### 第6回教務部会（12月1日）

- ① 平成29年度後期 博士論文審査委員(案)を審議した。
- ② 平成29年度修士論文指導体制(案)を審議した。

#### 第7回教務部会（1月16日）

- ① 長期履修希望状況及び長期履修の申請条件(博士後期課程1名)を確認し、承認した。
- ② 平成30年度科目履修生募集要項(案)を審議した。
- ④ 平成30年度研究生募集要項(案)を審議した。
- ⑤ 平成30年度長野県看護大学県内大学単位互換履修生募集要項(案)を審議した。

- ⑥ 長期履修規程改正（案）を審議した。
- ⑦ 平成 30 年度大学院時間割を確認した。
- ⑧ 大学院入試制度変更に伴う博士前期課程英語教育について審議した。

第 8 回教務部会（2 月 6 日）

- ① 大学院修了予定者単位取得状況について確認した。
- ② 平成 29 年度修士論文発表会の日程を審議した。
- ③ 平成 30 年度大学院教務ガイダンス日程について確認した。

第 9 回教務部会（3 月 15 日）

- ① 休学願（博士前期課程 1 名、博士後期課程 1 名）について審議した。
- ② 博士前期課程の修得単位の認定について審議した。
- ③ 博士後期課程の修得単位の認定について審議した。
- ④ 平成 29 年度教員退職等に伴う指導教員の選定について審議した。
- ⑤ 平成 29 年度大学院生名簿及び研究室名簿について確認した
- ⑥ ティーチングアシスタントの実施状況について確認した。

(2) 成果

- ① 大学基準協会より指摘されていた、ディプロマ・ポリシー（博士前期課程・後期課程）、カリキュラムポリシー（博士前期課程・後期課程）、修士論文・博士論文指導教員、論文審査体制などを明記した大学院学生便覧・シラバスに基づいて、大学院の教育目標、教育課程の方針を入学生、在学生に対して引き続き周知した。
- ② CNS38 単位教育課程について小児看護専攻教育課程，老年看護専攻教育課程を申請し認可を受けた。
- ③ 修士課程入学後の英語教育プログラムの見直しを行った。
- ④ 修士課程・博士課程修了生に大学院目標およびカリキュラムによる学習成果に関するアンケート調査を実施した。

3 今後の課題

- ① 大学院における教育の質評価の方法を具体的かつ定式化が必要である。

第 20 節 研究科委員会入試部会

1 所掌事項

- (1) 入試科目及び期日の選定に関すること、(2) 合否判定の基礎資料に関すること
- (3) 入試の追跡調査に関すること、(4) 入試のあり方に関すること、
- (5) その他 入試に関すること

2 活動と成果

(1) 部会活動

1) 第 1 回入試部会(平成 29 年 4 月 25 日 (火) 13:30~14:50)

- ① 入試部会の規程及び部会員の役割の確認
- ② 今年度の入試日程の確認
- ③ 平成 29 年度学生募集要項の検討
- ④ 入試科目・システム等の見直し  
博士前期課程の英語試験の在り方について協議
- ⑤ 今年度の活動計画・課題の確認
- ⑥ 大学院の定員数について
- ⑦ その他

北山部会長の提案により、オブザーバーとして適宜、渡辺研究科長の出席を承認した。

- 2) 第2回入試部会(平成29年5月10日(火)13:00~14:15)
- ①平成29年度学生募集要項の確認
  - ②受験者確保対策の検討  
病院等の施設訪問の検討
  - ③大学院の定員数について  
当面変更しないで、受験者増に努めることとした。
- 3) 第3回入試部会(平成29年6月13日(火),16:30~17:30)
- ①受験者リクルートのための訪問施設、訪問教員の確保及び持参する資料等の検討
  - ②今年度の入試科目について
    - ・「英語」について、昨年同様に準備を進める。
    - ・「小論文」は当面維持する。
  - ③募集要項を確認した。
  - ④博士後期課程の外国人受験者への対応について  
他の看護系大学の情報を収集し見直しを検討する。
- 4) 第4回入試部会(平成29年9月12日(火)13:00~14:00)
- ①受験者リクルートのための訪問施設と訪問教員の確定
    - ・研究科委員会で病院等施設訪問に関するオリエンテーションを行う。
    - ・受験者リクルート(訪問次第、持参する資料等の確認)について
  - ②平成30年度大学院入試(2017/10/21)の担当者調整
  - ③学報「大学院だより」について  
来年度から後学期のみ1回作成発行に変更する。
- 5) 第5回入試部会(平成29年9月21日(木)13:30~14:50)
- ①博士前期課程出願資格事前審査について
  - ②平成30年度大学院入試(2017/10/21)組織表(案)の作成
- 6) 第6回入試部会(平成29年10月6日(火)9:00~10:00)
- ①平成30年度大学院入試(2017/10/21)組織表の確定
  - ②平成30年度大学院2次募集要項の確認
- 7) 第7回入試部会(平成29年11月14日(火)10:00~11:00)
- ①平成30年度大学院2次募集入試、英語問題について
    - ・昨年と同様に看護系教員で作問する。また英語担当教員には当面の間、作問委員会にご参加頂き助言をもらうが、最終判断は入試部会長が行う。
    - ・2次募集用の作問委員会メンバーは部会長、副部会長、岡田先生、渡辺研究科長とオブザーバーとして西垣内先生に参加を依頼する。
    - ・過去2回の英語試験の評価ならびに学業における影響等を学生から聴取する。
  - ②平成31年度博士後期課程入試改革(英語による入試)について  
外国人留学生の日本語能力試験および日本人受験者の英語試験については外部成績を活用することで意見が一致した。また修士課程においても英語の外部成績を活用することが提案された。これらについては次回の部会で検討し、研究科委員会に諮る予定である。
  - ③平成30年度大学院2次募集要項の送付・配布先および数量について  
例年通りの実績に基づき送付することが了承された。
- 8) 第8回入試部会(平成29年12月6日(土)13:00~14:00)
- ①博士前期課程入試における英語問題などについて
    - ・過去2回の英語試験の評価ならびに学業における影響等を学生から聴取した(北山委員長)。看護系の出題はよかった。
    - ・入試の英語について外部検定の導入は読解以外の能力問題を含んでいるので受験のハ

ードルが高すぎる。

- ・今実施している入学後、英語教員による英語の授業は役に立っており、むしろ、英語無しの入試で、入学後、英語の科目を「必修」にする方が学生の負担、学生の利益、入試者増などの利点が考えられる。

- ・英語授業の必修（必須）の手続確認（佐々木課長補佐）、研究科委員会で審議する。

#### ②平成31年度博士後期課程入試改革（英語による入試）について

- ・本学独自の英語入試を中止して、外部検定システムを導入する。英検2級相当が妥当。5年以内の成績で評価。
- ・口頭試験は日本語或いは英語で実施する。外国人受験者の日本語レベルは入学後の日常生活に支障のないN5相当（基本的な日本語を理解できる）が妥当。

#### 9) 第9回入試部会(平成29年12月22日(金)17:00~18:00)

##### ①2次試験業務処理要領・試験実施配置表の確認について

##### ②博士前期課程の入試改革について

- ・論文コースも英語の試験をなくす
- ・外部試験もなし
- ・入学後の英語プログラムをこれまで通り実施し、この内容及び分野教員の指導内容をさらに充実させる
- ・時期としては平成31年度入学生から実施する

上記の改革の内容に関して、他大学の英語試験の実施状況に関する資料を添えて、部会長から研究科長に、研究科委員会の前に報告しておく。

##### ③博士後期課程の入試改革について

- ・外国人に関する対応では、5年以内の外部試験の成績評価（英検2級相当）で英語試験を免除する、あるいは、本学の英語の試験を受けてもよい。日本語レベルはN5相当とする。口述試験で英語による発表の場合は、主要内容の日本語資料を添付する。

##### ④病院等施設訪問報告書について

- ・資料を研究科委員会で配布する。

#### 10) 第10回入試部会(平成30年1月27日(木)16:15~16:30)

##### ①平成30年度大学院入学試験(2次)判定会議

- ・博士前期課程受験者なし
- ・博士後期課程受験者1名について判定会議を行った。

受験者1名(広域看護学領域老年看護学分野)について、入試部会判定会議で「合格」とし、2018/1/30(火)臨時研究科委員会に諮るとこととした。

#### (2) 成果

##### 1) 学報の「大学院だより」の作成

大学院の広報活動の一環として、学報の「大学院だより」に、新任教員の研究活動や院生の学修状況等に関する記事を掲載するとともに、大学院入試部会の活動について紹介した。来年度から後学期のみ1回作成発行に変更し内容の充実を検討する。

##### 3) 受験者確保対策

今年度も県内病院等11施設に直接訪問して、本学の特長等について説明するとともに、本学卒業生の仕事ぶり・印象・動向、遠隔授業のためのサラス導入の可能性等について意見交換した。

##### 4) 看護系教員による英語試験問題作成等

今年度も昨年同様、入試部会内に「英語問題作成委員会」を設け、1次募集博士前期課程試験で実施した。試験問題の適切性、公平性等を高めるために、引き続き精査していく予定である。

##### 5) 入試システムの検証と見直し

- ①募集要項、②入試業務処理要領、③合否判定基準等の検証と見直しを継続的に行う必要がある。
- 6) 博士前期課程および博士後期課程の入試改革について
- ・博士前期課程入試において、平成 31 年度入試から「英語」試験を廃止することとした。
  - ・博士後期課程入試における外国人特別選抜の取扱変更と入学後の教育体制について、課題を整理し、次年度(2018)の新学長・研究科長体制下で引き続き検討することとなった。

### 3 今後の課題

#### (1) 喫緊の課題

- 1) 受験者および入学者の確保（具体策の検討と実施・評価）
- ①県内病院等の施設訪問などによる継続的な広報活動
  - ②サラスシステムによる『遠隔授業』の拡大と広報活動
  - ③特に、博士後期課程の英語による口述試験の導入等

#### (2) 将来的な課題

- 1) 受験者および入学者確保の対策を継続する。
- 2) 大学院博士前期課程の定員について検討する。
- 3) 県内で新たに開設予定の大学看護学部の人材育成に貢献する。
- 4) 公正・公平な入学試験実施と定期的な合否判定の適切性の検証を継続する。

## 第6章 学生生活及び学生への支援

### 第1節 学生支援活動

#### 1 学生支援体制

##### 1) 目的

学生支援に係る教職員及び健康センターの役割を見直し、学生の学習・生活の両面からの支援の充実・強化を図る他、大学として迅速な対応を行うための体制を整備する。

##### 2) 個人情報の厳正な取り扱い

- ① 相談窓口となる者は、学生のプライバシーの保護に努める。
- ② 相談窓口となる者は、学生個人の権利利益を保護するため、必要な措置を講ずるよう努め適正な取り扱いを行う。

##### 3) 相談窓口及び実施方法

###### ① 学年顧問

- ・ 各学年に2人の学年顧問を置き、学生の生活・履修・進路・学習面の相談を受ける。
- ・ 休学、復学、退学、奨学金や就職推薦に係る書類作成及び、保護者との連絡・調整を行う。
- ・ 卒業延期生は卒業まで同じ教員が担当する。

###### ② 保健室保健師

健康管理（精神・身体）全般を扱う。

###### ③ 学生支援員・就職支援員

学生支援員は日常生活全般に係る支援を、また就職支援員は、進路・国家試験に係る支援を行う。

###### ④ 臨床心理士（教員兼務）

臨床心理士として学生からの相談に応じる。

###### ⑤ 健康センター

- ・ 学生のこころの健康相談に応じる。
- ・ 窓口は保健室保健師とし、必要に応じて精神看護 CNS や健康センター相談員（外部）の助言を得て対応する。

###### ⑥ ハラスメント相談員

ハラスメント相談マニュアルに基づきハラスメントに関する相談等に対応する。

##### 4) 学生支援の責任者と責務

- ① 責任者は、学部にあつては学部長、研究科にあつては研究科長とする。
- ② 上記3)の窓口となっている者は、学生から相談を受けた場合、自身で解決出来ないと判断した際は、責任者に相談する。
- ③ 相談を受けた責任者は、対処方法を検討して関係者に指示するものとする。なお、必要があると認めた場合には、学長に相談・報告する。
- ④ 学生支援に関わる者の意識の高揚及び資質の向上を目的として、各委員会の協力を得て教職員の自己研鑽を進める。

##### 5) 学長への報告

責任者は、生命への危険性が高い事案、ストーカー行為を受けている事案、親密な関係にある者から身体的・精神的暴力を受けている事案等の重要な事象について、学長に報告し、学長の指示を受けて対応する。

##### 6) 学生支援会議

長野県看護大学学生支援会議設置規程による。

7) ハラスメントに当たる事象

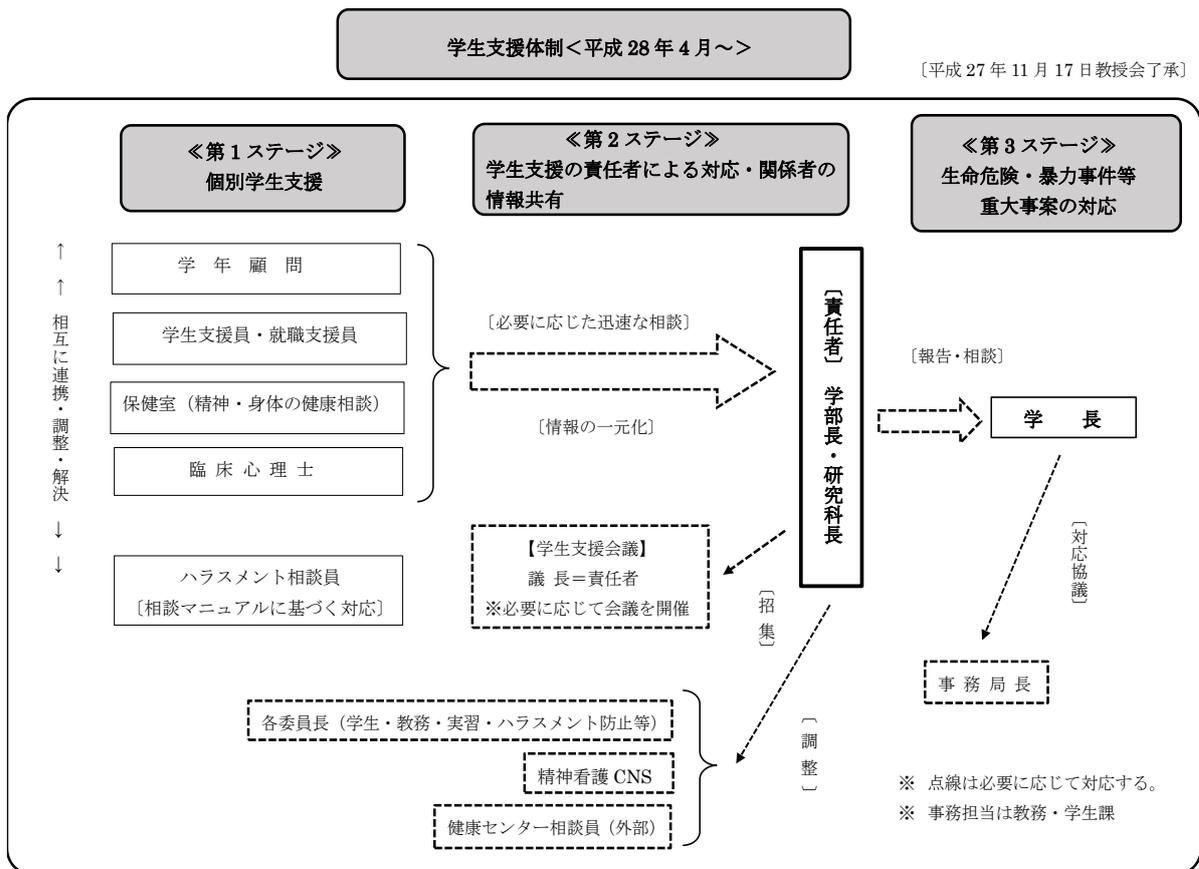
相談窓口となる者は、相談を進めるに伴って学生の抱える問題が明らかになり、ハラスメントにあたる判断できる事象が確認された場合、ハラスメント相談として対応することについて学生の了解を得たうえで、ハラスメント防止委員長に報告する。

8) 学生支援体制の見直し等

支援体制の見直し等、学生の支援に関することは、教授会の審議を経て学長が決定する。

9) 事務局

学生支援に係る事務は、教務・学生課が担当する。



2 学年顧問

1) 学年顧問の役割

学年顧問は、学生に身近な存在として学部長の指揮のもと学生の学習や生活に係る相談を受ける。なお、原則として入学から卒業までを同一教員が担当する。

2) 学年顧問の主な仕事

- ① 学生の生活面の困りごとの相談
- ② 学生の学習面の相談（履修単位の修得、実習に関すること、休学・退学等）
- ③ 学生の健康面に関する相談
- ④ 学生の進学・就職、国家試験の準備等に関する相談、看護師国家試験不合格時の支援
- ⑤ その他 奨学金の推薦状の作成等
- ⑥ 学生支援会議に出席する

⑦ クラス委員との連絡・調整

3) 学生からの相談に関して学年顧問が連携する部署／担当者

学生の相談内容や問題となっている事項に応じて、就職支援員、学生支援員、保健室保健師、健康センター長、卒業研究担当教員、教務・学生課等の関係者と連携して対応する。

また、必要に応じて学部長に相談・報告をする。

4) 保護者との連絡

学生の保護者への連絡が必要な場合は、学部長に相談のうえ、適任者が対応することとする。

また、その結果について学部長に報告する。

平成 29 年度学年顧問

学年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生
顧問の氏名	座馬准教授 御子柴講師	藤原准教授 小野塚講師	有賀講師 島袋助教	千葉准教授 秋山講師

※ 卒業延期生の学年顧問は、卒業まで同じ教員が担当

5) 学年顧問の活動報告

<相談状況>

人数等 相談内容	相談内容別実人数 (人) (1人の学生が、複数の相談をした場合は、相談内容毎に1人とカウント)						
	履修・ 学習	アルバ イト	進路・就 職	対人関係	健康	家庭環境	その他
1 年	1				1		
2 年	1				1		1
3 年	15		2		4	2	
4 年※	4				4		

※卒業延期生を除く

<総括>

① 1 学年

対人関係については、4月の入学当初は戸惑いがみられたものの、学内行事や科目履修を通して、個々に友人関係を築いていたようだ。学習面については、授業態度もよく、単位を落とす学生もきわめて少なく、課題の多さに戸惑いながらも真面目に努力して取り組む姿勢が見受けられた。健康面については、不安を抱える学生もおり、見守りが必要である。このような学生のかかえる問題については、保健室、事務、教員との情報共有を密におこないながら学生に対するサポートをおこなってきており、今後とも連携を継続していく必要がある。

② 2 学年

学習面においては、全体的に安定して授業や実習に取り組んでいる印象である。履修上の問題を抱えた学生1名についても、履修計画通り進行することができている。生活面や精神面に問題を抱え、学習面への影響がみられる学生もおり、保健室保健師を窓口に対応した学生の中で、進路変更希望もあり休学を経て退学となった学生もいた。

また、後学期に入り、体調面に不安を抱える学生も見受けられ、保健室保健師と情報共有し、学修支援を継続していく。

③ 3 学年

多くの学生は、安定して授業や実習に取り組むことができていた。一方、授業の単位

を複数落とす学生が見られ、それらの学生への対応を行った。留年の長期化を防ぐための指導を継続していく必要がある。

また、生活面や精神面に問題を抱え、学習面への影響が見られる学生も見受けられ、相談を定期的に行った。保健室保健師と情報を共有して対応をしていくとともに、相談の機会などで学生自身が成長できるよう見守っていく必要がある。

#### ④ 4 学年

卒業予定者においては看護専門領域実習後半や統合実習等で、大きな問題は見られなかった。また国家試験に向け各自で順調に準備を進めていった。助産選択コース7名中、辞退者は1名となったが、6名は履修を終えることができた。就職に関しても、全員ほぼ希望通りの結果となった。国試については、模試の結果が好調であったものの、合格率は看護師と助産師が100%、保健師が89.5%となったが、保健師志望者は全員が合格したため就職等に影響はしなかった。

留年する学生は、フォローアップのもと各自がスケジュールを確認し、卒業準備を進めた。29年度中休学した学生2名は年度内に1名復帰した。もう1名の休学者は引き続き復学の意向を確認しているところである。

### 3 新学期の学生生活ガイダンスの実施等

#### 1) 新学期の学生生活ガイダンスの実施

新学期開始直前に、各学年に対して学生生活ガイダンスを実施した。

#### 2) 防犯講習会の開催等

新学期開始直後に、すずらん寮に入居する1年生とアパート暮らしを始める2年を対象に、駒ヶ根警察署の警察官を講師に防犯講習会を実施した。また、10月の全国地域安全運動に合わせ、駒ヶ根警察署と伊南防犯女性部に協力し、学生に対しストーリーカー被害や個人情報の取り扱い、戸締りの徹底等防犯に関する啓発を行った。

#### 3) ワーキングセミナー

アルバイトに関するトラブルを未然に防止するため、県労政事務所によるワーキングセミナーを開催した。

## 第2節 キャリア形成支援

### 1 在学時における進路支援

#### 1 支援の概要

##### 1) 就職・進学に関する支援

(1) キャリアガイダンスの実施

(2) 進路希望調査の実施

4月：求職票の提出（4学年） 12月：進路希望調査票の提出（3学年）

(3) 個別面談の実施 4月：卒業予定者全員を対象

(4) 求人票・募集要項等の整備

(5) 「進路の手引き」（キャリア支援ハンドブック）の作成：全学年および全教員に配布

(6) 求人等に関する来訪への対応

(7) 職場体験（インターンシップ）・職場見学等の紹介や斡旋

(8) 各種進路関係情報の提供（合同説明会の開催等の情報提供、進路情報誌の配布など）

(9) 大学院等の募集要項の整備

(10) 大学等からの教員募集要項等の整理

- (11) 応募及び採用試験への支援  
希望者に応募書類作成支援、面接試験個別練習、面接ビデオや関係図書の整備など
  - (12) 公務員・養護教諭等の受験対策  
公務員対策講座への参加斡旋、参考図書等の整備、希望者への個別受験指導など
  - (13) 新社会人ワーキングセミナーの開催
  - (14) 県内市町村保健師採用合同説明会の開催
- 2) その他
- (1) 進路資料室の整備・充実
  - (2) キャリア支援のあり方についての見直し・検討

## 2 支援の実施状況・結果

### 1) キャリアガイダンスの実施状況

<一年次>

キャリアガイダンスⅠ 5月16日(火)13:00~14:30

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大学における進路選択や就職活動等についての基本的な知識を身につける。</li> <li>○本学の卒業時に取得できる免許や資格等を理解する。</li> <li>○卒業生の進路動向等により卒業後の進路の可能性を考える。</li> <li>○卒業後の進路を見通すことによって学習意欲を高める。</li> <li>○学内外の様々な進路選択に関するサポート資源を理解する。</li> </ul>
内 容	○本学の進路指導体制や卒業生の進路先など基本的な事項の説明を行う。

<二年次>

キャリアガイダンスⅡ (卒業生シンポジウム) 7月21日(金)14:40~16:10

ねらい	○複数の卒業生による就職活動や職業生活に関するシンポジウムに参加し、進路意識を育むとともに看護職のキャリア形成について考えを深める。
内 容	○卒業生による体験等を踏まえたキャリア形成のためのシンポジウムを行う。 シンポジスト 福本 なつみ (伊那中央病院 看護師)、金子 あゆみ (飯田市役所 保健師)、北澤 瑠奈 (飯田市立病院 助産師)

<三年次>

キャリアガイダンスⅢ ①12月18日(月)10:40~12:10

② 1月15日(月)13:00~14:30

③ 1月22日(月)13:00~14:30

ねらい	○卒業学年を控えて、希望や個性、特性に応じた進路先を考え、その実現を図るための情報を得るなど就職活動に必要な知識や態度を養う。
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>①就職活動のための情報収集や施設見学・職場体験等のポイント、行政保健師(公務員一般試験)および養護教諭(教員採用試験)等について、就職先の選び方などについての指導を行う。 担当者:岡田 実(本学教授)、御子柴 裕子(本学講師)、米窪 伸一郎(就職支援員)</li> <li>②就職先として可能性のある職場の管理者等を招いて、医療現場の状況や県看護大学生への期待などについて話をさせていただく。 講師:真木 喜子(昭和伊南総合病院 看護師長)、白鳥 啓子(信州母子保健推進センター保健師)</li> <li>③就職情報会社の社員を招いて、履歴書(エントリーシート)の記入や筆記試験、面接試験等就職活動の実際を知るとともに身だしなみ、挨拶、言葉遣い等社会人としてのマナーについての具体的な説明をさせていただく。 講師:村山 亨平(㈱マイナビ キャリアサポート課長)</li> </ul>

<四年次><編入二年次>

キャリアガイダンスⅣ 4月7日(金)9:00~9:20



### 3 課題及び方策

- (1) 就職希望者が少ない県内の地域中核病院や小規模自治体(行政保健師)について、関係機関等との連携を図り、学生の関心を高め就職に結びつくような方策を検討していく。
- (2) 養護教諭を志望する学生に対する支援について、具体的な方策を構築するよう努めていく。
- (3) 生涯にわたるキャリア形成に資するため、各学年におけるキャリアガイダンスの充実に努めていく。
- (4) 学生の確かな進路選択のために、病院説明会やインターシップへの参加を促し、個人面談等をとおして、適切な指導助言に努めていく。

## 2. 国家試験の対応状況

### 1 国家試験への支援の概要

#### 1) 模擬試験の実施

看護師 3 回、保健師 2 回、助産師 2 回実施  
本学教員に対して模試結果等の関係資料を情報提供

#### 2) 国家試験受験手続説明会の開催

11 月 願書の作成について指導、願書の取りまとめ、願書提出(郵送)  
2 月 受験票の交付及び受験に関する留意事項等の説明

#### 3) 国家試験受験関係業務

受験に必要な書類(願書、修業見込書等)の整備・点検および提出

#### 4) 免許申請手続説明会の開催

2 月 免許申請書類の配布及び留意事項等の説明

#### 5) 合格発表後の進路指導

合否状況の確認 不合格者に対する支援

#### 6) 既卒不合格者の受験手続や模試等の支援

#### 7) 国家試験対策補講の実施(1月に実施)

#### 8) 国家試験受験対策ガイダンス(4月と10月に実施)

#### 9) 受験参考書籍等の整備

### 2 国家試験に関する実績

平成 29 年 2 月に実施した国家試験では、看護師、助産師については全員が合格することができた。保健師については、8 名の不合格者があったが、卒業生全員が希望職種に就職することができた。

<平成 29 年度国家試験の合否状況>

	総 数				新 卒				既 卒			
	出願者数	受験者数	合格者数	合格率	出願者数	受験者数	合格者数	合格率	出願者数	受験者数	合格者数	合格率
第104回保健師	77	77	68	88.3%	76	76	68	89.5%	1	1	0	0%
第101回助産師	4	4	4	100%	4	4	4	100%	-	-	-	-
第107回看護師	76	76	76	100%	76	76	76	100%	-	-	-	-

### 3 課題及び方策

受験者全員の合格を目指して、国家試験受験ガイダンスの充実や公開模擬試験および特別補講など今までの取り組みを更に発展・充実するよう努めていく。助産師資格受験

者に対して、十分な受験準備が出来るよう支援していく。既卒の受験者に対しては、受験手続きの相談に応じるとともに公開模試の受験促進などの支援を継続していく。

### 第3節 保健厚生

#### 1 概要

保健室では、学生が心身共に健康で充実した学生生活を送れるよう健康診断や健康相談、傷病等緊急時の応急処置などを行っている。設備は、ベッド、応急セット、衛生用品、薬品棚、書類保管庫、寝具入れ、車椅子1台、血圧計、身長体重計、視力計などがある。保健室には、常勤保健師1名が配置されている。必要に応じて学校医へ相談し、学生支援員（看護師）、学年顧問らと協力・連携して対応している。

○保健室の役割・業務内容

- ①傷病者の応急処置に関すること
- ②健康診断、健康管理に関すること
- ③保健指導及び健康相談に関すること
- ④教育研究活動中の災害を補償する保険に関すること
- ⑤感染症予防や予防接種に関すること
- ⑥学校行事等の救護
- ⑦その他保健に関すること

#### 2 実績

##### (1) 保健室利用状況

平成25年度から29年度の保健室利用状況を表1に示す。相談内容は、体調不良、怪我、月経に関すること、友人関係、進路、精神的問題に関することなど多岐に渡っている。体調不良や怪我等の状況により、受診同行や保護者への連絡などの支援も行った。

また、平成29年度にはインフルエンザ（疑いを含む）等感染症のため11名の学生が出席停止となった。発症した学生等に対する保健指導、大学全体に向けての注意喚起・予防啓発を行い、その結果、重症化した学生や感染拡大・集団感染はなかった。

表1 保健室利用状況

区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
健康相談（身体）	168	273	261	295	338
健康相談（精神）	68	61	61	40	90
相談（その他）	69	76	88	98	82
合計	305	410	410	432	510

##### (2) 定期健康診断の項目と受診状況

定期健康診断の項目は、①身体測定（身長と体重）、②血圧測定、③胸部X線検査（間接撮影）、④血液検査（貧血）、⑤尿検査、⑥内科診察の8項目である。平成25年度から29年度の定期健康診断の受診状況（学部生）を表2に示す。未受診の未受診項目は、尿検査だった。

定期健康診断の結果、各項目に異常が見られた者や自覚症状のある者には、受診指導や保健指導を行っている。精神的不調の兆候が見られる者には、個別面接を実施し、必要に応じて定期的な面接、受診勧奨などを行っている。

入学年度の定期健康診断ではB型肝炎抗原・抗体検査を実施している。抗原・抗体いずれも陰性であった者に対しては、予防接種を実施している。また、小児ウィルス感染

症（麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎）抗体検査に関しては、入学年度の定期健康診断で実施してきたが、29年度からは、大学入学までに各自で抗体検査を済ませてくることを決定し、該当者には周知した。そして、この検査で抗体陰性及び陽性低値の者には、予防接種を指導（勧奨）している。

表2 定期健康診断受診状況（学部生）

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
健診対象者	339	342	341	337	337
受診者数（全項目を受診した者）	336	338	338	325	326
受診率（%）	99.1	98.8	99.1	96.4	96.7

### 3 今後の課題

学生相談の窓口としては、保健室、学生支援員、学生顧問など複数整備され、学生は相談者を選択することができる。相談対応者は、学生支援会議や個別のカンファレンス等による情報共有や支援の連携が必要であり、その際には本人の同意やプライバシー保護に十分留意することが重要である。

また、受診支援や救急搬送の際には家族への連絡が必要となるが、家族からの支援を受けることが難しい学生もあり、支援体制の検討が必要である。

心身の健康問題が学業に及ぼす影響は大きく、特に科目試験や課題提出が重なる時期や実習期間などには食事の乱れや睡眠不足から体調を崩す傾向がみられる。激しい月経痛などから失神する事例もあるため、学生が日頃からセルフケアできるよう指導していく必要がある。

## 第4節 修学資金等

### 1 修学資金

#### (1) 資金の種類

事務局で取り扱っている奨学金は「日本学生支援機構奨学金」、「長野県看護職員修学資金」、「上伊那広域連合看護師等修学資金」の3種である。本学独自の奨学金はない。

#### 1) 日本学生支援機構奨学金

大学全体の貸与率は34.1%、学部生では37.1%で3分の1を超える学生が利用している。推薦者はすべて採用されている。大学院生の貸与者はいない。

#### 2) 長野県看護職員修学資金

大学全体の貸与率は3.0%と低い。これは、本資金の貸与対象者を「免許取得後（若しくは大学院修士課程修了後）、直ちに県内の返還免除対象施設で就業する意思があること」としているためと考えられる。

<学部生>

・病床数200床未満の病院 ・精神病床を80%以上有する病院 ・過疎地域にある病院（県立木曽病院、飯山赤十字病院） ・診療所 ・介護老人施設 ・指定発達支援医療機関 ・重症心身障害児施設 ・母子健康センター（助産師に限る） ・地域保健法に規定する特定町村（保健師に限る） ・訪問看護ステーション（上記免除施設で3年以上の実務経験が必要）

<大学院生>

・医療法第1条の2第2項に規定する医療施設 ・母子健康センター ・地域保健法に規定する特定町村 ・訪問看護ステーション（医療施設で3年以上の実務経験が必要）

3) 上伊那広域連合看護師等修学資金

上伊那広域連合が、地域医療再生基金を原資として平成23年度に創設した制度で、貸与対象者は、将来上伊那地域において看護職員の業務に従事しようとする者である。

地域を上伊那地域に限定していること、将来返還義務が生じない他の貸与制度との併用ができないことから、貸与率は低い。

なお、平成29年度から、養成施設等の最終学年在学学生への一回貸与支援へと制度改正がなされたが、実績はない。

(2) 実績

各修学資金の貸与実績については、次のとおり。

日本学生支援機構奨学金貸与状況（平成29年度実績）

種別	学部生					大学院生		合計
	4学年	3学年	2学年	1学年	計	修士課程	博士課程	
第一種	22	16	17	20	75	0	0	75
第二種	10	12	9	10	41	0	0	41
併用	1	1	5	3	10	0	0	10
計(A)	33	29	31	33	126	0	0	126
学生数(B)	91	79	85	85	340	16	13	369
貸与率(A/B)	36.3%	36.7%	36.5%	38.8%	37.1%	0.0%	0.0%	34.1%

長野県看護職員修学資金貸与状況（平成29年度実績）

種別	学部生					大学院生		合計
	4学年	3学年	2学年	1学年	計	修士課程	博士課程	
貸与者数(A)	4	2	3	2	11	0	0	11
学生数(B)	91	79	85	85	340	16	13	369
貸与率(A/B)	4.4%	2.5%	3.5%	2.4%	3.2%	0.0%	0.0%	3.0%

上伊那広域連合看護師等修学資金貸与状況（平成29年度実績）

平成28年度までの制度

新制度

種別	学部生					大学院生		合計	学部生 4学年
	4学年	3学年	2学年	1学年	計	修士課程	博士課程		
貸与者数(A)	4	2	1		7	0	0	7	0
学生数(B)	91	79	85	85	340	16	13	369	91
貸与率(A/B)	4.4%	2.5%	1.2%		2.1%	0.0%	0.0%	1.9%	0.0%

2 授業料の減免

(1) 概要

長野県看護大学条例では、経済的理由により授業料を納付することが困難な者、休学等の事情がある者に対して、授業料を減免することができることとしている。

また、希望する者について、年4回（4月、7月、9月、1月）に分納して授業料を納付することができることとしている。

(2) 経済的理由による減免の実績

	27年度	28年度	29年度
対象者数	18人	19人	17人
減免額	9,644,400円	10,180,200円	9,108,600円

## 第5節 サークル活動及び大学祭

### 1 サークル活動

正課の授業以外に行う課外活動を行うサークルは、平成29年度は25団体であった。

サークル活動は学生の自主性を尊重しつつ、サークル顧問として教職員が関わりサークル活動の相談・支援を行っている。

平成29年度団体・サークル等一覧表

団体・サークルの名称	代表責任者	副代表責任者	顧問 氏名	構成 人数
	氏名	氏名		
軽音楽サークル	福澤 拓真	大里 支乃	御子柴 裕子	61
茶道サークル	曾我 美梨香	加藤 優希	有賀 美恵子	13
ほがらかふれあい農園サークル	神林 千夏	岡田 麻美	太田 克矢	65
わらわらサークル	金山 寛奈	坂井 桃子	島袋 梢	41
美術・文芸サークル	依田 みちる	渡辺 知映里	御子柴 裕子	9
アカペラサークル	中澤 理紗	中川 航	千葉 真弓	12
よさこいサークル鼓魂	鈴木 晶久	藤本 恭子	伊藤 佑季	30
弓道サークル	熊谷 里奈	田口 綾菜	阿部 正子	4
硬式テニスサークル	棚原 陽香	今村 月香	太田 克矢	31
バスケットボールサークル	白鳥 魁人	長谷部 さやか	牛山 陽介	64
バドミントンサークル	中島 菜美	佐伯 瞳	森野 貴輝	78
バレーボールサークル	内村 彩華	宇佐美 朱理	酒井 久美子	52
スノーボードサークル	堀内 裕貴	林 真言	牛山 陽介	82
室内楽サークル	丸山 優花	石田 友香	千葉 真弓	28
卓球サークル	末福 誉博	佐々木 祥吾	喬 炎	32
剣道サークル	坂井 桃子	伊藤 沙記	三浦 大志	9
フットサルサークル	金子 夢翔	大島 武留	三浦 大志	51
写真サークル	熊谷 佳奈	山本 穂	森野 貴輝	15
子どもとあそぼう！ちちんぷい	神谷 善之	林 真言	栗岡 真理子	40
ヘルシー&ダイエット ジョギング&ウォーキング倶楽部	神谷 善之	林 真言	栗岡 真理子	49
現代視覚文化研究会	渡瀬 千乃	堀 清花	三浦 大志	5
二輪車サークル	竹村 公亮	臼田 馨	太田 克矢	7
Skip	小林 美智	落合 香葉	屋良 朝彦	33
ASTERISM	三浦 萌	栗原 京香	三浦 大志	5
ボルダリングサークル	山岸 定智	竹村 公亮	有賀 智也	53

## 2 大学祭

長野県看護大学大学祭（名称「鈴風祭」：すずかぜさい）は、毎年9月上旬～中旬に2日間の日程で開催している。運営は1・2年生が中心となり、約80名による鈴風祭実行委員会を組織し、4月から約半年間をかけて準備を進めている。

平成29年度は9月9日（土）、10日（日）に開催した。看護大学ならではの特色ある企画として、ヘルスチェックやハンドマッサージコーナーを開設するとともに、地域の方々や子どもたちにも喜んでもらえるような催し物を開催し、近隣住民の方をはじめ、老若男女問わず大勢の方々で賑わった。

また、会場の一隅には「大学説明コーナー」を設け、広報交流委員会のメンバーが、本学への進学を検討している高校生に対し、進学相談を行った。

### ○事前の周知活動

- ・PRのための学校訪問 : 小学校6校、中学校3校
- ・パンフレット広告スポンサー : 約100社

### ○当日の主な催し物

- ・ヘルスチェック、ハンドマッサージ等の健康サービス
- ・市町村保健師採用・合同説明会
- ・国際看護実習成果説明会
- ・大学説明コーナー
- ・サークル発表（よさこい、ハモネプ、室内楽、軽音楽、茶道、書道、美術・文芸）
- ・ビンゴ大会等の開催
- ・ものづくりコーナー
- ・ゲストによるパフォーマンスショー
- ・各種模擬店

## 第6節 関係団体の活動

### 1. 大学生協

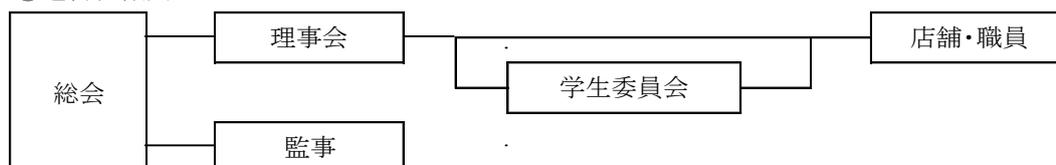
#### 1 概要

##### (1) 組織

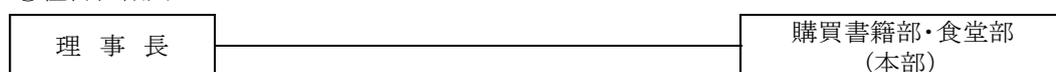
総会で選任された理事を構成員とする理事会の基に、生活協同組合活動を応援する学生からなる学生委員会と教職員及び店舗職員が共同して、各種の学生生活を応援する活動を行っている。また、生協活動および決算等について監査を行う監事についても、総会で選任され、財務等の監査を行っている。

経営は、理事長の指示の元に、主として購買書籍部及び食堂部の職員が信州大学生生活協同組合と連携を図りながら、日々の業務を行っている。

##### ①運営組織図



##### ②経営組織図



## (2) 業務

看護大学生協同組合は、平成10年1月21日に前身の看護大学福利組合から業務を引き継いで運営が開始され、今日に至っている。

その目的は、看護大教職員、学生等の組合員の生活の文化的、経済的な改善向上を目指し、活動に取り組んでいる。

## 2 活動実績

### (1) 主な日常の業務

大学生協パート職員により、以下の業務を行った。

食堂部：昼食及び臨時の夜の飲食を提供した。

購買書籍部：書籍、文具、生活用品及び保管食品を販売した。

### (2) 総会・理事会等開催

大学生協の理事及び理事等役員(理事：13名、監事：4名)による理事会等を以下により開催した。

項目	開催日	主な議題
第一回理事会 (総会)	29年5月26日	理事長、専務理事の互選について 代表理事の選出
第二回理事会	29年7月10日	3～5月経営状況及び活動報告 夏期営業日程について
第三回理事会	29年9月13日	3～8月経営状況及び活動報告 個人情報保護方針・個人情報保護規則の改正 長野県最低賃金の改定
第四回理事会	29年11月22日	3～10月経営状況及び活動報告 メール審議 個人情報保護方針・保護規則の件
第五回理事会	30年2月9日	3～1月経営状況 2018年度予算確認、生協総会の承認 (日程・選挙管理委員指名・開催公示と期間・役員立候補受付及び締切日の提案ほか)
第六回理事会	30年4月19日	2017年度決算及び活動報告 第20回総会議案及び運営について

※ 看護大学生協の会計年度は3月から翌年2月まで、役員の場合は5月の総会後から、翌年の総会までとなっている。

### (3) 学生委員会による取組

看護大学の学生により、生協の活動をPRするとともに、学生の生活を支援するため、学生委員会を組織し以下の活動を行った。

学生委員会の活動報告

月	主な活動内容
5月	生協総会(看護大学 in 大講義室) (5/26)
6月	七夕企画計画、「Nsの☆」制作
7月	食堂装飾(笹)、「Nsの☆」制作、七夕企画実行(6/29～7/9)
8月	「Nsの☆」完成、夏祭り、鈴風祭模擬店計画・準備
9月	鈴風祭模擬店出店(9/5, 6)
12月	食堂装飾
2018/3月	お友達企画計画、卒業式生協食堂手伝い(3/9実施)、引っ越しお助け隊
4月	入学式生協食堂手伝い(4/3)、お友達企画実行(in 生協食堂)(4/3)、 新入生歓迎パーティー企画・実行

#### (4) その他の成果

近年の粗利の減少傾向および総供給高の減少から運営が危ぶまれていたが、信州大学生協に委託していた業務の一部などを本生協で処理することにより委託費の削減と業務の効率化を図るなど、相当の業務改善を行うことで、引き続き黒字を達成することができた。

### 3 課題及び方策

#### (1) 喫緊の課題

組合員から概ね支持された食堂運営や購買部の活動がなされ、利用者の増加につながっているが、この活動を維持していく手段が一部のパート職員のみ依存しており、多忙を極めている。したがって、パート職員の増員と職員同士がお互いの分担をカバーしあえる体制づくりが最も急がれる課題である。

#### (2) 長期的な課題

- ・ 正規職員の不在による不安定な運営が持続している。

2007年に正規職員(店長)の退職後、パート職員のみで現場が運営されている。中でも、歪を理解しないまま「黒字経営状態で健全運営ができている」との認識が広がっているのは、最も大きな問題の1つである。実態は、店長を雇用する余力がない状態であることが、周囲の会員や大学に理解されていない。今後、理事を様々な教職員に経験させるなど、経営の根幹的な問題に直面する機会を増やすとともに、教職員、大学生にこの状態を周知し取り組んでいく必要がある。

- ・ 学生委員会の活動を旺盛に進め、生協の活動を知らせるよう取り組む必要がある。
- ・ 自治会と協力しての企画も求め、その活動を周知する必要がある。

## 2. 後援会

### 1 概要

長野県看護大学の運営に協力援助を行い、もって教育研究の発展に寄与するとともに、学生が豊かで充実した学生生活を送れるよう福利厚生事業等を行うことを目的として、平成7年4月8日に発足したものである。

組織は、総会並びに会員から選出された理事及び監事からなる役員会があり、業務・立案は、理事から選ばれる会長及び副会長と理事により行われている。事務局は、会則に基づき、看護大学事務局総務課に置き、看護大学事務局次長が事務局長として庶務会計の事務を行っている。

主な業務

- ・ 学生の課外活動に対する援助。
- ・ 学生の生活指導・厚生等に対する援助。
- ・ 大学の運営・教育設備の設備充実等に対する協力 等

### 2 活動実績

#### (1) 主な業務

① 新入生オリエンテーション、学生自治会への補助

自治会活動(鈴風祭、サークル)へ補助

② 進路指導や福利厚生のために必要な事業等への補助

B型肝炎ワクチン予防接種(1年生:3回)、B型肝炎抗体検査(全学年)、国家試験

- 対策ガイドンス経費・進路指導書等購入への補助
- ③卒業式及び卒業生を送る会等、地域との交流等に対しての補助・協力を送る会経費の補助、町内会費、区費、看住協議会への交付金
- ④後援会だよりの発行  
第20号(450部)の発行

(2) 総会・役員会等開催

項目	開催日	主な議題
第1回役員会	29年4月4日	総会議題等について
総会	29年4月5日	・平成28年度事業報告・収支報告書について ・平成29年度事業計画・収支予算、役員選任について
第2回役員会	29年9月9日	・平成29年度中間報告、実習補助費、卒業式、就職求人状況等について ・平成30年度役員体制案について
第3回役員会	30年3月9日	・平成29年度事業・決算見込みについて ・平成30年度新役員体制の確認等について

3 課題及び方策

平成28年度まで、後援会事業として実習交通費等に対する補助を実施していたが、実習施設の増加及び遠隔地化に伴って年々経費が増加し、他の事業の実施に支障をきたす恐れが生じてきたことから、平成29年度に大学管理の「実習交通費会計」を新たに設置し、後援会から切り離れた。

これに伴って、見直し後の予算規模に見合った会費を設定し直したことから、今後は、新たな枠組みのもとで安定的な組織運営が行われるよう留意するとともに、大学の運営或いは学生への援助(学生自治会補助・サークル補助等)のあり方について、有効性の観点から、随時見直しを行っていく必要がある。

3. 同窓会

1 概要

同窓会「鈴風会」は平成15年、長野県看護大学創立10周年を機に設立された。会の名称は、母校の学園祭「鈴風祭」と同様に、駒ヶ根市を象徴する「すずらん」と「風」をイメージして付けられている。

鈴風会は、会員相互の親睦を図り、併せて母校と看護学の発展に寄与することを目的として活動しており、その目標は、母校と会員(卒業生・修了生)とをつなぐ架け橋となることである。主な事業は、以下のとおりである。

- (1) 会員名簿の作成及び会報の発行
- (2) 総会、講演会、研修会等の開催
- (3) 母校の後援及び相互の連携に関する事項

会員は、会員(卒業生・修了生等)、準会員(在学中の学生)に分けられる。最高議決機関として総会があり、ここで鈴風会の活動に関する決定がなされる。実務機関として執行部会があり、会長・副会長・会計・庶務の各役員で運営されている。

2 活動実績

- (1) 平成29年度基本方針
  - ・会員同士のネットワーク強化

- ・同窓会活動の充実

【活動内容】

<会員同士のネットワーク強化に関すること>

- ホームページの活用及び会員の参加しやすい活動方法の検討

ホームページには同窓会の活動報告を掲載し、配布物に URL を明記してホームページの周知を図っている。また、行事の案内について郵送に加えてホームページに掲載すること、会員宛の郵送物に QR コードを掲載し登録情報変更手続き方法へのアクセスの簡便化を図ることにより、連絡先不明者対策を行っている。

<同窓会活動の充実に関すること>

- 今後の活動方法の検討

入学手続き時の入会案内方法を執行部会にて検討し、通知内容や会則の明示について見直しを図った。また、入学時未加入者への在学中の入会案内方法についても検討し、試行的に学年末時期に当該学年の在学生への個人通知を配付した。活動の様子を知ってもらうことで入会者の増加を図るため、試行的に新入生・在学生に向けた活動報告を発行した。

- 会員サービスの検討及び実施

大学祭に鈴風会ブースを設置した。ブースには、卒業生から在学生に向けてのメッセージを収集し、働く様子等の写真と共に展示することで、在学生や保護者、地域の方々に卒業生の活躍の様子を伝える機会とした。併せて大学祭パンフレットへの広告掲出により、学生の活動支援を図った。

- 母校との連携

同窓会パーティーを開催しない年度にあたるため、大学への貢献事業を実施した。大学付属図書館の司書に相談して在学生の利用頻度の高い書籍を選定し、24冊を寄贈した。また、大学の広報・交流委員会からの依頼に応じ、長野県看護大学学報に新会長就任の挨拶を寄稿した。

(2) 平成 29 年度活動日程

活動	開催日	主 な 議 題 等
第 1 回 執行部会	29 年 5 月 12 日	・平成 29 年度入学生の同窓会入会状況について ・平成 29 年度の活動について ・同窓会名簿のデータ管理方法について
第 2 回 執行部会	29 年 9 月 8 日	・大学への貢献事業について ・新入生・在学生への入会案内・勧誘方法について
大学祭 同窓会ブース 設営	29 年 9 月 9 日 ～9 月 10 日	卒業生からのメッセージおよび写真の展示
図書寄贈	29 年 1 月 18 日	大学への貢献事業として大学付属図書館へ図書を寄贈
第 3 回 執行部会	30 年 1 月 18 日	・定例総会の開催について ・新入生・在学生への入会案内・勧誘方法について
第 4 回 執行部会	30 年 1 月 24 日	・在学生への同窓会入会案内・勧誘通知の配付準備
第 5 回 執行部会	30 年 2 月 23 日	・定例総会の開催について ・次年度の役員について
第 16 回 定例総会	30 年 3 月 9 日	定例総会開催
第 6 回 執行部会	30 年 3 月 9 日	・新旧役員引継ぎ ・平成 30 年度の活動について

### 3 課題及び方策

鈴風会設立以来、新入会員の会費徴収は大学にご協力いただいていたが、平成 28 年度より徴収方法が変更となったことから、入会者及び会費収入が大幅に減少している。そのため、活動の拡大は困難であるが、入会促進を図るとともに、会員・準会員にとって有意義な活動となるよう検討を進める必要がある。平成 30 年度の活動方針は以下のとおりである。

#### (1) 会員同士のネットワーク強化

- ・ホームページによる情報発信を継続し、同窓会活動に参加する会員の増加を図る。

#### (2) 同窓会活動の充実

- ・同窓会の活動継続に向け入会者の増加を図るため、新入生や在学生への入会案内方法や会費徴収方法についてさらに検討を進める。
- ・大学祭に合わせた企画など、会員が参加できるとともに、在学生への同窓会の PR となる活動を検討し、実施する。
- ・多くの会員の参加が得られるよう、同窓会パーティーを企画・開催する。
- ・母校の発展に寄与できるよう、本会に対する要請に柔軟に対応していく。

## 第7章 施設の管理運営等

### 第1節 施設の状況

#### (1) 施設の全体概要

##### 1. 校地

本学の校地面積は、75,733 m<sup>2</sup>と学生数の割に広大であり、東に南アルプス、西に中央アルプスを望む恵まれた自然環境の中で、古代ギリシャ都市の「アゴラ」に倣って設けた中央広場を中心に、その周りに図書館・教育研究棟・講堂・学生食堂・管理棟を配置している。また、道路を挟んで屋内プール棟・有酸素運動研究コース・語らいの並木が併設されている。

校舎敷地	運動場用地	寄宿舍用地	プール他用地	計
36,951.00 m <sup>2</sup>	15,948.00 m <sup>2</sup>	5,760.00 m <sup>2</sup>	17,074.00 m <sup>2</sup>	75,733.00 m <sup>2</sup>

##### 2. 施設・設備

###### 1) 管理棟 (2,242.13 m<sup>2</sup>)

学長室、事務室、会議室、保健室、食堂、売店が配置されている。食堂については、カフェテリア方式で185席の利用が可能となっており、また、売店が併設され、パン・おにぎりなどの食品や文具等を販売している。両部門とも、長野県看護大学生活協同組合が組織され、経営を行っている。

###### 2) 教育研究棟 (9,079.39 m<sup>2</sup>)

講義室、演習室、実験室、自習室、情報処理教室(パソコン53台)、LL教室(機器50台)、研究室(講師以上は個室、助教・助手は複数人で1室)、大学院生研究室等を配置している。

講義室が大・中・小合わせて8室、実習室が「基礎」「成人」「母性・小児」「地域・老年」など看護領域ごとに6室、その他実験室、自習室などを完備している。その他大学院生用として、大学院生研究室が4室ある。なお、中講義室のうちの1室には、県内9大学を結ぶ遠隔講義システムを導入しており、他大学が配信する授業を自大学で受講することが可能になっている。

###### 3) 講堂 (962.43 m<sup>2</sup>)

511席を配置し、AV設備、音響設備等を備えたもので、ピアノも設置している。

利用は、入学式や卒業式その他、公開講座とともに、学生の音楽系サークル活動(練習、ライブ、コンサート等)にも利用されている。

###### 4) 図書館 (1,200.62 m<sup>2</sup>)

閲覧室80席、教員学習室、グループ学習室、AVルームを設置している。

開館時間は平日、9時～19時。実習期間中は、平日は21時まで、土曜日は10時～16時まで利用可能としている。

###### 5) 体育館 (893.68 m<sup>2</sup>)

木材を多用した造りで、バスケットボール1面、バレーボール2面がとれる。

学生は、鍵の貸与により常時利用可能としている。

###### 6) 学生棟 (802.21 m<sup>2</sup>)

学生ホール、自治会室、クラブ室等を配置し、自治会活動や学生のサークル活動に利用している。

7) 屋内プール棟 (1, 131.64 m<sup>2</sup>)

通年で利用可能な6コース(25m)の温水プールを設置し、そのうち1コースがスロープコースとなっている。また、筋力トレーニング機器を備えた健康増進研究室(ジム)と講義・測定室が併設されている。

学生は常時これらの設備を使用できるほか、温水プールについては、本学主催の高齢者水中運動教室等教育研究活動の一環としても活用されている。

また、長野県障害者福祉センターの南信地域における拠点である障害者水泳支援センターとして障害者に開放しているほか、地元駒ヶ根市の健康教室、消防署の救助訓練等にも利用されている。

8) グラウンド・テニスコート (15, 948.00 m<sup>2</sup>)

250mトラックが設置可能なグラウンドと、夜間照明を備えた全天候型テニスコートが4面併設されている。

学生は常時利用できるほか、休日にはグラウンド・テニスコートを地域のスポーツ少年団等を中心に開放している。

9) 有酸素運動研究コース (12, 505.00 m<sup>2</sup> [隣接の「語らいの並木」を含む])

コース延長 600mの歩経路のほか、地域住民と学生が協働して植付け・管理を行う「ふれあい花壇」、「ほがらか農園」を設置している。

また、大学正面へ続く学園通りを囲んでケヤキ並木の語らいの並木を整備している。

10) 寄宿舍 (2, 504.44 m<sup>2</sup>)

2棟80室(1DK)に学部1年生が入居しており、2年以降は地元のアパートを借りている。

11) 非常講師勤宿舍 (328.00 m<sup>2</sup>)

全国各地から非常勤講師を招聘できるよう、1棟8室の宿泊施設を整備している。

また、研究のために帰宅が遅くなる大学院生の宿舍としても活用している。

教育研究棟	管理棟	学生棟	図書館	
9, 079.39 m <sup>2</sup>	2, 242.13 m <sup>2</sup>	802, 21 m <sup>2</sup>	1, 200.62 m <sup>2</sup>	
体育館	講堂	寄宿舍	非常勤宿舍	合計
893.68 m <sup>2</sup>	962.43 m <sup>2</sup>	2, 504.44 m <sup>2</sup>	328.00 m <sup>2</sup>	18, 012.90 m <sup>2</sup>

○教育研究棟

教 員 研 究 室	個人研究室	45室
	共同研究室	5室
講 義 室	大講義室	1室
	中講義室	4室
	小講義室	3室
	認定看護師教育課程講義室	2室
演 習 室	演習室	4室
実 験 ・ 実 習 室 等	生化学・生理学実験室	1室
	微生物・病理実験室	1室
	基礎看護実習室	1室
	母性・小児看護実習室	1室
	成人看護実習室	1室
	地域・老人看護実習室	1室
	在宅看護実習室	1室
	助産実習室	1室
情 報 処 理 学 教 室	情報処理教室	1室
語 学 学 習 室	LL教室	1室

### 3. 設備機器

#### ○情報処理機器等

学内 LAN は、管理棟、教育研究棟、図書館、非常勤講師宿舎、寄宿舍の全域に配置し、利便性を保つと同時に、教職員使用領域と学生の使用する領域を分離、高度な機密情報の保持を徹底している。

教育研究棟内の情報処理教室にパソコン 53 台を設置し、授業以外の時間は学生に開放し、随時使用できる体制となっている。

LL 教室には、LL 学習システムがインストールされた教員用パソコン及び学生用パソコン 50 台（いずれもヘッドセット付き）を設置し、語学学習等に活用している。

### 4. 課題及び方策

開学から 20 年が経過し、空調設備、温水プールの諸設備など修繕を必要とする箇所が増えてきており、今後更に修繕箇所が増えることが予想される。

設備の修繕や更新には多大な費用がかかるため、緊急性等を勘案しながら優先順位を付けて、改修計画を策定するとともに、予算の確保に努め、修繕、更新を行っていく必要がある。

また、今後も学内の植栽等を常時整備して、教育研究を行うにふさわしい緑豊かな環境を維持しつつ、一層地域住民から愛され、誇りとされるような大学となるよう努めていく。

## (2) 図書館

### 1. 概要

#### 図書館の利用状況

付属図書館は、在学生（学部生・院生）、教員の学習・研究に資するため、図書、雑誌、電子資料などの学術情報の収集、提供を行っている。

#### 1) 図書館施設・設備

閲覧スペースである開架と、閉架書庫に図書・雑誌がそれぞれ配架されているが、利用者はどちらも自由に利用できる。

閲覧席は、個人閲覧席の利用が多い。国試前などの時期によっては席数が不足することもある。通常期は、4 人掛けの閲覧席も含め席数はほぼ充足している。

平成 22 年度に、退館バーの外にソファを設置し、飲食可能スペースとした。

グループ学習室は、グループワークなどに活発に利用されていたが、平成 21 年度に DVD 機器を設置したことで、視聴覚教材のグループ視聴にも利用されるようになった。

データベース検索用の端末は 3 台だが、利用が集中する時期は順番待ちで利用することも多い。データベースのバージョンアップに機器のバージョンが対応できない状況も発生している。

蔵書の収容可能冊数は 10 万冊、現在の蔵書は 75,189 冊である。

表 館内面積および設備

総面積 1,200 m <sup>2</sup>							
閲覧スペース	688 m <sup>2</sup>	書庫	131 m <sup>2</sup>	事務室	57 m <sup>2</sup>	その他	325 m <sup>2</sup>
閲覧席 80 席(内個人閲覧席 12 席)/教員学習室 3 室/グループ学習室/AVルーム(個人ブース 10 席)/館内検索用端末 2 台/データベース検索端末 3 台/コイン式複写機 1 台							

### 2) 図書館資料

#### ① 図書

図書は看護学の新刊を中心にシラバスの内容に即したもの、教員・在学生（学部生・院生）からの購入希望、その他関連領域の必要と思われるものを図書館司書が選定し購入している。実習に必要な図書は、利用状況をみながら複本も整備している。

また、国家試験や、就職試験に対応するコーナーを設けるなど学生の資料要求に応えられるよう取り組んでいる。

表 図書館蔵書数の推移

年度	和図書	洋図書	合計
2013 年度末	62,605	7,296	69,901
2014 年度末	64,725	7,051	71,776
2015 年度末	65,717	7,402	73,119
2016 年度末	66,627	7,418	74,045
2017 年度末	67,750	7,439	75,189

表 蔵書における分野別の割合

年度	看護学		医学		その他一般書		合計 冊数
	冊数	割合	冊数	割合	冊数	割合	
2017 年度末	21,984	29.2%	21,786	29.0%	31,419	41.8%	75,189

### ②雑誌・新聞

最新の研究成果や分野における動向を知るために雑誌は欠かせない資料であるが、円安や雑誌高騰から洋雑誌については無料ダウンロードや記事複写依頼で対応することで大幅に減らした。

表 受入雑誌タイトル数の推移

年度	和雑誌 (種類)		洋雑誌 (種類)		合計
	購入	寄贈	購入	寄贈	
2013 年度	103	304	32	11	450
2014 年度	96	278	29	8	411
2015 年度	84	271	18	0	373
2016 年度	81	302	8	3	394
2017 年度	80	183	8	0	271

2016 年度契約電子ジャーナル 和雑誌：メディカルオンライン 洋雑誌：CINAHL With Full text  
現在購読している新聞は、全国紙 4 紙地方紙 3 紙である。過去 3 年分を保存している。

### ③視聴覚資料

表 視聴覚資料数の推移

年度	DVD	VHS	CD	その他	合計
2013 年度	363	1,842	107	81	2,393
2014 年度	395	1,844	108	82	2,429
2015 年度	432	1,844	125	85	2,486
2016 年度	460	1,839	125	84	2,508
2017 年度	488	1,839	125	66	2,518

### ④文献検索データベース

文献検索のデータベースは「医中誌 Web」「看護索引 Web」「NACSIS-Cinii」エブスコ社「MEDLINE」「CINAHL with Full Text」が利用できる。

検索結果から該当雑誌の当館の所蔵がすぐ確認できる OPAC リンクを貼り利便性を高めている。これらは学内 LAN 接続のパソコンであればどこからでも利用できる。

## 3) 利用状況

### ①開館時間・日数

平日の開館時間は、9 時から 19 時まで、長期休業中は 17 時までであり、土日祝日は休館である。但し、実習期間である 5 月から 12 月については、平日は 9 時から 21 時、土曜日は 10 時から 16 時まで開館している。

利用対象者は、在学生（学生・院生）、教職員、学外者、2011年度から開講された認定看護師養成課程の受講生である。

2017年度は、入館者数の減少に歯止めがかかったものの、4万人には遠く及ばなかった。

表 開館日数及び入館者数

年度	平日開館日数	土曜開館日数	開館日数合計	入館者数	1日平均
2013年度	242	24	266	40,882	153.7
2014年度	232	25	257	40,295	156.8
2015年度	234	23	257	35,910	139.7
2016年度	234	23	259	36,425	139.5
2017年度	235	23	258	37,532	145.5

表 貸出条件

	学 生	院 生	認定看護師	教 員	学外者
貸出期間	2週間				
貸出冊数	5	15	15	15	5

表 貸出冊数の推移

貸出冊数	学生/院生	教職員	合計
2013年度	9,124	1,987	11,111
2014年度	9,601	1,769	11,370
2015年度	8,612	1,826	10,438
2016年度	10,165	2,220	12,385
2017年度	13,748	2,585	16,333

#### 4) 外部開放

##### ①概要

平成16年度より、18歳以上の一般の人を対象に、図書館を開放している。利用時間は、9時から授業日は19時まで、休業日は17時までとなっており、貸出冊数は5冊、貸出期限は2週間となる。初めて来館した際に身分証明書を提示してもらい、利用証を発行する。2回目以降は、入館の際に利用証提示を求めている。貸出・複写のほか、文献検索データベースの利用も提供している。

##### ②利用状況

入館者数は、微増となった。

表 学外者の入館者数および貸出冊数の推移

区 分 年 度	学外入館者数（概数）				貸出冊数
	医療関係者	他学学生	その他	合計	
2013年度	1,040	176	259	1,475	2,601
2014年度	1,027	110	434	1,571	2,275
2015年度	816	75	352	1,243	2,126
2016年度	840	118	223	1,181	2,264
2017年度	802	132	167	1,101	2,232

#### 2. 成果及び課題

資料費は年々削減されているが、貸出、閲覧、複写などの状況から雑誌や図書の利用動向を把握し、資料選定に反映させている。今後も在学生（学部生・院生）や教員から

の購入希望も取り入れ学習・研究に必要な資料要求を満たせる蔵書構築を行っていく。

雑誌については、現在増加しているインターネットで公開されているデジタル化された学術資料へのアクセスを利用者に分かりやすく提示するなど、利用可能な資料を最大限利用できるような工夫に努める。

入館者数、貸出数は増加に転じている。課題、実習との連携（コーナーの設置、利用者に分かりやすい配架、資料の紹介、カウンター対応の向上、図書館利用の広報など資料活用向上のため努める。

開学して20年以上経過し資料的価値が低くなった図書が増加したこと、研究室から移管される図書が増加したことにより、書庫の狭隘化が進んでいる。今後は重複本の除籍など、配架場所確保のための方策をとる必要がある。

以上、今後も、学生・教員の資料要求に応えられる蔵書の構築、資料活用のサポート、設備の充実に努め、学習・研究支援の場としての機能を高めていく。

### (3) 施設の利用開放状況

#### 1 概要

大学のほとんどの施設は、学内利用との調整を図りながら、「長野県看護大学行政財産の目的外使用に関する規程」に基づいて学外者に開放しており、テニスコート、グラウンド、屋内プールなどスポーツ施設の学外者利用度が高くなっている。

屋内プールについては、大学の使用しない時間帯は、長野県障害者福祉センターの南信地域における拠点である障害者水泳支援センター施設として障害者に開放している他、地元駒ヶ根市の健康教室、消防署の救助訓練等にも利用されている。

グラウンド及び体育館は、災害発生時における地域住民の避難場所となっている。

講堂は、1年に2回程度公開講座を開催しており、広く市民に利用されている。

大学南側に道路を隔てて設置されている有酸素運動コースは、ふれあい花壇に隣接していることもあり、近隣の市民の憩いの場ともなっており、随時ウォーキングなどに利用されている。

#### 2 利用実績

学外者に対する施設の開放については、学内利用との調整を図りながら行っているところであるが、利用日数、利用者数とも一定の利用がある。

学外者の利用状況

年度	施設名	テニス コート	グラウンド	屋内 プール	講堂	講義室	体育館
	平成 29 年度	利用日数	51	87	285	0	1
利用者数		823	1,647	9,046	0	44	240

#### 3 課題及び方策

市民の交流によって地域に開かれた大学となっており、一定の利用もあるこの状況を今後とも継続していく。しかしながら、施設開放にあたり、保安上の問題など構造的に不便な箇所があることや、経年劣化等による施設の修繕や設備改修等が懸念され、予算上の制約などにより万全な状況での開放が困難となることから、できる限り必要な予算等の確保に努め、大学運営に支障のない限り、大学施設を障害者のスポーツ活動や地域住民などへ開放していくこととしたい。

## 第2節 財政の状況

### 1 概要

#### (1) 予算、決算

本学の予算編成は県全体としての予算編成の中に組み込まれており、県の財政担当課から示される予算編成方針等に基づき予算を編成している。したがって大学独自に財政計画を策定する状況にはなく、県全体の緊縮財政の流れの中で、厳しい財政運営を強いられている。

予算執行は、県の条例、規則に基づき事務処理を行い、会計局会計センターによる検査・指導や県監査委員事務局による監査を受けながら、適正な予算執行に努めている。

#### (2) 外部資金の獲得

県全体の緊縮財政の流れの中で、教育を支える研究活動を積極的に行うため、外部競争資金の獲得を図っている。

### 2 実績

#### (1) 予算、決算の状況（平成29年度）

歳入は、大学の自主財源である学生納付金（授業料など）が約3割、県の一般財源が約7割を占めている。県立大学として、教育研究活動を安定的に遂行するために必要な財政基盤を確立している。

歳出は、教職員及び非常勤講師等の人件費が約7割、大学の管理運営に必要な物件費が約2割、教育研究に必要な物件費が約1割を占めている。

（歳入）

財源、歳入科目等			予算額（円）	決算額（円）	構成比
特定財源	自主財源	使用料	214,024,000	197,368,582	20.9%
		授業料			
		寄宿料	5,451,000	5,345,400	0.6%
		行政財産使用料	36,000	58,853	0.0%
	手数料	入学料	24,939,000	25,774,800	2.7%
		入学審査料	7,259,000	6,143,800	0.6%
		証明事務手数料	38,000	42,400	0.0%
		財産収入	296,000	296,703	0.0%
		諸収入	83,342,000	19,004,423	2.0%
		計	335,385,000	254,034,961	26.8%
	基金繰入金	2,940,000	2,450,000	0.3%	
	計	338,325,000	256,484,961	27.1%	
県債			110,000,000	54,000,000	5.7%
一般財源			599,752,207	635,984,590	67.2%
合計			1,048,077,207	946,469,551	100.0%

（歳出）

歳出科目等	予算額（円）	決算額（円）	構成比
報酬	12,040,000	11,550,866	1.1%
給料	342,684,000	350,036,820	37.0%

職員手当	178,552,000	181,803,678	19.2%
退職金	3,167,805	58,226,115	6.2%
共済費	107,709,311	110,390,015	11.7%
賃金	10,007,368	9,263,754	1.0%
報償費	20,060,000	9,013,938	1.0%
旅費	19,177,250	14,871,967	1.6%
交際費	43,000	16,200	0.0%
需用費	69,149,000	64,531,525	6.8%
役務費	9,538,000	7,654,507	0.8%
委託料	238,381,000	97,169,285	10.3%
使用料及び賃貸料	22,116,000	19,201,114	2.0%
工事請負費	10,868,000	10,000,800	1.1%
備品購入費	1,250,000	405,540	0.0%
負担金・補助金及び交付金	3,233,473	3,175,627	0.3%
公課費	101,000	157,800	0.0%
合計	1,048,077,207	946,469,551	100.0%

### 3 課題及び方策

- (1) 県予算全体の緊縮傾向が続く中、固定的経費である人件費の割合が高まっているため、物件費の効率的な予算執行が求められている。限られた予算を有効に活用するためには、物品購入等にあたり積極的に競争原理を導入する必要がある。
- (2) 看護の発展に寄与する優秀な人材を確保、育成するとともに、安定的な財源を確保するために、学部生、大学院生及び認定看護師養成課程受講生の積極的な募集を行う必要がある。
- (3) 施設、設備の適切な維持管理を行うことは、安全、安心な大学生活を送るために欠かすことができないが、十分な予算が確保できていない。計画的な修繕・改修を行うため粘り強く予算の確保に努める必要がある。
- (4) 教育を支える研究活動を積極的に行うため、更なる外部資金を獲得していく必要がある。

## 第8章 自己点検・評価総括

平成 29 年度の自己点検・評価の総括として長野県看護大学の中期構想の観点、その他の課題から総括する。

### 1. 長野県看護大学の中期構想

平成 26 年度より策定された、長野県看護大学の中期構想について 4 年目の状況について評価すると共に、4 年間の総括をする。中期構想では、長寿県としての長野県民の健康を支える役割を担うこと、豊かな人間性と看護の心をたずさえた看護職者の育成を目指しながら、学部教育の充実、大学院教育の強化、看護実践国際研究センターの強化、大学改革の推進を進めた。

#### 1) 学部教育の充実

- ① 健康センターに専任の講師を配置していたが、健康センターの懸案事項が解決していることから当面専任の配置をしないこととし、学生支援体制の見直しを行った。専任の講師に代わり、必要時外部相談員に依頼する体制を整えるとともに、学部長、研究科長に情報を一元化することとした。また、学年顧問は学部長の指揮のもとに位置付けた。年度末には健康センター会議を開催し、センターとしての活動を総括し教授会報告している。
- ② 平成 26 年末に看護連携型ユニフィケーション事業推進の一環として 4 つの臨地実習施設と基本協定を締結し、平成 27 年度は教育連携・相互研修・研究交流を軸とした教育の協働の取り組みがスタートした。平成 28 年度より組織として、看護実践国際研究センターの自治体連携部門のチームに位置づけ継承することになった。
- ③ カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを策定し、それに連動させてアドミッションポリシーの見直しを行なった。平成 28 年度より 3P を整備した教育がスタートしたことから、引き続いて教育の評価に関する PDCA サイクルについて取り組んでいく。また、文部科学省が大学における看護系、モデル・コア・カリキュラムを、日本学術会議 健康・生活科学委員会 看護学分科会が大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 看護学分野を策定した。加えて、日本看護系大学協議会において看護学士課程におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標について検討されており、将来的に分野別評価が行われていくことを視野に入れ、今後、評価委員会に設置した教育の質保証小委員会においてカリキュラム等の点検評価を行なうこととしている。
- ④ 学生支援の充実を図るため初年時教育の検討を進め、平成 28 年度よりスタートアップセミナーを始め、29 年度も引き続き実施された。
- ⑤ 災害教育の充実の一環として、大学に防災委員会を位置づけ、防災マニュアルの策定、防災訓練の充実、安否確認メール訓練など行った。

また、看護実践国際研究センターに、国際看護・災害看護部門を位置づけ活動を推進している。駒ヶ根市日赤奉仕団への参加や災害支援のサークルについても平成 28 年度より活動がスタートしている。平成 29 年度は、防災ハンドブックを配布するとともに、地震体験車による体験、防災訓練での学部生を対象としたシェイクアウト訓練

や煙体験を実施した。

- ⑥ 同窓会の事務室を非常勤講師宿舎に設置した。平成 29 年度に同窓会から大学に図書  
の寄付があった。また、岐阜県立看護大学同窓会の役員が本学を視察し、互いの大学  
における同窓会活動など意見交換を行い交流した。
- ⑦ 後援会費の見直しを検討し、後援会理事会を経て総会で決定した。大きくは、実習  
経費を別途入学時徴収することにして、後援会費から切り離した。そのため後援会費  
としては減額とし、平成 29 年度より開始した。さらに、一部学生の負担となる高額な  
実習経費の建て替え払いによる対応を改善した。
- ⑧ サークル活動への特別な支援として、後援会の特別支援枠 20 万円の中で大会参加の  
交通費などを支援した。楽器の購入については、計画的に進めて行く予定である。
- ⑨ 4 年次生を対象とした学長との学生面談は、時間割の関係で面談日程を組むことが  
困難となり、平成 28 年度から国家試験模試の日程に合わせクラスに入り講話を行い、  
平成 29 年度も同様に行った。
- ⑩ 編入試の中止による学部選抜枠並びに定員の検討については、文部科学省の高大接  
続連携事業の推進に伴う大学入試改革とともに検討し、平成 33 年度入学から実施する  
予定である。
- ⑪ 平成 28 年度から科目の成績評価を評価点で評価することとし、学内でその活用につ  
いて検討することとした。
- ⑫ 学部には里山看護学教育を浸透させるべく平成 27 年秋にワーキンググループを立ち  
上げたが、教員の体制など課題がある中で中座している。

## 2) 大学院教育の強化

- ① 研究科組織の明確化については、平成 26 年度よりスタートさせている。平成 29 年  
度も該当する教員の審査を行い研究科委員会で確認された。
- ② 大学院生の安定的な確保については、入試問題の見直しを検討し、平成 29 年度入試か  
ら CNS の入試科目にある英語を課さないことを決めた。さらに、遠隔授業の拡充の  
ための環境整備や卒業生・修了生を送り出している病院を訪問する等、大学院生の獲  
得に取り組んだ。平成 29 年度には 6 名の修士課程、1 名の博士課程の学生の入学が決  
まった。また、平成 29 年度に入試部会において英語の出題について検討し、博士前期  
課程については、英語試験を廃止することとした。引き続き、病院訪問等や看護連携  
型ユニフィケーション事業協議会等により、大学院生獲得を推進していく。
- ③ カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー、アドミッションポリシーは、平成 27  
年度よりスタートしており、教育評価に関する PDCA サイクルに取り組んでいる。平  
成 29 年度には、学生に対する聞き取りに加え、修了生へのアンケートにより教育評価  
を行った。
- ④ 論文博士の取り扱いについては、現在の内容を確認整備し、平成 31 年便覧に掲載  
していく予定である。
- ⑤ 病院、教育機関等との人事交流については、教員や看護職員が充足していない状況  
にあるが、その必要性があれば随時対応していく。

⑥ 平成29年度に小児看護と老年看護のCNSコース38単位の申請を行い、認定された。

### 3) 看護実践国際研究センターの強化

- ① 創立20周年を期に平成28年度より部門の名称の見直しと内容の充実を図ることを目的として看護実践国際研究センターを再編し、「看護地域貢献活動研究部門」、「国際看護・災害看護活動研究部門」、「学外機関連携部門」、「キャリア形成支援部門」、「認定看護師教育部門」の5つの部門とした。同センターは、看護における臨床・教育・研究の統合（アカデミックナーシングプラクティス）の機能をもつ活動の拠点として、その使命を果たすことにより、さらなる大学の発展を図ると共に地域社会に貢献することを目指している。平成29年度は計画を引き続き推進し、各プロジェクトの活動や、各部門の活動の充実につながった。この結果は、看護研究集会で報告するとともに活動実績報告書を作成した。
- ② 認定看護師部門では、県の方針の確認やバックアップを求めながら入学者数を確保すると共に、認定看護師教員の主任教員・専任教員体制の整備に取り組んだ。平成29年度からは、これまでに99人の修了生を輩出した感染管理の教育部門を休止し、それに伴って、認知症看護分野の定員を25名とした。平成29年度入試では面接や専門科目の問題などの見直しを行い、受講生を選抜する体制を整えた。また、平成30年度は全学的体制により実施し、前年度に引き続いて1次試験で受講生の確保ができた。今後は、日本看護協会で検討されている認定看護師の教育内容の見直しの動向を注視しながら、本学の認定看護師教育の継続について検討していく必要がある。また、本学を修了した感染管理認定看護師を核とした連携や協力体制の構築を課題としている。
- ③ 看護大学研究集会の長野県看護学会への発展のための体制整備については、平成29年度以降大学の課題が山積している中で、学内合意を経て推進していくことは困難な状況にあるため、当面は長野県看護研究集会の充実を図り運営していくこととした。なお、県内病院等へのご案内は、看護ユニフィケーションに関連している病院に行う等工夫し、発表演題も定着している。
- ④ 国際交流の流れが加速しており、海外からの訪問（中国、台湾、ドイツ、インド、ネパール）が多かった。揚州大学からは客員研究員の受け入れを行った。今後も、国際交流の継続を進めながら、大学間交流が深められるような取り組みを進めていく。
- ⑤ 平成29年度に岐阜県立看護大学のFD委員会並びに看護研究センター担当者3名が研修のため来学し、本学教員との交流を図った。
- ⑥ 県内看護職者との共同研究や特別研究・課題研究の審査を看護実践国際研究センターの看護地域貢献活動研究部門に研究審査担当として位置付けた。特別研究では、特別A研究、若手研究、課題研究として、おおむね研究費についても上限を定めた。平成30年度に向けた公募では、県内看護職者との共同研究のついて1件30万円を上限とし、一機関3件までの応募とした。また、病院への募集案内は実習施設のみとした。
- ⑦ 卒業生に対するキャリア形成の節目に遭遇する課題を支援するため、平成28年度から卒業生相談窓口を設置した。
- ⑧ 出前講座事業が平成29年秋からスタートし、3件の出前講座が実施された。次年

度に向けた依頼もあり、少しずつではあるが事業が定着しつつある。

- ⑨ 看護連携型ユニフィケーション事業は、平成 29 年度に新たに 1 施設を加えた 5 臨地実習施設と協議会を開催し、実施している。平成 29 年度の主な事業は、看護研究研修の開催、大学教員の現場研修、臨床指導者の教育への参画、臨床指導者研修会の開催、その他領域と病院との看護職者の連携や大学院の講義の聴講などであった。

#### 4) 大学改革の推進

- ① 大学の運営資金を有効活用し、学内の教育備品等の全体を把握して優先度を定め整備するため、平成 29 年度にも検討を行った。教育資材の全学的なニーズ調査を行い、備品についてはその必要性を確認し、優先度をつけて購入を進めた。今後も計画的に必要な物品の整備を図っていく。

また、大規模設備の改修については県との交渉の結果、平成 28 年度に教育棟のエアコンの工事を行った。また、県のモデル事業である ESCO 事業を活用し、平成 29 年度からは LED 照明・窓枠の交換を、平成 30 年に熱交換機の交換を行う予定である。引き続き、外壁モルタルや電話交換機、平成 30 年 1 月の強風で剥がれたプール棟屋根の改修等について県と相談しながら対応していく。

- ② 図書館の人員削減について平成 26 年度の決定を受け、外部委託の可能性についてワーキングを立ち上げて検討を行った。他大学の視察を行い、それをもとに引き続き検討を進めたが、最終的には業者委託はせずに現体制の中で行っていくことが決まった。さらに経費の削減に向けた見直しの中で PsycINFO の契約を中止し継続しないことを決定した。教員や学生に対するサポートを行い、中止に伴ったサービスの低下としないようにした。また、JAIROCLOUD 継続加入を決定した。

平成 29 年度には本学において日本医学図書館協会の北信越地区会定例会が開催された。

- ③ 大学の在り方を検討するため、平成 26・27 年度に独立行政法人で運営している大学の訪問を行った。1 法人 2 大学の大学には県職員も同行し、結果は教授会に報告した。また、平成 28 年度には FD・SD 研修として、公立大学協会事務局長による「看護系の公立大学の現状」について研修会を行った。引き続き、法人化に関する検討を継続していく。

- ④ 平成 28 年度には欠員となっていた成人・基礎・看護管理の教授 3 ポストを充てることのできた。平成 29 年度には 3 分野の助教から講師への昇任の提案を行い、人事を確定した。引き続き、小児看護学及び成人看護学分野の教授・准教授・講師のポスト、基礎看護学分野及び母性助産看護学分野の講師・准教授のポスト等の人事が課題であるが、情報収集と柔軟な人事配置を進めていく必要がある。

- ⑤ 学校教育法に基づく大学評価について、平成 23 年度受審時に指摘された努力課題について、平成 27 年 7 月末に大学基準協会へ報告を行った。今年度は、平成 30 年度受審に向け、専門部会を設け準備を進めた。

## 2. その他の取組

### 1) 公的資金の不正利用に関する規則等の整備

不正利用に関する旧規定を廃止し、平成 27 年度に新たに公的研究費に係る不正防止対策の基本方針を定め、管理監査に関する規定、事務処理手続きの基本ルール、研究活動における不正行為への対応に関する規程、不正防止計画を整備した。平成 28 年度からは、内部監査チームを指名し研究費の不正に関するモニタリングを行っている。

### 2) 研究活動に伴う倫理教育の実施と e ラーニング研修の継続

グリーンブックの e ラーニング教材の完成に伴い、平成 28 年度に全員研修を受けることとした。また、CITI JAPAN の試験的導入により自主研修を促し、ほぼ全員が研修を終えた。

### 3) 研究倫理に関連した本学の規定、倫理申請に関する見直し

平成 29 年度に文部科学省が示している研究倫理に対する定めの変更に伴い、本学の諸規定並びに倫理に関する書類の内容の見直しを行った。周知にあたり、説明会を開催した。

### 4) 動物実験委員会の外部評価

平成 29 年 1 月に国立大学法人動物実験施設協議会・公私立大学実験動物施設協議会動物実験に関する外部事業による外部評価を受けた。動物飼育環境の向上に向けた課題として、動物を毎日観察するなどマニュアルを具現化し、よりきめの細かな対応に向け取り組んでいる。廃止届等の一部未整備の書類については、平成 29 年度に対応した。

### 5) 教員評価

#### ①業務評価と職務遂行能力評価の検討と導入

教育公務員特例法の改正に伴い、公務員としての業務評価並びに職務遂行能力評価を検討し導入した。従来の業績評価とは異なり、業務評価は年度当初に自己の業務目標を掲げ、それを中間と年度末に評価した。また、職務遂行力評価の評価項目の設定については、本学独自の内容を検討し、教員の行動指針となる内容とし、年度末に評価した。

#### ②業績評価

平成 24 年度に実施したものを基本とし、教員からの要望や意見を踏まえて評価項目等の見直しを毎年実施している。平成 29 年度は、大学教員の仕事の枠組み、教育・研究・地域貢献・大学運営に対し、さまざまな大学の課題に取り組む上で大学運営並びに地域貢献に対するウエイトを上げる見直しを行った。また、翌年度からは業績評価の趣旨から考えて退職の有無にかかわらず評価対象とすることとした。

### 6) 競争的資金に係る間接経費の使用方針について

これまでは国の定めに基づいて運用していたが、平成 29 年度から間接経費の使用方針を明確にした。教員の研究者としての学会年会費に対する使途を明確にするとともに、研究倫理に関する CITI JAPAN e ラーニングの受講費を対象とした。今後も必要に応じ検討していく。

### 7) 委員会の名称変更

平成 29 年度より FD 委員会の規定を変更し、SD の位置づけを明確にするとともに、名称を FD・SD 委員会とした。

8) 沿革の明示

平成 29 年度より学生便覧、大学院学生便覧に、本学の沿革を加え、学生、教職員の本学の成り立ちと今日までの歩みに対する意識を高めることとした。

9) 大学ホームページの充実

ネットワーク推進委員会の協力を得ながら洗練させ、効果的な内容とするための修正を行った。英語版の準備をすすめ、バナーを作りアップできるところまで整備した。

10) 学長選挙等

学部長並びに研究科長選考規定の一部見直しを行った。また、平成 30 年度の学長、学部長、研究科長選挙を実施した。

11) 客員研究員

平成 27 年度に臨床教授や研究機関の職に就いていない博士後期課程の学生等を支援するため、客員研究員規程を整備した。これまでに 2 名の客員研究員を迎え、科研費による研究を行うための環境を整備した。また、揚州大学から 2 名の外国人客員研究員の受け入れを行った。

12) 特別講座

健康増進や看護に係る製品開発等を行う地元企業等を支援するとともに、学生の教育に役立てるため、平成 27 年度に特別講座の開催を決定した。現在も、基礎看護学分野においてタカノによる特別講座が継続されている。

13) タグライン

20 周年記念事業で平成 26 年度に策定したタグラインは様々なところで活用されている。今後はタグラインに込められた意味についても広めていく必要がある。

学長 清水嘉子

自己点検・評価報告書（平成 29 年度分）

2018 年 9 月発行

編集 長野県看護大学 評価委員会

発行 長野県看護大学

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂 1694

TEL 0265-81-5100 FAX0265-81-1256

印刷 榊宮澤印刷



長野県看護大学